

も く じ

◆はじめに	P 1
◆報告書の発行に寄せて ～ゴールドマン・サックス証券株式会社からのメッセージ～	P 3
第1章 「アウトリーチ・プロジェクト」について ～目的、内容、成果、課題～	P 7
第2章 退所生へのアンケート調査について	P 19
第3章 退所生および施設へのヒヤリング調査について	P 47
第4章 児童養護施設退所生のアフターケアを考える	P 79
◆まとめにかえて	P 82

参 考 資 料

【資料1】プロジェクト関連書類	P 87
【資料2】退所生アンケート調査単純集計	P101
【資料3】退所生や施設からの手紙	P147
【資料4】施設が考える「今後必要な社会的支援」	P 14

はじめに

東京ボランティア・市民活動センターとグローバルな金融機関であるゴールドマン・サックス（以下、GS社）は2011年から、東京都の児童福祉施設の子どもたちが4年生大学に進学することを支援するプロジェクトを実施してきました。

当時、児童養護施設にボランティアに行ったGS社の役員・社員の方々が知ったのは、施設の子どもたちが経済的理由により大学進学をあきらめていること。また、進学してもバイトに追われ、授業やサークルには出られず、孤立化し、中退することが多いという事実でした。

そこで、GS社と本センターが協働し、大学4年間の授業料全額と毎月の生活費などを給付する大型の奨学金を創設しました。さらに、子どもたちを精神的に支えるために、本事業のケースワーカーと施設職員が毎月子どもたちと面談しながら伴走し、本センター所長も入った職員チームで本事業を運営しています。

この進学プロジェクトについては、行政や大学、助成団体からも問い合わせが多くあり、その後、各種奨学金が誕生しています。そして、今年の春からは国の給付型奨学金がスタートしました。

そんな折、児童福祉施設から「新型コロナウイルスで退所生たちの仕事やバイトがなくなり、生活に困っている」という連絡が入ってきました。退所生の孤立化も心配でした。ちょうど、その時に、GS社から「コロナ禍の児童福祉施設の子どもたちに対して何かできないか」というありがたいご相談をいただきました。

そして、今まで進学支援プロジェクトでもお世話になっている杉並学園の麻生信也施設長にアドバイスをいただいたり、GS社の持田昌典社長と上田彰子取締役ともオンライン会議で何度か打合せをさせていただき、全国の児童養護施設が退所生に支援を届ける『アウトリーチ・プロジェクト』が企画されたのです。2020年11月現在までに、全国187か所の施設にご協力いただき、2,509名の退所生を支援しています。

なかなか新型コロナが収まらず、退所生を取り巻く状況はますます厳しくなっています。本プロジェクトの取り組みについて関係者の皆様にご報告させていただき、ぜひ、退所生への緊急時および平常時のアフターケアについて一緒に考えていただければ幸いです。

文末になりましたが、ご協力いただきました全国児童養護施設協議会、NPO法人 NPO STARS、児童養護施設の皆様、また、アンケートやヒヤリング調査に協力してくださった1,871名の退所生の皆様、そして、本報告書の作成にご尽力いただいた法政大学の岩田美香教授に心よりお礼申し上げます。

2020年12月吉日

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
東京ボランティア・市民活動センター

団 体 紹 介

1. 主催：東京ボランティア・市民活動センター（TVAC）

東京ボランティア・市民活動センターは市民による営利を目的としない社会貢献活動を推進・支援するために1981年に設立され、社会福祉法人 東京都社会福祉協議会が運営している。ボランティアやNPOの支援、企業の社会貢献活動や災害時のボランティア活動などに力を入れている。ゴールドマン・サックスとは、2011年より「ゴールドマン・サックス・コミュニティ支援プログラム」を実施し、児童福祉施設の子どもたちの大学進学支援に取り組み、これがモデルとなり、行政や大学、民間企業の奨学金制度が生まれていった。

2. 資金提供：ゴールドマン・サックス（GS）

ゴールドマン・サックスは、投資銀行業務、証券業務および投資運用業務を中心に、企業、金融機関、政府機関、個人など多岐にわたるお客様を対象に幅広い金融サービスを提供している世界有数の金融機関。1869年に創業、ニューヨークを本拠地として、世界の主要な金融市場に拠点を擁している。新型コロナウイルス対応に直接関与する団体の活動に対して世界規模で助成を行うため、2,500万ドル規模のCOVID-19支援基金を立ち上げた。

3. 協力：全国児童養護施設連絡協議会（全養協）

全国児童養護施設協議会は、全国607か所の児童養護施設のネットワーク組織として、児童養護事業の発展と向上をめざし、児童福祉を推進するために全国的な連絡調整や事業に関する調査・研究等を行うことを目的としている。社会福祉法人 全国社会福祉協議会に事務局がある。

4. 協力：NPO法人 NPO STARS

NPO STARSは全国にある児童養護施設や乳児院、母子生活支援施設などの社会的養護関連施設で働く職員たちが会員となり、公益財団法人 資生堂社会福祉事業財団主催の児童福祉海外研修によって得た、海外の児童福祉（社会的養護家庭的養護）に関する様々な最新情報や、会員それぞれの所属する児童福祉施設現場での日々の実践から得た知識や技術を基に、子ども達のより良い育ちと児童福祉施設職員の専門性の向上に貢献するツール等の開発を行っている。

報告書の発行に寄せて

ゴールドマン・サックスでは、子どもの貧困問題を重要な社会課題と位置付け、15年ほど前から様々な支援を通じてこの問題解決に取り組んでいます。

特に2020年は新型コロナウイルスの影響により、貧困家庭やその子どもたちは金銭的・精神的に厳しい状況に置かれており、様々な形での迅速な支援が求められました。そこで私たちはコロナ禍に苦しむ子どもたちを助けるため、4つのプログラムを立ち上げました。そのうちのひとつが児童養護施設の退所生に支援を届ける「アウトリーチ・プロジェクト」でした。このプロジェクトは単に退所生に物資を送るためだけのものではありません。彼らや彼女たちの現状を把握し、施設との「つながり」を再構築するきっかけを作るためのものでもあります。

コロナ禍でアルバイトや仕事なくなるなど、アンケート結果からも退所生の生活が厳しい状況に置かれていることは明白です。人と人が直接つながりにくい状況だからこそ、このプロジェクトが全国の児童養護施設の職員と退所生の絆を強めるものになってくれればと心より願っております。

最後になりましたが、今回のプロジェクトの実行に際して多大なるご尽力をいただいた東京ボランティア・市民活動センターの皆様にお礼を申し上げます。

ゴールドマン・サックス証券株式会社
取締役 上田 彰子

第1章「アウトリーチ・プロジェクト」について

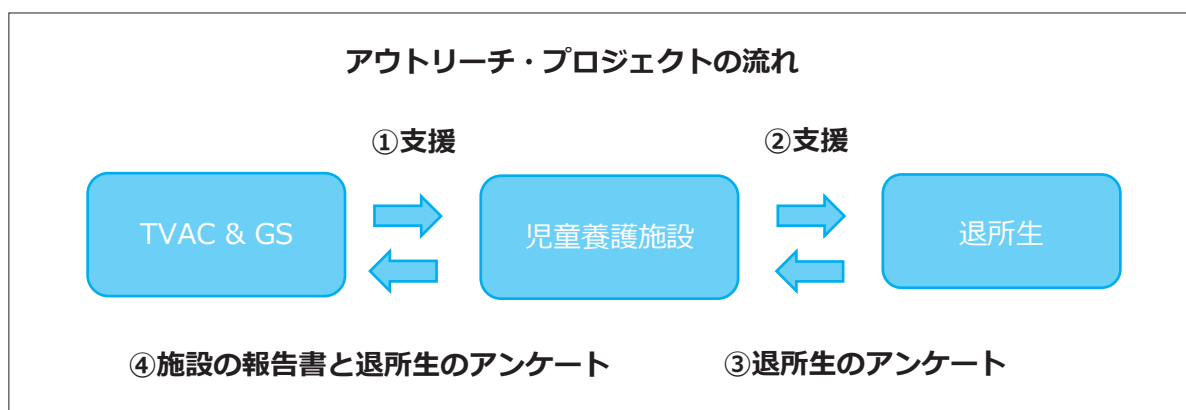
1. プロジェクトの目的	P 7
2. プロジェクトの背景	P 7
3. 支援対象	P 7
4. 主 催	P 7
5. 資金提供	P 7
6. 協 力	P 8
7. 実施内容	P 8
8. 本プロジェクトの成果と課題	P12

第1章「アウトリーチ・プロジェクト」について

1 プロジェクトの目的：

新型コロナウイルスの影響で厳しい状況におかれている児童養護施設の退所生たちに対して、施設とのつながりを強化し、施設によるアフターケアを支援する。

また、本プロジェクトを通して把握した退所生や施設のアフターケアの状況について広く社会に伝え、支援を拡大していく。



2 プロジェクトの背景：

虐待や障害などの理由で親と暮らせない子どもたちが生活している児童養護施設は都内に64か所、全国では607か所あり、入所児童の数は東京都で約3,000名、全国で約3万名となっている。

通常18歳になると児童は施設を出て、就労または進学をし、自立した生活を始める。しかし、労働条件の悪い仕事に就いていたり、職場や大学、家族の人間関係、健康、子育てなど、さまざまな課題を抱えている退所生が少なくない。今回の新型コロナウイルスの影響で、こうした退所生はさらに厳しい状況に陥っているが、自分から支援を求められずに孤立化している人も多いことが懸念された。

また、児童養護施設を退所した人たちのアフターケアを充実させるために、東京都内の施設には自立援助コーディネーターを配置しているが、来年度からは全国の児童養護施設にも自立支援専門員の配置が可能となった。今後、施設がどのようにアフターケアを進めていくのが課題となっている。

3 支援対象：

全国にある児童養護施設（607か所）および 施設を退所した者（以下、退所生）

4 主催：

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センター

5 資金提供：

ゴールドマン・サックス（以下、GS社）

6 協 力：

全国児童養護施設協議会（全養協）および NPO法人 NPO STARS

7 実施内容：

まず、1次支援として、全国の児童養護施設に、退所生へのケアパッケージを送る支援を呼びかけ、その資金を助成するとともに、そこから見えてきた個別支援が必要な退所生へのアフターケア経費（交通費、食事代、通信費など）を施設に助成した。そして、2次支援として、経済的な支援を必要とする退所生に緊急支援金を助成した。

また、新型コロナがなかなか収束しないため、3次支援として、施設のアフターケア経費を追加助成する。

さらに、緊急時および平常時における児童養護施設の退所生へのアフターケアを関係者とともに検討するために、本プロジェクトの取り組みと成果や課題を本報告書にまとめ、関係者に配布する予定である。

以下、本プロジェクトで取り組んだ内容を、施設からの報告の内容も含め、具体的に記載する。

アウトリーチ・プロジェクトの実施内容

- 1) 【1次支援】退所生へのケアパッケージの送付：2020年5月～8月
- 2) 【1次支援】施設による個別の追加支援：2020年6月以降
- 3) 【2次支援】退所生への緊急支援：2020年7月～10月
- 4) オンラインでのヒヤリング調査の実施：2020年10月～11月
- 5) 本報告書の作成：2020年11月～12月
- 6) 【3次支援】施設によるアフターケア経費の追加助成：2021年1月予定

1) 【1次支援】退所生へのケアパッケージの送付（2020年5月～8月）

各児童養護施設が退所生に以下のような支援を届けながら、コロナ禍における生活状況やニーズを把握した。なお、各施設の負担を軽減するため、下記の送付物の内、②④⑤を本センターで作成し、透明な封筒に入れ、各施設に退所生の人数分を送付した。

- ①施設から退所生にあてた手紙
- ②主催団体からの手紙
- ③救援物資
- ④支援情報
- ⑤アンケート用紙と返信用封筒

1次支援では、全国の187か所の児童養護施設が参加・協力してくださり、施設を通して、2,509名の退所生にケアパッケージを届けることができた。全国607か所の児童養護施設の約30%の施設が参加したことになる。

本プロジェクトへの参加施設の募集を開始した5月29日は、緊急事態宣言が5月25日に解除されたばかりで、入所している子どもたちの学校再開の体制がまだ整っておらず、

子どもたちへの対応で施設が大変だった時期だった。そもそも、退所生へアフターケアを行う職員体制や予算がないところが多く、退所生たちが心配だが、なかなか支援に踏み出せないところが多かったようだ。

また、退所生に支援を早く届けようとしたために、本プロジェクトへの申請期間が11日間と短く、施設側の準備が整わないところもあった。そこで、6月11日より14日間、第2回募集を行うことにした。

今回のプロジェクトに参加した施設からの報告書には、「コロナ禍で退所生に支援をしたくてもできなかったが、このプロジェクトが背中を押してくれた。」、「退所生が喜んでくれて、お礼の連絡が来た。」、「なかなか連絡がつかなかった退所生と連絡がついた。」、「思っていたよりも深刻な状況の退所生がいることがわかった。」というコメントとともに、お礼の言葉を全施設からいただいている。

以下、ケアパッケージにいったものについて説明する。

①施設から退所生にあてた手紙 【資料1-1】P87参照

施設が退所生の状況を心配していることや困ったことがあれば施設に連絡してほしいことを伝える内容のもの（できれば手書き）を同封するようにお願いした。

退所生に宛てて、担当した職員や後輩の子どもたちからのメッセージを送っていただいたことによって、コロナ禍で不安を抱えていた退所生たちが、施設とつながり、安心したようだ。

②主催団体から退所生への手紙 【資料1-2】P88参照

本センターより退所生に本プロジェクトについてできるだけ簡潔にわかりやすく説明するように心がけるとともに、アンケートへの協力を依頼した。

③救援物資 【資料1-3】P89参照

保存のきく食料やマスクなど、生活に必要なものを各施設から退所生に送付していただいた。退所生の状況によっては一部、商品券でも可能とした。1人当たり5,000円（送料込み）程度で、1施設上限10万円とした。退所生が20名以上の場合は、1人当たりの単価で調整していただいた。

どのような退所生を対象に、何を送るのかは各施設の判断にお任せした。事前に、退所生に連絡をし、何がほしいかを確認した施設も多かったようだ。その結果、当時はまだ高値で品薄状態が続いたマスクや消毒液などの衛生用品や、生活困窮し食事を切り詰めている退所生には米やレトルト食品などの保存が効く食品、日用品などを送っている。また、子どものいる退所生にはおむつや子ども服、お菓子などを送る施設もあった。こうした作業は、コロナ禍で施設にとっては大変だったと思われるが、職員の気持ちが退所生に届き、退所生から施設にお礼の連絡があった。

なお、退所生によってニーズが異なるので、ケアパッケージの一部を商品券やプリペイドカードなどにすることも認めたが、その場合は、ゲームの課金や嗜好品などではなく、生活に必要なものを購入するように施設から退所生に伝えてもらっている。

施設によっては、退所生と一緒に必要なものを買に行ったり、家庭訪問して届けたり、

あるいは、施設に取りに来てもらった。直接、顔を見て話すことで、退所生のアンケートには書かれていないことも把握することができたようだ。

④ 支援情報 【資料 1 - 4】 P91参照

国や民間の給付金や助成制度などの支援情報を本センターが作成し、各施設がその地域や施設独自の支援情報を追加して同封した。

退所生の中には、新型コロナ関連の支援情報を知らない者もいたり、手続きの仕方がわからない者もいたようだ。こうした退所生に施設が支援情報をわかりやすく説明し、申請手続きのサポートをしている。

支援の中には、退所生が直接、申請しなければいけないものが多いが、本プロジェクトは施設を経由した支援とすることによって、退所生とのつながりを強化したり、退所生が支援を確実に受けられるという効果があったようだ。

⑤ アンケート用紙と返信用封筒 【資料 1 - 5】 P94参照

退所生に現在の状況や困っていることなどを聞く簡単なアンケート用紙を本センターが作成し、施設宛の返信用封筒（切手付）とともに退所生に送付した。

GS社からの提案で、「ケアパッケージを送付することで退所生にリーチアウトできるのであれば、簡単なアンケートを実施し、退所生のニーズを把握して、今後の支援を考えよう。」ということになったからだ。しかし、支援を早く届けることを優先したので、アンケートの内容については、『東京都における児童養護施設等退所者の実態調査報告書』を参考にし、新型コロナの影響を追加したものを事務局で作成した。そのため、調査としては十分に精査されていない部分もあることをお許しいただきたい。

この東京都の調査内容は詳細であり、かなりボリュームがあるが、退所生の負担を減らすために、A 4判表裏のみで完結するようにした。そして、親しみやすいように、季節柄のあじさいとカエルのイラスト（カラー）も入れてみた。

さらに、回答しやすいように匿名とし、アンケートは施設に返信してもらうことにした。このことで、退所生が安心感を持つとともに、施設が子どもたちの状況を把握することができる考えたからだ。

その結果、ケアパッケージを送った2,509名のうち、1,871名がアンケートに回答してくれた。本報告書では、期限内に届いた1,851名の結果と分析を掲載している。回答率は74.6%となり、前述の東京都の調査の回答率32.4%に比べると、かなり高くなっている。アンケート結果と分析については、第2章をご参照いただきたいが、調査報告書の作成や分析を法政大学現代福祉学部・人間社会研究科の岩田美香教授にお願いした。

アンケートの自由記述欄では、「現在困っていること」は453名、「新型コロナの影響が続く中で希望する支援」は524名、「その他、希望やメッセージ」は479名が具体的に回答してくれている。【資料2】 P101に掲載しているので、退所生の声をぜひ、お読みいただきたい。

2) 【1次支援】施設による個別の追加支援（2020年6月以降）

返信のあった退所生の中で、追加支援が必要な場合、各児童養護施設の職員が連絡をし、

個別に対応していただいた。そのための交通費や食費、郵送費などの経費として1施設2万円を助成した。

施設職員は子どもたちと会って、食事をしながら話をし、それぞれの課題に対応している。今回応募のあった施設の多くが、アフターケアについての職員体制や予算がなく、職員が自己負担しているようである。施設の経費を助成することで、職員が動きやすくなったようだ。結果として、761名の退所生に施設が個別の追加支援をすることができた。

施設からの報告書には、深刻なケースが記載されている。学生でアルバイト収入が減り、1日1食で過ごしていたり、オンライン授業のための出費や孤独に悩んでいる。また、飲食業などのサービス業に非正規雇用で従事する人たちの失業や減収、ひとり暮らしの人たちが不安や孤独で精神的に不調となったり、子育て中の母親が自分の虐待されたトラウマで苦しんでいたりと、感染を恐れながらも保育園に預けて働かなくてはならないケースなど様々だ。施設はこうした退所生たちひとりひとりに寄り添いながら支援をしている。

3)【2次支援】退所生への緊急支援（2020年7月～10月）

上記のような1次支援を行った結果、生活に困窮する人が多数いることがわかり、GS社と相談して、2次支援として、緊急支援金を1人上限10万円まで助成することにした。こちら支援を急ぐために、A4判1ページの簡単な申請書を作成し、1次支援に参加した189施設に案内した。その結果、65か所の施設から139名の申し込みがあった。

そして、8月19日には、法政大学の岩田教授と本センターの山崎所長、長谷部副所長の3名からなる選考委員会をオンラインで開催した。

申請書の文字数や「生活困窮」の基準などを設定しなかったため、申請ケースの詳細がわからなかったり、現在は困っていないが、今後のために申請してきたのではないかとと思われるケースもあった。また、親にお金をせびられていたり、借金の返済のためだったり、生活保護や他制度も利用した方がよいケースもあった。こうしたケースについては、選考委員会でさらなる状況把握が必要ということになり、各施設に選考委員会の質問を伝えつつ、「アフターケア計画書」(【資料1-6】P96参照)の提出を依頼することにした。

その結果、「助成金の趣旨がわかった」、「生活状況が改善したから」という理由で、9名の辞退があり、最終的には64施設の130名に緊急支援金を施設経由で助成した。現在、施設が退所生をサポートしながら、生活の立て直しに取り組んでいる。

130名の申請理由については【資料1-7】(P97)を参照していただきたいが、仕事やアルバイトが減ったことによる減収のため、家賃や光熱費、通信費、学費等が払えないケースや食費や生活費に困窮しているケースが多い。また、体調を崩したり、出産、事故などの理由での急な出費に困っているケースや、親を援助したり、させられたりするケースもあった。本センターには緊急支援金を受けた施設や退所生からのお礼の手紙がたくさん届いている。【資料3】P147参照

そして、「受領および使途報告書」は施設と本人とで作成してもらった。領収書などの証明書の提出を求めているが、領収書を保管していなかったり、キャッシュレス決済で領収書がないというケースもあり、預金通帳の一部コピーや契約書など、使途と金額がわかるもので代替した。また、申請時から送金時の状況が変わり、資金使途を変更したいというケースもあったので、急遽「資金使途変更届」を作成し、対応した。

4) オンラインでのヒヤリング調査の実施（2020年10月～11月）

退所生のアンケート調査や施設からの報告をさらに深く理解するために、オンラインでヒヤリング調査を実施することにした。詳細については第3章（P47）をご参照いただきたい。

今回ヒヤリングはお礼のお手紙をいただいた方々の中から、退所生は、学生と一人暮らしの就労者、子育て中の母親の3名、また、都内または都外の施設でアフターケアを担当する自立支援コーディネーターの2名にお願いした。さらに、NPO法人 NPO STARSのメンバーである、全国各地の児童養護施設の職員の方々6名にはグループ・ヒヤリングをさせていただいた。

インタビュアーは法政大学の岩田教授にお願いし、協力者が話しやすいように個人名や施設名は伏せ、本人が希望する場合は映像をオフにし、音声だけで実施した。

アンケートでは把握できない退所生1人ひとりの状況や思い、施設のアフターケアの現状や職員の願い、本プロジェクトのよかった点と改善点を話していただいた。

5) 報告書書の作成と配布（2020年11月～12月）

事務局から本プロジェクトの取り組みを紹介するとともに、成果と課題をまとめた。また、退所生へのアンケート調査の結果の分析や施設および退所生へのオンラインでのヒヤリング調査を法政大学の岩田教授にご協力いただき、今後のアフターケアについてご提言いただいた。本報告書は全国の児童養護施設を始め、NPO、社会福祉協議会、行政、企業等の関係者に配布する。

6) 【3次支援】施設によるアフターケア経費の追加助成（2021年1月予定）

新型コロナがなかなか収束せず、退所生へのダメージが長びいていることから、各施設にアフターケア経費として、アウトリーチできる退所生の数に応じて、3万～6万円を追加助成する。

8. 本プロジェクトの成果と課題：

本プロジェクトの成果と課題について、施設からの報告書、退所生へのアンケート調査（詳細については第2章参照）、退所生および施設職員へのオンラインでのヒヤリング調査（詳細については第3章参照）、事務局の経験を基に考えてみた。

1) 成果：

- ①187施設が参加し、2,509名の退所生にケアパッケージを届けることができ、施設と退所生のつながりが強化された。
- ②1,871名の退所生がアンケートに回答してくれた。回収率は74.6%。施設経由でアンケートを回収することによって、退所生の状況を施設も把握することができた。
- ③1次支援で把握した課題を抱えている761名に対して、本プロジェクトの助成金を使って、施設職員が訪問したり、食事をしたりしながら、個別にサポートすることができた。
- ④生活の困窮度が高い130名については、2次支援として緊急支援金を助成し、緊急な事

態を乗り越えたり、生活を立て直すことを施設がサポートしている。

- ⑤オンラインでのヒヤリング調査によって、退所生や施設のニーズや希望をより詳しく把握することができた。
- ⑦今回の支援を退所生たちも施設も喜んでくれたようだ。
- ⑧施設は今回のプロジェクトを通して、退所生の厳しい状況を改めて知り、積極的なアフターケアの必要性を感じている。

2) 課題：

- ①新型コロナがなかなか収束しない中、退所生がより困難な状況にいることが懸念される。支援をどのように継続・拡大するのか、連絡がつかない退所生とどうつながれるのかが課題である。
- ②施設がアフターケアをする際の人的体制や予算をどう確保するか。各施設が努力し、後援会や寄付者・支援者を集めることも必要だが、公民の社会的支援のネットワークを作っていくことも必要である。
- ③来年度から全国に自立支援専門員が配置される予定だが、施設や関係者が集まり、どのような支援ができるのかを情報交換し、学びあう場が必要なのではないか。

3) 施設が希望する社会的支援

施設からの報告書の中で「今後必要な社会的資源」について回答してもらったところ、退所生への支援と施設への支援について、たくさん記載されている。それを整理したものが、【資料4】(P14参照)である。

まず、退所生に対しては、今回のような救援物資や緊急時の経済的支援が日常的にできることを希望している。さらに、施設以外の支援団体と連携したアフターケアの量的・質的な充実を求めているところが多い。

また、施設に対しては、今後アフターケアを積極的に取り組んでいくために十分な職員体制の確立や財源の確保、社会的な発信を希望としてあげている。

今回参加した施設の報告書には、このプロジェクトでアフターケアの重要性を改めて認識し、今回つながることができた退所生たちへの支援を続けたいという強いメッセージが寄せられている。こうした施設の姿勢を行政や民間がどのように支援できるのかが問われている。

施設が考える「今後必要な社会的支援」

1. 退所生に対しての支援**1) 支援を強化したい対象：**

- 就労者（就労支援、再就職支援）
- 学生（進学資金、生活費）
- 知的障害のボーダー、発達障害のある退所生
- ひとり親家庭
- 家庭復帰した退所生
- 出産・子育て中の退所生
- 遠方にいる退所生（施設訪問時の交通費）
- 退所して1～2月の退所生
- 退所して3年ぐらいの退所生
- 退所して10年ほどたつ退所生
- 今回のプロジェクトに参加できなかった退所生

2) 支援内容：

- 資金的な支援（家賃、食費、生活費、光熱費、医療費、生活の立て直しなど）
- 物品の支援（定期的なケアパッケージ、食料、マスク、消毒液、体温計、防災用品など）
- オンライン化のためのIT機材やWiFi環境
- 精神的支援（カウンセリング、孤立化防止）
- 屋根のある場所、居場所、実家のような場所
- 支援団体・人（施設以外で相談できるところ、緊急支援の窓口、ピアグループなど）
- 広域および地域のネットワーク（行政、関係団体、NPO、大学、企業など）
- 保証人
- 安否確認、声かけ
- 自立トレーニング（施設にいる間に一人暮らしや社会体験）
- 体調不良時のサポート
- 支援情報の提供（SNSやQRコードの活用、漫画・アニメーションでわかりやすいもの）
- 支援の手続きのサポート

3) 支援の方法：

- 継続的、定期的、緊急的支援
- 退所生のニーズにあわせた支援
- 退所生が自分で支援を選択できる。
- 施設経由の支援（退所生直接だと申請しない・できないことがある）

- 退所生が社会に貢献できるようになる。
- 地方は都会より支援が少ない。

2. 施設に対しての支援

1) アフターケアができる人的体制

- アフターケアができる専任の配置（東京都は既に自立支援コーディネーターを配置）
- 担当職員がアフターケアもできるように担当する子どもの数を減らす（現在、東京都は1職員あたり6名、都外は8名）
- アフターケアに組織として取り組む。

2) アフターケアができる財源

- アフターケアのための支援物資経費、交通費、通信費、食費など（現在は職員個人の負担になっている施設が多い）
- 施設ごとの後援会や寄付者

3) 社会的発信

- 社会的養護の子どもたちや施設への理解促進
- 社会的養護の子どもたちや施設への支援活動

第2章 退所生へのアンケート調査について

1. 調査の概要 P19
 - 1) 調査の目的
 - 2) 調査対象者
 - 3) 調査の実施時期
 - 4) 調査の方法
 - 5) 回答数
 - 6) 調査内容

2. 退所生へのアンケート調査結果 P20
 - 1) 回答者の基本属性
 - 2) 仕事について
 - 3) 新型コロナの影響と相談相手
 - 4) 支援の状況と今後の要望

第2章 退所生へのアンケート調査結果について

1. 調査の概要

1) 調査の目的：

児童養護施設の退所生に対して、新型コロナウイルスの影響下における生活状況や必要な支援について把握し、その結果を社会的養護の関係者や広く社会に発信することで、支援の拡大を目指す。

2) 調査対象者：

アウトリーチ・プロジェクトに参加を申し込んだ187か所の児童養護施設がケアパッケージを送った2,509名の退所生

3) 調査の実施時期：

2020年5月～8月

4) 調査の方法：

施設からケアパッケージとともに、匿名のアンケート調査票（A 4判表裏2ページ）を退所生に郵送またはメールで送信または直接手渡す。回答した調査票は施設が回収し、東京ボランティア・市民活動センターに送付する。

5) 回答数：

1,871名（回答率：74.6%） その内、期限内に届いた1,851名を分析

6) 調査内容：

Q 1 本人について（性別、年齢、属性、現在の住所、同居者、施設との連絡）

Q 2 新型コロナによる生活の変化

Q 3 現在困っていること

Q 4 現在の仕事の状況

【働いている場合】

業種、雇用形態、新型コロナ感染拡大前の月収、新型コロナによる減収

【働いていない場合】

働いていない理由

Q 5 現在受けている公的支援

Q 6 困ったことを相談する相手

Q 7 今後希望する支援

Q 8 その他、希望やメッセージなど

2. 退所生へのアンケート調査結果

【分析】法政大学 現代福祉学部・人間社会研究科 教授 岩田美香

1) 回答者の基本属性

①性別と年齢、属性

最初に回答者の基本属性について見ていく。回答者の性別は、男性が822名（構成比44.4%）、女性が1008名（54.5%）である【表1】。年齢階層では、10代が564名（30.5%）、20代が1,158名（62.6%）であり、両者を合わせると9割を超える【表2】。

年齢階層別の性別では、10代では男女差はほとんどないが、20代では男性が43.4%に対し女性が56.5%、30代以上では男性34.7%に対し女性が65.3%と、女性の回答者が多い【表3】。

表1 回答者の性別

	回答数	%
男性	822	44.4
女性	1,008	54.5
その他	4	0.2
無回答	17	0.9
合計	1,851	100.0

表2 回答者の年齢階層

	回答数	%
10代	564	30.5
20代	1,158	62.6
30代以上	126	6.8
無回答	3	0.2
合計	1,851	100.0

表3 年齢階層別の性別（上段：人、下段：%）

		合計	性別			
			男性	女性	その他	無回答
年齢	10代	564	279	277	3	5
		100.0	49.5	49.1	0.5	0.9
	20代	1158	501	652	1	4
		100.0	43.3	56.3	0.1	0.3
	30代以上	126	42	79	0	5
		100.0	33.3	62.7	0.0	4.0

回答者の属性では、勤労者が1,252名（67.6%）と7割弱を占め、学生301名（16.3%）、主婦113名（6.1%）、無職69名（3.7%）と続いている【表4】。

性別で見ると、学生と無職では大きな男女差は見られないが、男性の約8割（77.6%）

は勤労者、主婦は女性のみとなっている。年齢別の特徴では、10代は学生が33.2%と高く、主婦は30代以上で25.0%、4人に一人となっている【表5】。
以下、表5以降のクロス集計では無回答を除いて集計している。

表4 回答者の属性

	回答数	%
勤労者	1,252	67.6
主婦	113	6.1
学生	301	16.3
無職	69	3.7
その他	37	2.0
無回答	79	4.3
合計	1,851	100.0

表5 回答者の性別・年齢別による属性（上段：人、下段：%）

		合計	属性				
			勤労者	主婦	学生	無職	その他
性別	男性	796	618	0	138	24	16
		100.0	77.6	0.0	17.3	3.0	2.0
	女性	962	627	111	163	42	19
		100.0	65.2	11.5	16.9	4.4	2.0
	その他	4	3	0	0	0	1
		100.0	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0
年齢	10代	546	327	9	181	16	13
		100.0	59.9	1.6	33.2	2.9	2.4
	20代	1106	848	74	118	46	20
		100.0	76.7	6.7	10.7	4.2	1.8
	30代以上	120	77	30	2	7	4
		100.0	64.2	25.0	1.7	5.8	3.3

②施設との連絡状況、現在の住所（都道府県）

今回のプロジェクトは施設を通して退所生への支援につながっているが、日ごろの施設との連絡状況は、どの程度取っているのだろうか。時々連絡を取っている者が1,053名（56.9%）と最も多く、より頻繁に連絡を取っている622名（33.6%）を合わせると9割近くなる。反対に連絡を取っていない者は120名（6.5%）であり、今回のプロジェクトを通して施設と繋がったと考えられる【表6】。

性別や年齢の違いでは、若干の差ではあるが、女性や施設を出てからの時間が浅いと思われる10代において、頻繁に施設と連絡を取っている傾向がある。回答者の属性による違いでは、全体的に連絡を取っているが、特に学生（43.3%）と主婦（40.0%）において、より頻繁に施設との連絡を取り合っている割合が高い。反対に「施設との連絡なし」と回答している者の中では、無職の者が8.8%となっており、割合としては1割弱であるものの他に比べて高くなっている【表7】。

表6 施設との連絡

	回答数	%
あり	622	33.6
ときどきあり	1,053	56.9
なし	120	6.5
無回答	56	3.0
合計	1,851	100.0

表7 性別・年齢別・属性別による施設との連絡状況（上段：人、下段：％）

		合計	施設との連絡		
			あり	ときどきあり	なし
性別	男性	797	248	498	51
		100.0	31.1	62.5	6.4
	女性	980	366	546	68
		100.0	37.3	55.7	6.9
	その他	3	2	1	0
		100.0	66.7	33.3	0.0
年齢	10代	549	220	302	27
		100.0	40.1	55.0	4.9
	20代	1123	364	677	82
		100.0	32.4	60.3	7.3
	30代以上	121	38	72	11
		100.0	31.4	59.5	9.1
属性	勤労者	1221	382	747	92
		100.0	31.3	61.2	7.5
	主婦	110	44	59	7
		100.0	40.0	53.6	6.4
	学生	291	126	156	9
		100.0	43.3	53.6	3.1
	無職	68	25	37	6
		100.0	36.8	54.4	8.8
	その他	34	16	16	2
		100.0	47.1	47.1	5.9

回答者が現在居住している都道府県については、47全都道府県から回答が得られており、プロジェクトは国内で広く活用されたことがわかる。構成比の高い順では、東京都（14.4%）、大阪府（8.5%）、千葉県（7.6%）、愛知県（7.3%）、神奈川県（6.1%）、埼玉県（5.7%）、京都府（5.5%）となっている【表8】。

表8 回答者が現在居住している都道府県

	回答数	%		回答数	%		回答数	%
北海道	35	1.9	石川県	30	1.6	岡山県	15	0.8
青森県	1	0.1	福井県	9	0.5	広島県	8	0.4
岩手県	1	0.1	山梨県	36	1.9	山口県	18	1.0
宮城県	9	0.5	長野県	13	0.7	徳島県	4	0.2
秋田県	7	0.4	岐阜県	58	3.1	香川県	9	0.5
山形県	5	0.3	静岡県	19	1.0	愛媛県	25	1.4
福島県	40	2.2	愛知県	136	7.3	高知県	11	0.6
茨城県	58	3.1	三重県	13	0.7	福岡県	23	1.2
栃木県	18	1.0	滋賀県	49	2.6	佐賀県	7	0.4
群馬県	16	0.9	京都府	102	5.5	長崎県	24	1.3
埼玉県	105	5.7	大阪府	157	8.5	熊本県	38	2.1
千葉県	141	7.6	兵庫県	71	3.8	大分県	18	1.0
東京都	267	14.4	奈良県	5	0.3	宮崎県	13	0.7
神奈川県	113	6.1	和歌山県	3	0.2	鹿児島県	19	1.0
新潟県	8	0.4	鳥取県	11	0.6	沖縄県	23	1.2
富山県	3	0.2	島根県	8	0.4	無回答	49	2.6
						合計	1,851	100.0

③現在の住居、一緒に暮らしている人

現在の住居については、回答の選択肢に「公営住宅」「民間賃貸住宅」といった住居の種類を回答する選択肢と、「家族や親族と同居」「知人宅・友人宅」といった一緒に住んでいる人を回答する選択肢が混在してしまい、2つ以上に回答しているものもみられた。そのため複数回答として集計した。また、「その他」の自由記述で多かったものについては、選択肢として追加した。

回答者数1,779名のうち、「民間賃貸住宅」に住んでいる者は785名（44.1%）と多く、「家族や親族と同居」が380名（21.4%）、「通勤寮・会社の寮」が206名（11.6%）と続いている【表9】。

男女ともに「民間賃貸住宅」に住んでいる者は多いが、性別による違いでは、男性は「通勤寮・会社の寮」で暮らしている者が15.7%と高く、女性は「家族や親族と同居」が24.3%と高い。

年齢別では、自らの家族をもつこともあり、「家族や親族と同居」が10代で15.8%、20代で20.0%、30代で46.0%と、年齢とともに高くなっている。「公営住宅」の利用も割合としては少ないが、10代で1.8%、20代で3.5%、30代で7.9%と徐々に高くなっている。一方、「学生寮」「通勤寮・会社の寮」「自立援助ホーム」「グループホーム」については、年齢とともに利用が少なくなる傾向がある【表10】。

表9 現在の住居

	回答数	%
家族や親族と同居	380	21.4
知人宅・友人宅	36	2.0
学生寮	39	2.2
通勤寮・会社の寮	206	11.6
自立援助ホーム	89	5.0
グループホーム	82	4.6
その他の福祉施設	12	0.7
公営住宅	60	3.4
民間賃貸住宅	785	44.1
その他	103	5.8
【複数回答】 N=1,779 N.A.=72		

表10 回答者の性別・年齢別による現在の住居（上段：人、下段：％）

		合計	現在の住居									
			家族や親族 と同居	知人宅・友 人宅	学生寮	通勤寮・会 社の寮	自立援助 ホーム	グループホ ーム	その他の福 祉施設	公営住宅	民間賃貸 住宅	その他
性別	男性	822	129	10	22	129	44	34	3	30	355	42
		100.0	15.7	1.2	2.7	15.7	5.4	4.1	0.4	3.6	43.2	5.1
	女性	1008	245	26	16	77	44	47	8	29	423	59
		100.0	24.3	2.6	1.6	7.6	4.4	4.7	0.8	2.9	42.0	5.9
年齢	その他	4	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0
	10代	564	89	10	20	85	31	35	5	10	222	38
		100.0	15.8	1.8	3.5	15.1	5.5	6.2	0.9	1.8	39.4	6.7
年齢	20代	1158	232	26	18	118	55	45	6	40	523	61
		100.0	20.0	2.2	1.6	10.2	4.7	3.9	0.5	3.5	45.2	5.3
	30代以上	126	58	0	0	3	3	2	1	10	40	4
		100.0	46.0	0.0	0.0	2.4	2.4	1.6	0.8	7.9	31.7	3.2

同居している人についてたずねた項目については、回答者1,680名中「同居の家族はいない」と回答した者が1,061名（63.2%）と多い。他方、誰と同居しているのかについては、複数回答で「配偶者以外の親族」が280名（16.7%）、「配偶者」が276名（16.4%）と続いている【表11】。

性別による特徴では、「同居の家族はいない」者は女性が54.5%に対して男性は74.0%と高く、「配偶者」と暮らしている者は女性（22.5%）に多い。

年齢別では、「配偶者」や「配偶者以外の親族」と生活している者は年齢とともに増加し、特に30代以上で多くなっている。一方、「同居の家族はいない」者は、10代（73.6%）、20代（62.6%）では高いが、30代以上になると26.0%に減少する。

回答者の属性による特徴では、「同居の家族はいない」という回答は主婦を除いて全体的に構成比は高いが、なかでも無職においても71.9%と高くなっている【表12】。

表11 回答者が同居している人

	回答数	%
配偶者（パートナー）	276	16.4
配偶者以外の親族	280	16.7
友人・知人・恋人	43	2.6
同居の家族はいない	1,061	63.2
その他	85	5.1
【複数回答】 N=1,680 N.A.=171		

表12 回答者の性別・年齢別・属性別による同居者（上段：人、下段：%）

		合計	同居者				
			配偶者(パートナー)	配偶者以外の親族	友人・知人・恋人	同居の家族はいない	その他
性別	男性	742	68	98	8	549	31
		100.0	9.2	13.2	1.1	74.0	4.2
	女性	920	207	177	35	501	53
		100.0	22.5	19.2	3.8	54.5	5.8
その他	4	0	0	0	3	1	
	100.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	
年齢	10代	496	15	67	15	365	34
		100.0	3.0	13.5	3.0	73.6	6.9
	20代	1060	207	170	28	664	46
		100.0	19.5	16.0	2.6	62.6	4.3
	30代以上	123	54	42	0	32	5
		100.0	43.9	34.1	0.0	26.0	4.1
属性	勤労者	1143	156	171	36	749	65
		100.0	13.6	15.0	3.1	65.5	5.7
	主婦	110	98	35	1	4	0
		100.0	89.1	31.8	0.9	3.6	0.0
	学生	268	5	49	0	205	10
		100.0	1.9	18.3	0.0	76.5	3.7
無職	64	5	9	3	46	1	
	100.0	7.8	14.1	4.7	71.9	1.6	
その他	34	3	5	1	22	5	
	100.0	8.8	14.7	2.9	64.7	14.7	

2) 仕事について

①現在の仕事の状況と職種、雇用形態

回答者の現在の仕事については、1,487名（80.3%）と8割以上が働いている【表13】。「働いている」のは、性別では男性（85.1%）が、年齢別では20代（83.9%）が高くなっている【表14】が、これは主婦が女性と30代以上に多く、学生が10代に多いことが影響していると思われる【表5参照】。

属性による違いでは、勤労者であっても「働いていない」という回答が3.8%、無職であっても「働いている」という回答が8.7%見られる。これらは何らかの事情で現在は「働いていない」あるいは、表16にあるように、アルバイト就労や福祉的就労についている者が、属性においては「無職」と回答したと推察される。また、主婦の38.1%は働いており、学生も53.5%と半数以上が働いている【表14】。

表13 仕事の状況

	回答数	%
働いている	1,487	80.3
働いていない	357	19.3
無回答	7	0.4
合計	1,851	100.0

表14 性別・年齢別・属性別・施設との連絡状況による仕事の状況（上段：人、下段：%）

		合計	現在の仕事の状況	
			働いている	働いていない
性別	男性	819	697	122
		100.0	85.1	14.9
	女性	1005	777	228
		100.0	77.3	22.7
	その他	4	3	1
		100.0	75.0	25.0
年齢	10代	559	415	144
		100.0	74.2	25.8
	20代	1157	971	186
		100.0	83.9	16.1
	30代以上	126	99	27
		100.0	78.6	21.4
属性	勤労者	1251	1204	47
		100.0	96.2	3.8
	主婦	113	43	70
		100.0	38.1	61.9
	学生	297	159	138
		100.0	53.5	46.5
	無職	69	6	63
		100.0	8.7	91.3
	その他	37	13	24
		100.0	35.1	64.9

働いている場合の雇用形態については、複数の仕事に就いている場合もあり、複数回答で集計している。回答者1,450名中、正規雇用は718名（49.5%）と約半数にとどまり、「派遣・契約社員」「パート・アルバイト」といった不正規就労が646名（44.5%）となっている。福祉的就労についている者も22名（1.5%）存在する【表15】。

性別では正規雇用は男性が上回り（57.5%）、パート・アルバイト就労は女性に多い（44.2%）といった男女の就労格差が、ここにも反映されている。年齢では30代以上にパート・アルバイト就労が多く、属性別では、主婦の85.7%、学生の95.5%がパート・アルバイト就労で働いている【表16】。

表15 現在の仕事の雇用形態

	回答数	%
正規雇用（正社員）	718	49.5
派遣・契約社員	135	9.3
パート・アルバイト	511	35.2
自営業	34	2.3
福祉的就労	22	1.5
その他	37	2.6
【複数回答】 N=1,450 N.A.=37		

表16 性別・年齢・属性別による雇用形態（上段：人、下段：％）

		合計	雇用形態					
			正規雇用 （正社員）	派遣・契約 社員	パート・アル バイト	自営業	福祉的就 労	その他
性別	男性	678	390	69	171	25	10	16
		100.0	57.5	10.2	25.2	3.7	1.5	2.4
	女性	760	324	64	336	8	12	21
		100.0	42.6	8.4	44.2	1.1	1.6	2.8
その他	3	1	0	2	0	0	0	
	100.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	
年齢	10代	402	212	26	147	0	7	11
		100.0	52.7	6.5	36.6	0.0	1.7	2.7
	20代	951	477	97	321	23	14	24
		100.0	50.2	10.2	33.8	2.4	1.5	2.5
30代以上	95	29	11	43	11	1	2	
	100.0	30.5	11.6	45.3	11.6	1.1	2.1	
属性	勤労者	1174	683	118	298	31	18	30
		100.0	58.2	10.1	25.4	2.6	1.5	2.6
	主婦	42	4	2	36	2	0	0
		100.0	9.5	4.8	85.7	4.8	0.0	0.0
	学生	156	4	4	149	1	0	0
		100.0	2.6	2.6	95.5	0.6	0.0	0.0
	無職	6	1	0	2	0	1	2
		100.0	16.7	0.0	33.3	0.0	16.7	33.3
その他	13	1	0	6	0	3	3	
	100.0	7.7	0.0	46.2	0.0	23.1	23.1	

働いている仕事の業種については、回答者数1,451名中、複数回答で「商業・サービス業」が665名（45.8%）、「製造業」が272名（18.7%）、「医療・福祉」が185名（12.7%）、「建設業」が104名（7.2%）、「運輸・情報通信業」が100名（6.9%）と続いている【表17】。

性別では、男性は製造業（23.8%）や建設業（13.2%）が女性に比べて多く、女性は「商業・サービス業（55.0%）」で半数以上が働いている。属性の違いでは、主婦（62.3%）と学生（73.3%）における「商業・サービス業」の割合が高くなっている【表18】。表16で見たように、主婦や学生は、主に商業・サービス業におけるパート・アルバイト就労を行っている。

表17 現在の仕事の業種

	回答数	%
水産・農林業	21	1.4
建設業	104	7.2
製造業	272	18.7
電気・ガス業	20	1.4
運輸・情報通信業	100	6.9
商業・サービス業	665	45.8
金融・保険業	13	0.9
官公庁	11	0.8
医療・福祉	185	12.7
教育	27	1.9
その他	70	4.8
【複数回答】 N=1,451 N.A.=36		

表18 性別・属性別による仕事の業種（上段：人、下段：%）

		合計	業種										
			水産・農林業	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸・情報通信業	商業・サービス業	金融・保険業	官公庁	医療・福祉	教育	その他
性別	男性	684	15	90	166	15	67	243	2	9	50	10	29
		100.0	2.2	13.2	24.3	2.2	9.8	35.5	0.3	1.3	7.3	1.5	4.2
	女性	754	6	13	104	5	33	415	10	2	134	17	40
		100.0	0.8	1.7	13.8	0.7	4.4	55.0	1.3	0.3	17.8	2.3	5.3
	その他	3	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
属性	勤労者	1185	19	99	249	19	88	502	10	10	148	17	49
		100.0	1.6	8.4	21.0	1.6	7.4	42.4	0.8	0.8	12.5	1.4	4.1
	主婦	43	1	0	7	0	2	27	1	0	6	0	3
		100.0	2.3	0.0	16.3	0.0	4.7	62.8	2.3	0.0	14.0	0.0	7.0
	学生	146	0	0	1	0	5	107	0	1	19	9	12
		100.0	0.0	0.0	0.7	0.0	3.4	73.3	0.0	0.7	13.0	6.2	8.2
	無職	6	0	1	2	0	0	1	0	0	1	1	0
		100.0	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
その他	13	0	1	0	0	1	9	1	0	1	0	0	
	100.0	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	69.2	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	

②コロナ禍以前の月収

退所生の就労の現状を見てきたが、そこで得られる収入はどの程度であろうか。新型コロナウイルスが感染拡大する以前の平常時での月収（手取り）をたずねると、就労している回答者1,487名中、「10～20万円未満」が872名（58.5%）、「10万円未満」が343名（23.1%）、「20～30万円未満」が190名（12.8%）となっており、8割以上が20万円に満たない月収で生活している【表19】。

性別による違いでは、両者ともに「10～20万円未満」が6割前後と最も多いが、男性は「10万円未満（16.4%）」や「20～30万円未満（18.0%）」も2割弱いるのに対して、女性は「10万円未満（30.3%）」に集中している。年齢による違いでも、「10～20万円未満」を山としつつも、10代では「10万円未満（33.9%）」が多くなっている。属性による違いでは、主婦（65.1%）と学生（75.5%）において「10万円未満」が高くなっている【表20】。

表19 コロナ禍以前の月収（手取り）

	回答数	%
10万円未満	343	23.1
10-20万円未満	872	58.6
20-30万円未満	190	12.8
30万円以上	38	2.6
無回答	44	3.0
合計	1,487	100.0

表20 性別・年齢別・属性別・コロナ禍の減収の有無によるコロナ禍以前の月収
（上段：人、下段：%）

		合計	新型コロナ感染拡大前の月収（手取り）			
			10万円未満	10-20万円未満	20-30万円未満	30万円以上
性別	男性	676	111	414	122	29
		100.0	16.4	61.2	18.0	4.3
	女性	755	229	450	67	9
		100.0	30.3	59.6	8.9	1.2
その他	3	1	2	0	0	
	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0	
年齢	10代	401	136	249	16	0
		100.0	33.9	62.1	4.0	0.0
	20代	945	183	575	157	30
		100.0	19.4	60.8	16.6	3.2
	30代以上	96	24	47	17	8
		100.0	25.0	49.0	17.7	8.3
属性	勤労者	1171	161	791	181	38
		100.0	13.7	67.5	15.5	3.2
	主婦	43	28	13	2	0
		100.0	65.1	30.2	4.7	0.0
	学生	155	117	36	2	0
		100.0	75.5	23.2	1.3	0.0
	無職	6	5	1	0	0
		100.0	83.3	16.7	0.0	0.0
	その他	11	8	3	0	0
		100.0	72.7	27.3	0.0	0.0

月収別に仕事の雇用形態をみると、「10万円未満」ではパート・アルバイト（74.0%）が7割を超えており、「10～20万円未満」と「20～30万円未満」では正規雇用が6割を占めている。「30万円以上」になると、正規雇用（37.8%）と自営業（39.5%）が高くなっている【表21】。同様に月収別の仕事の業種をみると、商業・サービス業に就いている者は収入額が上がるにつれて構成割合も減っており、低収入で就労していることがわかる。特に「10万円未満」の商業・サービス業は64.5%と高くなっている【表22】。

表21 コロナ禍以前の月収別による現在の仕事の雇用形態（上段：人、下段：％）

		合計	雇用形態					
			正規雇用 (正社員)	派遣・契約 社員	パート・アル バイト	自営業	福祉的就 労	その他
新型コロナウイルス感染拡大前の月収（手取り）	10万円未満	335	30	14	248	3	18	26
		100.0	9.0	4.2	74.0	0.9	5.4	7.8
	10-20万円未満	861	541	93	219	4	1	5
		100.0	62.8	10.8	25.4	0.5	0.1	0.6
	20-30万円未満	186	123	22	31	12	0	0
		100.0	66.1	11.8	16.7	6.5	0.0	0.0
	30万円以上	38	14	3	3	15	0	3
		100.0	36.8	7.9	7.9	39.5	0.0	7.9

表22 コロナ禍以前の月収別による現在の仕事の業種（上段：人、下段：％）

		合計	業種										
			水産・農林 業	建設業	製造業	電気・ガス 業	運輸・情報 通信業	商業・サービ ス業	金融・保険 業	官公庁	医療・福祉	教育	その他
新型コロナウイルス感染拡大前の月収（手取り）	10万円未満	330	6	9	30	3	15	213	1	1	38	11	23
		100.0	1.8	2.7	9.1	0.9	4.5	64.5	0.3	0.3	11.5	3.3	7.0
	10-20万円未満	859	12	49	180	12	62	377	11	5	106	15	39
		100.0	1.4	5.7	21.0	1.4	7.2	43.9	1.3	0.6	12.3	1.7	4.5
	20-30万円未満	187	3	28	47	2	19	54	1	5	29	0	5
		100.0	1.6	15.0	25.1	1.1	10.2	28.9	0.5	2.7	15.5	0.0	2.7
	30万円以上	36	0	14	3	2	4	9	0	0	3	1	0
		100.0	0.0	38.9	8.3	5.6	11.1	25.0	0.0	0.0	8.3	2.8	0.0

③働いていない理由

現在の仕事について「働いていない」と回答した357名について、その理由を複数回答でたずねると、「学校に在学中」が116名（33.4%）、「家事・育児・妊娠・介護」が74名（21.3%）、「体調が悪い」が58名（16.7%）と、本人や家族による事情が7割を占める。他方、「コロナによる失業」「良い仕事がない」「求職・就活中」といった就労に関する困難さによるものも、合計すると89名（25.6%）に上っている【表23】。

性別では、男性が「学校に在学中（47.5%）」が多く、女性では「家事・育児・妊娠・介護（32.4%）」といった家族のケアのために働いていない場合が多い。

属性の違いによる特徴では、主婦は「家事・育児・妊娠・介護（84.3%）」のため、学生は「学校に在学中（83.0%）」のためという理由は自明であるが、無職の42.9%が体調不良のために働いていない。また、「コロナで仕事なくなった」ために働けない者は、勤労者で34.7%、無職で19.0%、学生も13.3%となっている【表24】。

表23 働いていない理由

	回答数	％
家事・育児・妊娠・介護のため	74	21.3
学校に在学中だから	116	33.4
体調が悪いから	58	16.7
良い仕事がないから	32	9.2
新型コロナウイルスで仕事なくなったから	49	14.1
求職・就活中	8	2.3
その他	53	15.3
【複数回答】 N=347 N.A.=10		

表24 性別・属性別による働いていない理由（上段：人、下段：％）

		合計	働いていない理由						
			家事・育児・妊娠・介護のため	学校に在学中だから	体調が悪いから	良い仕事がないから	新型コロナウイルスで仕事がなくなったから	求職・就活中	その他
性別	男性	120	1	57	21	12	17	0	22
		100.0	0.8	47.5	17.5	10.0	14.2	0.0	18.3
	女性	225	73	59	33	19	31	8	27
		100.0	32.4	26.2	14.7	8.4	13.8	3.6	12.0
その他	1	0	0	1	0	0	0	1	
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
属性	勤労者	49	6	0	10	5	17	3	13
		100.0	12.2	0.0	20.4	10.2	34.7	6.1	26.5
	主婦	70	59	2	4	5	1	0	7
		100.0	84.3	2.9	5.7	7.1	1.4	0.0	10.0
	学生	135	1	112	2	4	18	2	6
		100.0	0.7	83.0	1.5	3.0	13.3	1.5	4.4
無職	63	5	1	27	11	12	3	15	
	100.0	7.9	1.6	42.9	17.5	19.0	4.8	23.8	
その他	22	2	0	10	6	0	0	9	
		100.0	9.1	0.0	45.5	27.3	0.0	0.0	40.9

3) 新型コロナの影響と相談相手

① コロナ禍による生活の変化

今回のコロナ禍は、退所生の生活にどのような影響をもたらしたのであろうか。生活状況の変化についてたずねると、1,851名中、「悪くなった」と回答した者が929名（50.2%）と半数を超え、「かわらない」は822名（44.4%）、そして「良くなった」が86名（4.6%）となっている【表25】。

性別による違いでは、「悪くなった」という回答において、男性（49.8%）に比べて女性（51.3%）が若干上回っているが、大きな差は見られない。年齢による違いにおいても、「良くなった」という回答が年齢とともに増加し、「かわらない」という回答は年齢とともに減少しているが、ある年代に特筆した特徴は見られない。しかし回答者の属性については、学生（63.9%）と無職（58.8%）において「悪くなった」と回答する者が6割前後と高くなっている。現在の仕事の有無においても、生活が「悪くなった」という回答は、働いていない者（58.4%）が、働いている者（48.8%）を上回っている【表26】。

表25 新型コロナによる生活の変化

	回答数	％
良くなった	86	4.6
かわらない	822	44.4
悪くなった	929	50.2
無回答	14	0.8
合計	1,851	100.0

表26 性別・年齢別・属性別・仕事の状況別による新型コロナでの生活の変化
(上段：人、下段：%)

		合計	新型コロナでの生活の変化		
			良くなった	かわらない	悪くなった
性別	男性	822	37	376	409
		100.0	4.5	45.7	49.8
	女性	995	47	438	510
		100.0	4.7	44.0	51.3
	その他	4	1	0	3
		100.0	25.0	0.0	75.0
年齢	10代	557	22	270	265
		100.0	3.9	48.5	47.6
	20代	1154	52	502	600
		100.0	4.5	43.5	52.0
	30代以上	124	12	49	63
		100.0	9.7	39.5	50.8
属性	勤労者	1244	57	593	594
		100.0	4.6	47.7	47.7
	主婦	113	8	46	59
		100.0	7.1	40.7	52.2
	学生	299	11	97	191
		100.0	3.7	32.4	63.9
	無職	68	2	26	40
		100.0	2.9	38.2	58.8
	その他	36	2	17	17
		100.0	5.6	47.2	47.2
現在の仕事の状況	働いている	1479	71	686	722
		100.0	4.8	46.4	48.8
	働いていない	353	15	132	206
		100.0	4.2	37.4	58.4

コロナ禍による生活の変化で、「悪くなった」という回答者の雇用形態をみると、パート・アルバイト（41.6%）と正規雇用（41.5%）において高くなっている【表27】。同様に生活が「悪くなった」という回答者の業種については、商業・サービス業が53.1%と高く、次いで製造業が18.0%となっている【表28】。

表27 コロナ禍での生活の変化による雇用形態（上段：人、下段：%）

		合計	雇用形態					
			正規雇用 (正社員)	派遣・契約 社員	パート・アル バイト	自営業	福祉的就 労	その他
新型コロナでの生活の変化	良くなった	70	34	3	28	0	3	3
		100.0	48.6	4.3	40.0	0.0	4.3	4.3
	かわらない	666	388	59	187	8	10	16
		100.0	58.3	8.9	28.1	1.2	1.5	2.4
	悪くなった	706	293	72	294	26	8	18
		100.0	41.5	10.2	41.6	3.7	1.1	2.5

表28 コロナ禍での生活の変化による現在の仕事の業種（上段：人、下段：％）

		合計	業種										
			水産・農林業	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸・情報通信業	商業・サービス業	金融・保険業	官公庁	医療・福祉	教育	その他
新型コロナでの生活の変化	良くなった	69	3	3	11	1	4	32	0	1	10	1	4
		100.0	4.3	4.3	15.9	1.4	5.8	46.4	0.0	1.4	14.5	1.4	5.8
	かわらない	673	7	49	133	10	53	258	8	5	116	10	31
		100.0	1.0	7.3	19.8	1.5	7.9	38.3	1.2	0.7	17.2	1.5	4.6
	悪くなった	701	10	51	126	8	41	372	4	4	57	13	34
		100.0	1.4	7.3	18.0	1.1	5.8	53.1	0.6	0.6	8.1	1.9	4.9

②コロナ禍による収入の減少

◆コロナ禍による減収

コロナ禍による生活への影響について、収入の減少について見ていく。現在、「働いている」と回答した1,487名中、873名（58.7％）はコロナ禍によっても収入は減らなかったと回答し、558名（37.5％）は減収したと回答している【表29】。

「収入が減った」と回答した者について、性別による違いは見られず、年齢別では20代において42.6％と、やや高くなっている。属性による違いでは、学生（58.3％）において高くなっている。また、日ごろの月収の違いでは、20万円以上では5割を超える者が減収したと回答し、10万円未満も42.3％が減収している【表30】。

コロナ禍による減収と現在の仕事の雇用形態をみると、「パート・アルバイト」は減収した者の中でも47.7％を占め最も高い。一方、「正規雇用」は、減収しなかった者の中で58.5％を占め、コロナ禍においても相対的に安定している【表31】。同様に現在の仕事の業種についてみると、「商業・サービス業」が減収した中での構成比が58.6％を占めて高く、「製造業（17.1％）」が続いている。【表32】。

表29 コロナ禍による減収

	回答数	％
減った	558	37.5
減らない	873	58.7
無回答	56	3.8
合計	1,487	100.0

表30 年齢別・属性別・コロナ禍前の月収の違いによる収入の減少（上段：人、下段：％）

		合計	新型コロナによる減収	
			減った	減らない
性別	男性	669	263	406
		100.0	39.3	60.7
	女性	751	289	462
		100.0	38.5	61.5
その他	3	1	2	
		100.0	33.3	66.7
年齢	10代	393	123	270
		100.0	31.3	68.7
	20代	942	401	541
		100.0	42.6	57.4
30代以上	96	34	62	
	100.0	35.4	64.6	
属性	勤労者	1159	424	735
		100.0	36.6	63.4
	主婦	42	17	25
		100.0	40.5	59.5
	学生	156	91	65
		100.0	58.3	41.7
無職	6	4	2	
	100.0	66.7	33.3	
その他	13	8	5	
		100.0	61.5	38.5
新型コロナ感染拡大前の月収（手取り）	10万円未満	336	142	194
		100.0	42.3	57.7
	10-20万円未満	854	296	558
		100.0	34.7	65.3
	20-30万円未満	186	94	92
		100.0	50.5	49.5
30万円以上	37	20	17	
	100.0	54.1	45.9	

表31 コロナ禍の減収の有無による仕事の雇用形態（上段：人、下段：％）

		合計	雇用形態					
			正規雇用 （正社員）	派遣・契約 社員	パート・アル バイト	自営業	福祉的就 労	その他
新型コロナによる 減収	減った	553	196	56	264	24	6	10
		100.0	35.4	10.1	47.7	4.3	1.1	1.8
	減らない	855	500	76	235	9	14	26
		100.0	58.5	8.9	27.5	1.1	1.6	3.0

表32 コロナ禍による減収の有無と現在の仕事の業種（上段：人、下段：％）

		合計	業種										
			水産・農林 業	建設業	製造業	電気・ガス 業	運輸・情報 通信業	商業・サービ ス業	金融・保険 業	官公庁	医療・福祉	教育	その他
新型コロナによる 減収	減った	539	5	41	92	4	31	316	3	2	24	9	24
		100.0	0.9	7.6	17.1	0.7	5.8	58.6	0.6	0.4	4.5	1.7	4.5
	減らない	861	15	54	168	14	65	334	8	8	154	14	42
		100.0	1.7	6.3	19.5	1.6	7.5	38.8	0.9	0.9	17.9	1.6	4.9

◆コロナ禍による減収の割合

コロナ禍によって減収したと回答した558名について、その減収された程度をたずねると、「2～4割未満」減少したという者が156名（28.0%）、「4～6割未満」が119名（21.3%）、「2割未満」が107名（19.2%）と続く。「6割以上」も減収したという者も

73名（13.1%）と1割を超えている【表33】。

性別では、男性は、2～4割未満の減収（34.1%）を山として2割未満（29.6%）と4～6割未満（22.1%）の減収が続いている。一方、女性は、男性同様に2～4割未満の減収（34.2%）を山としつつも、4～6割未満（30.7%）、6割以上（18.2%）と続き、男性よりも多く減収されている者が多い。

年齢別では、年代が若くなるほどに、より多く減収されている傾向があり、10代では「2割未満」～「6割以上」までの全ての選択肢で2割を超え、「6割以上」の減収も20.6%と高くなっている。

属性による違いでは、学生において4～6割未満の減収が41.7%、6割以上の減収も31.0%と深刻である。日ごろの手取り収入の違いでは、月収10万円未満の層と、月収20万円以上の層において、減収が6割以上であった者が2割を超えている【表34】。

表33 コロナ禍による減収した割合

	回答数	%
2割未満	107	19.2
2-4割未満	156	28.0
4-6割未満	119	21.3
6割以上	73	13.1
無回答	103	18.5
合計	558	100.0

表34 性別・年齢別・属性別・コロナ禍前の月収の違いによる減収割合（上段：人、下段：％）

		合計	減収割合			
			2割未満	2-4割未満	4-6割未満	6割以上
性別	男性	226	67	77	50	32
		100.0	29.6	34.1	22.1	14.2
	女性	225	38	77	69	41
		100.0	16.9	34.2	30.7	18.2
その他	1	0	1	0	0	
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
年齢	10代	97	25	26	26	20
		100.0	25.8	26.8	26.8	20.6
	20代	331	76	117	87	51
		100.0	23.0	35.3	26.3	15.4
	30代以上	27	6	13	6	2
		100.0	22.2	48.1	22.2	7.4
属性	勤労者	341	96	124	77	44
		100.0	28.2	36.4	22.6	12.9
	主婦	12	1	8	3	0
		100.0	8.3	66.7	25.0	0.0
	学生	84	4	19	35	26
		100.0	4.8	22.6	41.7	31.0
	無職	3	1	0	1	1
		100.0	33.3	0.0	33.3	33.3
	その他	3	0	0	1	2
		100.0	0.0	0.0	33.3	66.7
新型コロナウイルス感染拡大前の月収（手取り）	10万円未満	115	11	35	45	24
		100.0	9.6	30.4	39.1	20.9
	10-20万円未満	243	76	94	46	27
		100.0	31.3	38.7	18.9	11.1
	20-30万円未満	78	18	23	21	16
		100.0	23.1	29.5	26.9	20.5
	30万円以上	17	2	4	6	5
		100.0	11.8	23.5	35.3	29.4

③現在、困っていること

◆困っている内容

現在、困っていることを複数回答でたずねると、回答者1,345名中、構成比の高い順に、「生活全般の不安や将来の不安（39.9%）」「現在の仕事（25.1%）」「衣食等の費用（23.7%）」「心身の健康問題（20.8%）」「就職・職探し（20.5%）」「家賃等の住居費（16.7%）」「家族・親族（16.7%）」となっている【表35】。

全体的な傾向は同じであるが、性別による違いがみられるものは、現在の仕事についての困りごとは、男性（29.8%）が女性（21.9%）よりも上回っており、他は「生活全般の不安（男性：36.1%、女性：42.6%）」「心身の健康問題（男性：17.9%、女性：22.7%）」「家族・親族（男性：13.6%、女性：19.2%）」など、女性において上回っている項目が多い。

年齢による違いでは、20代で現在の仕事（27.6%）に関して困っている者、30代では健康問題（26.7%）や子育て・妊娠（24.4%）、家族・親族（22.1%）に関する困りごとが相対的に高い。

属性による違いでは、勤労者では現在の仕事（33.7%）に関して、主婦では子育て・妊娠（49.4%）や家族・親族（33.7%）に関して、学生では学費や学校のこと（36.9%）や就職（30.6%）に関して困難を抱えている。そして無職では、就職（59.7%）や生活全般の不安（51.6%）、健康問題（51.6%）について5割を超え、孤立・孤独感（35.5%）

に関する困難も相対的に高くなっている。

現在の就労状況の違いにおいても、「働いていない」者は、生活全般の不安（48.8%）、就職（42.7%）、健康問題（29.5%）、孤立や孤独（20.7%）、そして子育て・妊娠（11.5%）において、高くなっている。

コロナ禍による減収の有無では、月収が減った者は、生活全般の不安（43.6%）や現在の仕事（31.9%）の悩みを抱えるとともに、衣食等の費用（34.7%）、家賃などの住居費（30.1%）といった支払いの困難さに直面し、就職（20.1%）や学費・学校のこと（10.8%）についても、高い割合を示している【表36】。

表35 現在困っていること

	回答数	%
家族・親族	225	16.7
子育て・妊娠	87	6.5
現在の仕事	338	25.1
職場の人間関係	173	12.9
就職（職探し）	276	20.5
異性関係	60	4.5
家事	170	12.6
住居探し	77	5.7
衣食等の費用	319	23.7
自分の学費や学校のこと	111	8.3
家賃等の住居費	225	16.7
消費者金融やクレジット等の借金	79	5.9
その他お金のこと	9	0.7
孤立や孤独感	195	14.5
心身の健康問題	280	20.8
新型コロナ関係	2	0.1
生活全般の不安や将来の不安	537	39.9
その他	21	1.6
【複数回答】 N=1,345 N=506		

表36 性別・年齢別・属性別・仕事の状況・コロナ禍による減収別にみた困っていること
(上段：人、下段：%)

		合計	家族・親族	子育て・妊産	現在の仕事	職場の人間関係	就職(職探し)	異性関係	家事	住居探し	衣食等の費用	自分の学費や学校のこ	家賃等の住居費	消費者金融やクレジット等の借金	その他お金のこと	孤立や孤独感	心身の健康問題	新型コロナ関係	生活全般の不安や将来の不安	その他
			人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
性別	男性	574	78	12	171	71	117	31	79	28	132	51	96	33	5	82	103	1	207	8
	女性	100.0	13.6	2.1	29.8	12.4	20.4	5.4	13.8	4.9	23.0	8.9	16.7	5.7	0.9	14.3	17.9	0.2	36.1	1.4
	その他	754	145	75	165	101	156	29	90	47	184	59	125	45	4	109	171	1	321	12
年齢	10代	100.0	19.2	9.9	21.9	13.4	20.7	3.8	11.9	6.2	24.4	7.8	16.6	6.0	0.5	14.5	22.7	0.1	42.6	1.6
	20代	847	143	62	234	101	177	41	94	45	196	54	157	63	5	116.6	21.2	0.0	38.0	2.0
	30代以上	100.0	16.9	7.3	27.6	11.9	20.9	4.8	11.1	5.3	23.1	6.4	18.5	7.4	0.6	13.6	20.0	0.2	40.6	1.2
	その他	86	19	21	21	11	17	1	9	2	19	0	13	7	0	11	23	0	36	3
属性	勤労者	864	141	39	291	142	115	39	104	53	199	14	149	58	6	109	153	1	314	14
	主婦	100.0	16.3	4.5	33.7	16.4	13.3	4.5	12.0	6.1	23.0	1.6	17.2	6.7	0.7	12.6	17.7	0.1	36.3	1.6
	学生	83	28	41	9	3	18	0	12	5	21	2	11	9	0	6	18	0	30	0
	無職	100.0	33.7	49.4	10.8	3.6	21.7	0.0	14.5	6.0	25.3	2.4	13.3	10.8	0.0	7.2	21.7	0.0	36.1	0.0
	その他	252	28	1	21	10	77	11	36	8	71	93	43	6	3	46	54	0	121	3
	その他	100.0	11.1	0.4	8.3	4.0	30.6	4.4	14.3	3.2	28.2	36.9	17.1	2.4	1.2	18.3	21.4	0.0	48.0	1.2
現在の仕事の状況	働いている	62	12	2	8	2	37	5	12	5	11	0	11	4	0	22	32	0	32	2
	働いていない	100.0	19.4	3.2	12.9	3.2	59.7	8.1	19.4	8.1	17.7	0.0	17.7	6.5	0.0	35.5	51.6	0.0	51.6	3.2
新型コロナによる減収	減った	30	8	1	2	3	18	1	3	5	6	1	5	1	0	7	13	1	15	1
	減らない	100.0	26.7	3.3	6.7	10.0	60.0	3.3	10.0	16.7	20.0	3.3	16.7	3.3	0.0	23.3	43.3	3.3	50.0	3.3
現在の仕事の状況	働いている	1050	176	53	299	164	150	45	129	57	242	68	175	60	7	134	193	1	359	17
	働いていない	100.0	16.8	5.0	28.5	15.6	14.3	4.3	12.3	5.4	23.0	6.5	16.7	5.7	0.7	12.8	18.4	0.1	37.4	1.6
新型コロナによる減収	減った	295	49	34	9	126	15	41	20	77	43	50	19	2	61	87	1	144	4	
	減らない	100.0	16.6	11.5	13.2	3.1	42.7	5.1	13.9	6.8	26.1	14.6	16.9	6.4	0.7	20.7	29.5	0.3	48.8	1.4
新型コロナによる減収	減った	452	68	21	144	41	91	16	41	33	157	49	136	33	4	48	75	0	197	6
	減らない	100.0	15.0	4.6	31.9	9.1	20.1	3.5	9.1	7.3	34.7	10.8	30.1	7.3	0.9	10.6	16.6	0.0	43.6	1.3
新型コロナによる減収	減った	556	104	30	143	110	58	25	79	20	77	18	35	26	3	81	110	1	185	11
	減らない	100.0	18.7	5.4	25.7	19.8	10.4	4.5	14.2	3.6	13.8	3.2	6.3	4.7	0.5	14.6	19.8	0.2	33.3	2.0

◆新型コロナによる具体的な困りごと（自由記述）

現在困っていることについては、自由記述欄を設けて具体的に聞いている。記述では、具体的な内容とともに、表35を回答した理由や背景についても記されていた。さらに、調査実施時期はマスク等のコロナ対策の商品が品薄だったこともあり、マスク不足に関する記述も見られた。全般的に、金銭的な不足と仕事の不安が精神的・身体的なダメージとともに記されていた。

以下に、いくつか紹介するが、学生からは学業と仕事との兼ね合いや学費の問題が挙げられている。さらに、元学生だった者からは、学校を終えた後にも、奨学金の返済を負いながらの就労に困窮している声が出ていた。

「コロナで仕事が減り、給料が減った。専門学校もあり途中で仕事をぬけて学校に行くが、その分給料から天引きされる。」

「あらたにアルバイトを増やして生計を立てています。睡眠時間が足りないのと、学業に戻りたく受験費用、入学金、学費も貯めないといけなくて大変です。」

「残業が減り収入減で奨学金の返済に困っています。」

なかには、次のような深刻な記述も見られた。

「ちゃんとした体温計がないから、子どもが熱があるかどうかわからない。」

「障害児がいますが、デイサービスも時間短縮であり、助かってはいるが、短いので仕事に影響が出てしまっている。家にいる時間が多くなり、病院や訓練にも行けず、きょうだいのケンカやストレスは多くなっていた。」

「月のお給料が半分以下になった。たまに、このまま死ぬんじゃないかと不安になった。」

「コロナの影響で働いていた風俗・ピンクサロンが営業時間短縮し、夜の時間でシフトに入っていた私は店を休まざるをえなくなった。そのため食費を節約していたら、摂食障害再発と思われる症状がいくつもあらわれ体調を崩した。緊急事態宣言が解除され週末だけ仕事を再開することができているが、体重の減少が止まらない。」

「コロナの影響で売り上げがのびず8月23日で閉店。8月24日から職がなく、どうなるか不安」

「毎日満席になるような飲食店で働き、人の多い電車にのり、かなりリスクがありますが、働かなくては不安な現状。万が一のときに頼れる親や実家がないため。」

「コロナが蔓延するなか唯一の親族であった父親が亡くなりました。しかし、現在の施設での感染を防止する目的で、葬儀等へは行けませんでした。・・・父の墓参りだって行きたい、ですが誰の後ろ盾もない今、誰を頼って自立を試みれば良いのでしょうか。私一人の力では、何も変わりません。どうすることもできません。帰る家さえなくなったのです。」

「面接・求人応募をいくらやっても仕事につけない。無駄に時間だけが過ぎる。お金が底をつく。現状を打破しようと動くエネルギーがなくなる。」

③困りごとの相談相手

こうした困りごとに対して相談できる相手の存在は重要である。アンケートにおいては複数回答でたずねているが、回答者数1,779名中、「施設の職員」が926名（52.1%）」と最も高く、「施設の元職員」の177名（9.9%）も合わせると62.0%が退所した施設職員に相談している。また、学校や施設での友人や先輩・恋人も合計すると1,236名（69.5%）と7割近く、同世代の相談相手となっている。職場や学校の上司や先生については、合計しても708名（39.8%）と4割弱であり、やはり退所生にとっては、施設職員や同世代の友人たちが重要な相談相手となっている。ただし、この退所生と施設との関係の強さは、本調査の手続きによるバイアスがある点に注意が必要である。回答者は施設を通して本プロジェクトに繋がった退所生であり、表6からも9割以上が施設と連絡を取っていることからしても児童養護施設の退所生全体像を反映しているわけではない。

一方、配偶者や親・親戚が相談相手であるという者は合計して771名（43.4%）おり、反対に「相談できる人は誰もいない」という者も94名（5.3%）いる【表37】。

以下では、施設の職員と元職員（以下、この両者を合わせて施設職員とする）に相談をしている者の特徴をみていく【表38】。性別では女性（63.6%）が、年齢別では10代（66.0%）と20代（61.6%）が、属性別では学生（67.1%）と無職（79.1%）が、現在の就労状況では「働いていない」者（70.7%）が、そして日頃の月収では「10万円未満」の者（69.3%）が、6割を超えて施設職員に相談している。

表37 困ったことを相談する相手

	回答数	%
配偶者（パートナー）	284	16.0
親（保護者）・その他の親族	487	27.4
学校の友人・先輩	388	21.8
施設の友人・先輩	373	21.0
その他の友人・先輩・恋人	475	26.7
職場の上司	259	14.6
職場の同僚・先輩	353	19.8
現在通う学校の先生	43	2.4
以前通った学校の先生	53	3.0
施設出身者等のための相談支援機関	71	4.0
福祉事務所等の職員	107	6.0
施設の職員	926	52.1
施設の元職員	177	9.9
その他の専門職	31	1.7
その他	39	2.2
相談できる人はいない	94	5.3
【複数回答】 N = 1,779 N.A. = 72		

表38 性別・年齢別・属性別・仕事の状況別・コロナ禍以前の月収別による相談相手

(上段：人、下段：%)

		合計	困ったとき相談する相手															
			配偶者 (パート ナ)	親(保護 者)・その 他の親族	学校の友 人・先輩	施設の友 人・先輩	その他の友 人・先輩・ 恋人	職場の上 司	職場の同 僚・先輩	現在通う学 校の先生	以前通った 学校の先生	施設出身 者等のため の相談支援 機関	福祉事務 所等の職員	施設の職員	施設の元職 員	その他の専 門職	その他	相談できる 人はいない
性別	男性	789	76	206	193	165	176	132	166	20	19	34	44	406	66	10	15	51
	100.0	9.6	26.1	24.5	20.9	22.3	16.7	21.0	2.5	2.4	4.3	5.6	51.5	8.4	1.3	1.9	6.5	
	女性	971	207	280	191	203	295	124	182	22	33	37	61	509	109	21	22	39
100.0	21.3	28.8	19.7	20.9	30.4	12.8	18.7	2.3	3.4	3.8	6.3	52.4	11.2	2.2	2.3	4.0		
その他	4	0	0	2	1	3	2	2	0	1	0	1	4	2	0	1	0	
100.0	0.0	0.0	50.0	25.0	75.0	50.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	100.0	50.0	0.0	25.0	0.0		
年齢	10代	535	20	153	172	114	125	80	91	26	24	24	30	296	57	9	13	22
	100.0	3.7	28.6	32.1	23.3	23.4	15.0	17.0	4.9	4.5	4.5	5.6	55.3	10.7	1.7	2.4	4.1	
	20代	1118	218	291	204	238	311	162	237	15	26	45	66	579	110	18	24	65
	100.0	19.5	26.0	18.2	21.3	27.8	14.5	21.2	1.3	2.3	4.0	5.9	51.8	9.8	1.6	2.1	5.8	
30代以上	124	46	43	11	20	39	17	25	1	3	2	11	49	10	4	2	7	
100.0	37.1	34.7	8.9	16.1	31.5	13.7	20.2	0.8	2.4	1.6	8.9	39.5	8.1	3.2	1.6	5.6		
属性	勤労者	1201	175	326	202	249	346	234	309	1	39	51	59	603	114	11	28	66
	100.0	14.6	27.1	16.8	20.7	28.8	19.5	25.7	0.1	3.2	4.2	4.9	50.2	9.5	0.9	2.3	5.5	
	主婦	111	80	42	16	23	30	4	7	1	0	0	5	46	11	6	1	6
	100.0	72.1	37.8	14.4	20.7	27.0	3.6	6.3	0.9	0.0	0.0	4.5	41.4	9.9	5.4	0.9	5.4	
	学生	297	11	84	148	70	64	5	18	37	10	12	9	171	29	3	2	12
	100.0	3.7	28.3	49.8	23.6	21.5	1.7	6.1	12.5	3.4	4.0	3.0	57.6	9.8	1.0	0.7	4.0	
	無職	67	6	14	8	14	15	2	3	1	0	4	17	42	11	7	4	5
100.0	9.0	20.9	11.9	20.9	22.4	3.0	4.5	1.5	0.0	6.0	25.4	62.7	16.4	10.4	6.0	7.5		
その他	34	3	5	5	5	6	5	2	0	3	4	8	21	5	2	2	3	
100.0	8.8	14.7	14.7	14.7	17.6	14.7	5.9	2.0	8.8	11.8	23.5	61.8	14.7	5.9	5.9	8.8		
現在の仕事の状況	働いている	1430	214	380	296	299	400	257	345	24	47	55	76	726	131	12	29	77
	100.0	15.0	26.6	20.7	20.9	28.0	18.0	24.1	1.7	3.3	3.8	5.3	50.8	9.2	0.8	2.0	5.4	
働いていない	345	70	106	90	74	75	2	8	19	6	16	31	198	46	19	10	17	
100.0	20.3	30.7	26.1	21.4	21.7	0.6	2.3	5.5	1.7	4.6	9.0	57.4	13.3	5.5	2.9	4.9		
新型コロナ感染拡大前の月収(手取り)	10万円未満	336	54	83	86	70	84	45	41	19	14	15	36	197	36	8	6	14
	100.0	16.1	24.7	25.6	20.8	25.0	13.4	12.2	5.7	4.2	4.5	10.7	58.6	10.7	2.4	1.8	4.2	
	10-20万円未満	841	106	230	168	167	235	170	244	4	26	33	32	423	69	4	14	44
	100.0	12.6	27.3	20.0	19.9	27.9	20.2	29.0	0.5	3.1	3.9	3.8	50.3	8.2	0.5	1.7	5.2	
	20-30万円未満	183	33	50	24	45	62	36	50	0	3	3	5	75	20	0	7	16
	100.0	18.0	27.3	13.1	24.6	33.9	19.7	27.3	0.0	1.6	1.6	2.7	41.0	10.9	0.0	3.8	8.7	
30万円以上	37	16	5	7	11	11	2	6	0	0	1	1	15	2	0	1	3	
100.0	43.2	13.5	18.9	29.7	29.7	5.4	16.2	0.0	0.0	2.7	2.7	40.5	5.4	0.0	2.7	8.1		

4) 支援の状況と今後の要望

① 公的支援の利用状況

アンケート調査時に受けている公的支援の利用状況についてみる。回答者1,741名中、複数回答で、「国からのマスク」が1,510名(86.7%)、「特別定額給付金」が1,350名(77.5%)と、この2つの支援以外は1割にも満たない状況である【表39】。

性別や年齢による差異は見られないが、属性の違いにおいては、学生では「学生支援緊急給付金」の利用が45.0%と高く、無職では生活保護の受給が42.6%と高くなっている。

表39 現在受けている公的支援

	回答数	%
国からのマスク2枚	1,510	86.7
国の「特別定額給付金」	1,350	77.5
学生支援機構の「学生支援緊急給付金」	140	8.0
社会福祉協議会の「緊急小口資金・総合支援金（無利子の貸付）」	40	2.3
生活保護	124	7.1
障害年金	14	0.8
その他	45	2.6
【複数回答】N=1,741 N.A.=110		

国からのマスクが届いた月は、6月（64.8%）と5月（24.6%）に集中している【表40】。特別定額給付金についても、6月（63.3%）が多く、7月までに9割以上が配布されている【表41】。

表40 マスクが届いた月

	回答数	%
1月	1	0.1
2月	3	0.2
3月	5	0.3
4月	39	2.6
5月	371	24.6
6月	978	64.8
7月	57	3.8
N.A.	56	3.7
合計	1,510	100.0

表41 国の「特別定額給付金」を受給した月

	回答数	%
4月	6	0.4
5月	168	12.4
6月	855	63.3
7月	225	16.7
8月	5	0.4
9月	0	0.0
10月	2	0.1
N.A.	89	6.6
合計	1,350	100.0

②今後、希望する支援

「今後もコロナの影響が続く中で、どのような支援を希望するか」についてたずねた。回答者数1,599名中、複数回答で「資金的な支援」を希望する者が1,206名（75.4%）と最も多く、次いで「物品の支給」が790名（49.4%）となっている。これらの支援は、生活を営んでいく上で、衣食住のような必須となるものが不足しているために希望している。これまでの調査結果をみても、もとより不安定な退所生たちの生活がコロナの影響で、より逼迫していることが背景にあった。他にも、「仕事に関する支援（14.2%）」や「相談・支援情報の提供（12.1%）」について希望しているが、先に概観した困りごと【表35参照】において、就職や生活の不安といった困難さが述べられており、その対応として求められている支援である【表42】。

年齢による違いでは、「資金的な支援」が10代で77.1%、20代で75.1%と、若い年齢層で高くなっているが、これも若い年齢層では日頃の月収が低い【表20参照】ことが背景にある。「子育てや家事の支援」は家族をもつようになる20代以降、特に30代以上で26.4%と高くなる。

属性の違いでは、「資金的な支援」はいずれも7割を超えているが、なかでも学生は、「資金的支援（78.4%）」と「物品支援（53.0%）」について、他の属性よりも多く希望している。一方、主婦は「子育て・家事支援（46.7%）」について、無職の者は「仕事の相談（38.5%）」と「相談・支援情報の提供（15.4%）」について希望する構成割合が高い。

表42 今後、希望する支援

	回答数	%
資金的な支援	1,206	75.4
物品の支援	790	49.4
仕事に関する支援	227	14.2
子育てや家事の支援	142	8.9
相談や支援情報の提供	193	12.1
その他	17	1.1

【複数回答】 N = 1,599 N.A. = 252

表43 年齢別・属性の違いによる希望する支援（上段：人、下段：%）

		合計	今後、希望する支援					
			資金的な支援	物品の支援	仕事に関する支援	子育てや家事の支援	相談や支援情報の提供	その他
年齢	10代	480	370	232	58	18	49	5
		100.0	77.1	48.3	12.1	3.8	10.2	1.0
	20代	1011	762	513	147	96	128	11
		100.0	75.4	50.7	14.5	9.5	12.7	1.1
	30代以上	106	73	44	21	28	15	1
		100.0	68.9	41.5	19.8	26.4	14.2	0.9
属性	勤労者	1056	788	509	143	75	115	8
		100.0	74.6	48.2	13.5	7.1	10.9	0.8
	主婦	107	83	53	11	50	12	2
		100.0	77.6	49.5	10.3	46.7	11.2	1.9
	学生	283	222	150	31	8	38	3
		100.0	78.4	53.0	11.0	2.8	13.4	1.1
	無職	65	47	32	25	4	10	3
		100.0	72.3	49.2	38.5	6.2	15.4	4.6
	その他	32	25	22	11	3	10	0
		100.0	78.1	68.8	34.4	9.4	31.3	0.0

③その他（自由記述）

最後の「その他」として設けられた自由記述には、ひとり親や学生、勤労者など、それぞれの立場から今回のプロジェクトに関するお礼が多く記されていた。

「もうすぐ子どもも増える所だったので、とっても嬉しかったです。」

「最近コロナで、よくも悪くも一人親に対してたくさんの方が目を向けてくれるようになりました。今までは肩身が狭い思いをしていたことが、こういった支援で生活に希望をもって自信をもって子どもと向き合えます。」

「私は将来に向けて考えていく中で他人と比べて劣等感を抱いてしまうことが多々ありました。たくさんの方々を支えていただき、なんとか進学することができました。全国には進学をあきらめ就職した子も多いと思います。そんな子供たちが少しでもいなくなるように自分自身も何か力になりたいです。今は学生で夢に向かって

いる途中ですが、いつかは立派な大人になって何か力になれたらと思っています。とにかく今は夢に向かって頑張ります。」

「支援ありがとうございます。段ボールの中身も勿論ですが、愛を感じとても嬉しいです。今社会人として働いていますが施設にいたということを誰にも明かしていないので（職場で）困ったときに頼れる人がいませんでした。ですが今回この支援で私は一人じゃないんだと実感しました。

「退所生にも、色々と気を配って頂きありがとうございます。施設にいた頃にたくさん迷惑をかけたので、退所してからはあまり関わらない方がいいのかな？と思っていましたが、先生方が時々連絡をくれて娘の様子を見に来てくれます。忙しい中いつも感謝しています。恩返しとして、娘を立派に育てて見せます。ありがとうございました。」

さらに、現在、施設にいる子どもたちへの思いや、社会の在り方に対する記述も見られた。

「わたしたち施設出身者は、ある程度大人なので、そこそこ大丈夫です。ぜひ今いる施設の子どもたちに寄り添って、支えてあげてください。どんな子どもでも、心の支援は必要だと感じています。これからも陰ながら応援しています。」

「・・・被害体験にあい、トラウマを抱える人、困っている人ほど『助けて』とSOSが出せません。SOSが出しやすい社会になりますように。」

「・・・親だけが子どもを見るのではなく、その地域近隣で、みんなで子どもをみてあげることが大切だということを知ってもらえるような活動をしてほしいです・・・」

また、改めて退所生への支援の重要性について考えさせられるとともに、今後の支援に向けた示唆ともなる記述も見られた。

「施設を退所した人向けの支援があると嬉しいです。孤独感がすごいです。相談する友人はいるものの、寂しさを埋められるのは一時的です。」

「施設出身の方の中には本当に困っていても頼れる人や相談できる人がいないような方もいるかもしれないと思います。いろいろな理由があるかもしれないですが、心のよりどころや一緒にどうしたら良いか考えてくれる人がいると心強いので、本人からの発信を待つだけでなく周囲からも声をかけてあげるような支援も必要だと思っています。」

「今回のコロナの影響で本当に苦しかったので、この支援は助かりました。年2回ほどあると大変助かります。」

「園を退所してからは、今回の物資等の支援がなかったので、物資が手元に届いたときは本当にうれしかったです！！なので少しでも園との関わりが出来るようなイベントがあったりするの嬉しいかなと思います。退所した子達が一年に一回会える場を設けてもらうなど・・・！！」

※本アンケート調査の単純集計については、【資料2】P101に掲載。

第3章 退所生および施設へのヒアリング調査について

1. 調査の概要 P47
 - 1) 調査の目的
 - 2) 調査対象者
 - 3) 調査の実施時期
 - 4) 調査の方法
 - 5) 調査の内容

2. ヒアリング調査の内容について P49
 - 1) 退所生へのヒアリング
 - 2) 自立支援コーディネーターへのヒアリング
 - 3) 施設職員のグループ・ヒアリング
 - 4) ヒアリング調査を終えて

3. ヒアリング調査を終えて..... P70

第3章 退所生および施設へのヒアリング調査について

1. 調査の概要

1) 調査の目的：

アウトリーチ・プロジェクトに参加した施設の職員および退所生に直接ヒアリングすることで、本プロジェクトの効果や改善点、必要とされるアフターケアの在り方を明らかにし、関係者や広く社会に伝える。

2) 調査対象者：

- ①本プロジェクトの支援を受け、本センターに手紙をくれた退所生の中から3名
(学生、勤労者、子育て中の人)
- ②本プロジェクトに参加し、本センターに手紙をくれた施設職員の中から2名
(都内および都外の施設)
- ③本プロジェクトに参加したNPO法人 NPO STARSの施設職員 6名
(全国各地の施設)

3) 調査の実施時期：

2020年10月～11月 (全6回)

4) 調査の方法：

Zoomを使つてのオンライン調査

インタビュアーは法政大学 現代福祉学部・人間社会研究科 岩田美香教授

所要時間は、上記2の①退所生は40～50分間、②施設職員は1時間20～40分間、③グループヒアリングは2時間17分間。

5) 調査の内容：

①退所生への主な質問項目

- Q 1. 本人について (性別、年齢、入所期間、入所理由など)
- Q 2. 現在の状況 (現在の家族・同居者、仕事、収入、定位家族)
- Q 3. コロナ禍での影響・生活の変化
- Q 4. 日常頼れる人、相談する人
- Q 5. 退所後に最も困ったことと、その相談・解決策 (解決できなかった場合)
- Q 6. 施設との関係 (どのように、あるいは、なぜ、とれなかったか)
- Q 7. 今回のプロジェクトの評価 (良い点、改善が望まれる点)
- Q 8. 希望する支援 (誰にどんな支援をしてほしいか)
- Q 9. その他

②施設職員への主な質問項目

- Q 1. 施設概要 (定員、設立時期、小規模化の状況)

- Q 2. リービングケアの状況（担当者、施設外の資源、資源の開発、家族関係への支援）
- Q 3. 退所生への支援（日常的、非日常的、コロナ禍における退所生への支援の変化）
- Q 4. 退所生への支援の難しさとその要因
- Q 5. 今回のプロジェクトでの退所生との関係の変化
- Q 6. 今回のプロジェクトの評価（良い点、改善が望まれる点）
- Q 7. その他

③施設職員のグループヒアリングの主な質問項目

- Q 1. リービングケアについて
- Q 2. アフターケアと今回のプロジェクトについて
- Q 3. 今後のアフターケアに向けて

2. ヒアリング調査の内容について

1) 退所生Sさん（20代女性、夫と2人の子どもと同居）

①児童養護施設への入所について

児童養護施設には高校3年生から1年間いた。小学校に入る前も保育園と連携している施設にいたことがある。5人兄弟の一番上。母親が精神的に弱く、離婚を繰り返したので、父親は4人いた。自分とすぐ下の弟は父親が同じ。父親が変わるたびに、県外を転々としていたが、中学2年の時に兄弟バラバラで施設に入るか、祖母のところに行くかを選べと言われた。兄弟がバラバラになるとかわいそうだと、祖母に引き取られたが、祖母と上手くいかなかった。高校は出たかったので、児童相談所に相談した。担当の人はいい人で、児童養護施設と里親のどちらにするかと聞かれた。母親が里親は納得しなかったので、児童養護施設に入ることになった。

施設にいたときは門限が8時だったので、大変だった。施設から高校まで1時間かかった。駅から施設までも自転車で30分かかる。退所する時には、音楽が好きなので、お風呂で聞けるスピーカーをもらった。施設を出てから8年になる。

②現在の生活状況について

夫と4歳と2歳の子どもと4人暮らし。仕事は保険の営業。以前は接客業をしていた。自分の収入は月11万円ぐらい。近くのファーストフード店で夜と週末にバイトをしているので、追加収入が3万円ほどある。

夫は今年の1月に転職し、住宅リフォームの営業をしている。9月から社員になり、月収20万円だけれど、ここから毎月3～4万円、仕事に必要なものが引かれている。会社はこの分をボーナスで返すと言ったのに、4か月分の12万円の内8万円しか返してもらってない。残りは次のボーナスで返すと言われている。月1回しか休みがないし、朝6時から夜の11時過ぎまで家に帰ってこない。夫は子どもを大切にしてくれる。お休みの時は保育園の送り迎えもしてくれる。

私の両親は亡くなった。自分の祖母は車で10分のところに、夫の母親は車で5分のところにいる。義母は私が夜働く時は助けてくれるが、あまり子育てを手伝ってくれない。72歳の祖母が一番助けてくれる。仕事に行かなければいけないのに、子どもが熱とか出したときも来てくれる。

③施設を出てから困ったことと相談した人

施設を出た後で一番困ったことは実母の自殺。上の子を産んだ時だった。母親かどうか確認してほしいと警察から連絡がきた。伯母が子どもを見てくれたので、夫と一緒にいった。その時は子どもの存在に一番支えられた。

夫がお金を使ってしまうので困っている。切迫流産で入院していたときも30万円使いこんでいた。離婚のことも考えたが、夫の母親から「お金は貸すから、離婚しないで。」と言われた。今、お金の管理は自分がしている。

祖母以外に相談できる人は母親の弟の叔父さんとそのお嫁さん。叔母は私より11歳年上で年も近く、よく話を聞いてくれる。10分ぐらいのところに住んでいる。出産の里帰りはそこで世話になった。

施設のMさんから季節の変わり目に、「元気？」と連絡してくれる。自分の心に余裕があるときは返信している。Mさんは施設の学園祭にも誘ってくれたり、誕生日にも連絡してきてくれる。

母親が亡くなったとき、子どもが生まれたときは、Mさんに連絡した。Mさん以外に知っている職員は施設にいない。離婚を考えたときは、どこに相談に行ったらよいかわからなかった。Mさんには調子が良い時は話せるのだけれど、困ったときはなかなか話せない。

④ コロナの影響による生活の変化

コロナになって、仕事が1か月半、在宅勤務になったが、在宅で営業はできない。8月までは仕事ができなかったので、収入が大幅にダウンした。営業の仕事は歩合制。昨年よくがんばったので半年前の査定で基本給が10万円になった。

在宅中は保育園を利用できなかった。子どもたちが家にいて、食事もつくらなければならない。感染が怖いので外にも行けないので、100円ショップで大きな画用紙を買ってきて、いろいろ作って遊んでいた。家に子どもとずっといるのは大変。小学校5年生の時は学校に行かず、弟の面倒をみていた。弟にどなりちらしていた。保育士にもなりたいくらい子どもは好きだけれど、心に余裕がないとだめだと思う。

⑤ 今回のプロジェクトについて

M先生からLINEで連絡があって、「やってみないとわからないけど、何かできるかもしれない。」と言われた。「他の人は大丈夫？もっと困っている人がいるのでは？」と聞いたら、「そんなこと言わないで」と、M先生が背中を押してくれた。

最初に食料品などが来て、とても助かった。心理士の人や職員の方々からのいろいろなものと一緒に家に持ってきてくれた。子ども服や手作りのマスク、調味料とお米など。お米が一番助かった。食べ物さえあれば、なんとかなるから。

特別支援金は家のローンや子どもの服とおむつ、食品に使った。とても助かった。ふだんキャッシュレス決済で、明細もスマホで見ているので、報告用のレシートを集めるのが大変だった。

支援金がなかったら、食べ物をもやしにして、電気を消すとかしたと思う。自分が小さい頃、生活に困ったので、子どもにはそういう思いはさせたくない。働く時間を増やしたかもしれないが、そうすると、子どもとの時間が減ってしまう。

⑥ どのような支援があるとよいか

離婚を考えたときに、保育園に入れなかった。国は「子どもを産め」というのに、「働け」ともいう。そうすると、夫の協力が必要。昔は夫が働き、女の人が子育てや家のことをしていたが、今は、共働きだと、女の人負担が多くなる。子どもを産んだ後の支援が少ない。

今、2人の子どもは別の保育園に通っている。毎日、送迎に30分かかる。仕事が遅くなると、保育園から「早く子どものお迎えにきてほしい。」と連絡が来る。また、コロナの時、「本当に保育園に来ることが必要？」と聞かれた。できれば家で保育したかったけれど、働かなければいけなかった。子どもへの感染が毎日怖かった。

小さな子どもがいるので、インフルエンザの予防接種を受けたい。夫も自分も会社から補助がでるので受けたいのに、10カ所連絡して、全て終了していた。予防接種を受けたいのに受けられない。みんな困っているのではないかな。

悲しいニュースが多すぎて、心がついていかない。子どもがいるから友だちと遊ぶ時間はない。ストレス発散が苦手なので、日々模索中。子どもを産むまでは、手を切ったりしていたが、よくないのでやめた。言えないことが多くなると、喉の奥が痛くなる。一人でどこかに行きたい。趣味はギターを弾くこと。もくもくと料理をしたり、お菓子を作ることも好き。一人でいたい。

2) 退所生Hさん（20代男性、大学生）

①本人について

22歳男性。都内の施設には4～9歳の間暮らしていた。その前に一時保護の施設に半年ぐらい滞在したことがある。入所理由は、1歳の時に母子家庭になり、金銭面で養育するのが難しかったからと聞いている。

現在は、母親と2人で暮らしている。大学4年生。ITを専攻。IT企業に就職が内定している。大学1～3年の頃はバイトをしていたが、4年は研究が忙しいために、アルバイトはできていない。

②コロナでの生活の変化

母親は飲食業で働いており、コロナのために仕事がなくなり、収入がなくなったので、生活が非常に厳しくなった。しかし、施設や大学が支援してくれた。第1種の奨学金（無利子の貸与型）を受給しており、今年から大学の授業料70万円の免除も始まった。また、区から緊急給付金もあり、なんとか生活できている。

大学では一斉にオンライン授業になったので、学生はPCなどを用意する必要があった。自分はITを学んでいるので、PCは使っていたが、授業用のマイクやカメラを購入する必要があった。大学からは機材代として1万円支給された。PCを持っていなければ10万円ぐらいは必要だったろう。また、通信費はPCの回線なので、電話代も含めて月4,000円程度払っている。

③施設との連絡

9歳の時に施設を出て、幸運なことに施設の近くの都営住宅があたった。施設には電話も頻繁にしているし、施設のイベントの手伝いにも行っている。2～3か月に1回ぐらいは施設と連絡。近所なので連絡しやすい。

施設の先生から「困ったらいつでも連絡していいよ」と言われていた。いつも連絡をくれるのはまとも役の人だが、施設に遊びにあって、いろんな職員と話している。

施設で自分を担当してくれた先生は既に辞めてしまったが、ベテランの職員さんともつながっている。退所生が集まるバザーなどのイベントもあり、そこでも退所生や職員とつながりができる。

④施設を出て困ったこと

一番困ったことは、大学に進学する学費の工面だった。高校卒業後の就職も考えた。でも、どうしてもITを大学で学びたいという気持ちが強かった。施設の先生に相談し、奨学金などの情報をもらった。成績もよかったので、第1種奨学金をもらうことができた。

住んでいる自治体にも相談した。担当の人は親身になって聞いてくれたが、特に母子家庭の進学支援はなかった。

施設にいたときは、勉強は嫌いだった。苦手な科目はあったが、テストはがんばった。わからないことは高校の先生や友達に聞いた。塾には行っていない。

大学入試以外で困ったことは、施設を出てからは母親の収入が安定していなかったため、生活保護をずっと受けていた。高校2年生の時に、生活保護を抜けようとした時は、数か月間、生活が大変だった。無駄のものは全て切り、節約に努めた。

母子家庭の子どもの無料の学習支援が1か月ぐらいあったので参加した。大手の塾の人たちが教えてくれた。当時は子ども食堂や学習支援などはなかった。

⑤今回のプロジェクトについて

最初に支援物資として、ささみの肉、缶詰、パンなどが届いて、とても助かった。1週間ぐらいの食費が浮き、ありがたい支援だった。できればよいが、シャンプーなどの日用品も入っていると嬉しい。10万円の緊急支援金についても、2~3か月前に施設から話があった。学費の支払いがぎりぎりだったので申請した。使途報告書用の学費の領収書が10月末に届くので、締め切りを過ぎそうだったが、待ってもらった。

⑥今後希望する支援

自分は研究が忙しくてバイトができないが、自分のまわりの学生はバイトをしたくてもなかった。こうした学生への仕事の斡旋があるとよいのではないか。

自分がお世話になった施設は18歳で退所し、就職する人が多い。大学に行きたい人に行ける支援があるとよい。そうすれば、より安定した職につける。就職活動をしていても、大学から受け付ける企業が多い。大学に行くと、仕事の選択の幅も広がる。大学に児童養護施設出身の学生がいるが、進学時のお金が大変だったと言っている。

施設には大学生のモデルはいなかった。でも、自分は高校だけだと学べないITの専門知識を学びたかった。施設を出て、学校でPCを触ったらとても楽しかった。学びたいことがあれば、母親もお金を出してくれるといった。自分が小学生の時はPCに触るだけだったが、今の子どもたちはプログラミングを学べたりするので、ITに関心のある人が増えるのではないか。

コロナ下でもIT業界は人材不足なので、就職には困らないが、建築科の学生は就活に苦戦している。また、飲食業のバイトは減ったが、IT業界では入力作業などもある。バイトや仕事がない人たちにバイトや仕事の情報提供や斡旋するような支援ができるとよいのではないか。

3) 退所生Mさん（20代女性、勤労者）

①本人について

現在、29歳、女性。2歳～18歳の時に施設で暮らした。入所した理由は、親の貧困とネグレクト。高校を卒業し、施設を退所した後は学校求人で見つけた寮付きの有料老人ホームに就職。介護職として真面目に働き、サブリーダーになったが、入居者の何気ない一言で躓き、摂食障害を発症し、休職、退職することになった。

今年3月に離婚し、今はひとり暮らし。元夫は、自分が知らない間に自分の名義で多額の借金を作っていたり、精神的支配もひどかった。また、元夫は仕事もせず、家にお金も入れず、家事もせず、自分が稼いだお金を搾取するなどのモラハラ行動もあった。

姉と兄、母がいるが、関係性は良好とは言えず、疎遠になっている。兄とはLINEでつながっているが、頻繁に連絡をするような関係ではない。

②コロナによる影響

風俗店に勤務している。仕事の収入は月額で十数万円程度だが、ばらつきがある。コロナの影響で2月下旬から客足が遠のき、緊急事態宣言発令の間は休業となり、全く働けていなかった。解除後、現在も、金曜日と土曜日しか出勤させてもらえていない状況。8月に他店に面接や体験入店にも行ったが、店の対応も悪く、さらに、その客に病気を移され、働くのが困難になってしまった。

コロナ以前にも昨年からの体重減少等の異常はあったが、今年になって離婚・引越し後に緊急事態宣言で休業になったことにより、収入が途絶え、無茶な節約を余儀なくされたことにより、摂食障害が再発した。

③相談した人

主に施設の職員さんに相談している。今年1月に離婚の相談をしていたこともあり、その後ずっと、緊急事態宣言発令期間以外は、困ったことがあると駆けつけてくれたり、頻繁に相談に乗ってもらっている。数日に1度はLINEでやりとりをしてくれている。

兄には相談はしない。本当に困ったことがあると、担当の職員さんに連絡して助けてもらっている。18歳で施設を離れるときに、「困ったことがあったらいつでも連絡しておいで」と、言ってもらっていた。

④施設を出て一番困ったこと

退所後に一番困ったことは、大きな施設だったので、ひとり暮らしを始めると、表現するのが困難なほどの孤独感があった。この先、自分が仕事を失っても、飢えても、お金が無くなっても、ホームレスになっても、既に退所した身であり、誰も助けてくれない。失敗しても、他の人みたいに実家に帰ったりもできない。当然親にも頼れない。誰にも気づかれず、すぐにこの世から消えてしまうのではないかとずっと思っていた。

また、施設にいた当時、退所生で正社員でなくなり、落ちぶれた人のことを施設の職員さんがよく思っていないようだったので、「自分は落ちこぼれにならないようにしなければ…」というプレッシャーも重くのしかかっていた。

⑤施設との連絡

現在は、施設の職員さんと主にLINEのメッセージでやり取りしている。数日に1度程度。緊急的な用事で、すぐに返信がなかった場合は、施設の電話に連絡している。

施設を退所した後は、年に1度、退職した職員と退所者のつどいがあり、在園生も参加して、BBQなどをしているので、その交流会に参加していた。また、8月には地域のお祭りがあり、施設に行ったが、それ以外に施設に行くことはなかった。

結婚してからはこうした施設の行事にもなかなか行けなかったが、去年はタイミングがあったので参加したところ、職員さんに「相談してもよいのかな」と思った。今年になってから相談に乗ってもらって、協力してもらっている。

こうした退所生も参加できる行事を企画してもらえると、それに向けて日々の生活をがんばっていけると思う

⑥今回のプロジェクトについて

今年、離婚でばたばたしていた時に、職員さんから「こういう支援があるから、申し込んでもよいか？」という話があった。6月ぐらいに支援物資を職員さんと一緒に買いにいった。

コロナの緊急事態宣言や自粛生活で孤独感がより一層強くなり、不安やいらだちばかりが大きくなっていったが、お会いしたこともない方々が心配してくださったことに、あたたかさを感じた。

また、緊急支援金についての資料に「できれば、退所生と直接会って、支援金を振り込んだり、渡したりしてほしい」と書いてあったので、職員さんと会うことができ、嬉しかった。10万円という多額の支援は、生活が苦しい状況だったので助かった。

支援していただけただけで本当に嬉しかったので、改善してほしいと思った点は特にないが、強いて言うならば、もう少し提出レシートの対象期間が長いと、より有効に活用できると思った。あるいは、支援金を何回かに分けて支給してもらえると利用期間が長いからよいかもしれない。

⑦今後あるとよい支援

退所後にあるとよいと思う支援は、今回のように生活が困難になった時の金銭的な緊急支援。それから、フードバンク。できれば、食べ物を自宅まで配達してくれると助かる。施設の退所生は車や免許を持っていないことが多く、施設入所時に自転車に乗る習慣もついていないので、移動手段が徒歩・電車・バスのみであることが多いため、実際にフードバンクに行くことが困難だからだ。

また、傾聴ボランティアもいてくれると嬉しい。誰かに話を聞いてほしいが、今、それを施設の職員さんに全て背負わせてしまい、負担がかかってしまっていて非常に申し訳ないと感じるので。傾聴ボランティアは、施設の関係者であってもなくてもよい。直接会わなくても、電話が苦手なので、LINEでのやりとりがよい。

4) 都外の施設の自立支援コーディネーター

①施設について

昭和30年に創設され、今年で61年目となる。以前は小学校の近くにあったが、平成2年に学校から40分離れた現在のところに移転。田んぼに囲まれている。建物はすでに築30年となり、建て替えが必要となっている。

本園には、女子のユニットが2つと男子のユニットが1つある。また、地域小規模グループ・ホームとして、男女のホームが1ずつある。それぞれ、幼児から高校生までが一緒に生活している。最近では中高生の入所が増えている。

県内に児童養護施設は4カ所しかない。本施設は近隣6市と契約し、可能な限り地域の子どもたちを受け入れるショートステイも実施している。

私は本園に15年間勤務したのち、昨年4月から地域連携室に配属となった。場所は市役所の近くにあり、自立支援コーディネーターと家庭支援の担当、里親支援の担当の3人が配置されている。障害福祉分野の相談・支援は児童養護施設の子どもたちだけでなく、地域の人も対象としている。

本園が老朽化しているので、来年の夏から建て替えを予定している。公費負担が減っているので、中心メンバーの一人として、クラウドファンディングで資金集めも行っている。

②リビングケア（退所に向けての支援）について

◆実施内容

認定NPO法人ブリッジフォースマイルが発行した「ひとり暮らしのためのハンドブック 巣立ちのための60のヒント」を活用している。また、施設で地域にアパートを借りて、高校生が1日～1週間、ひとりで暮らしを体験する。

◆担当者

以前はホームごとに複数の職員がチームで取り組んでいたが、最近、個別ケースの担当制ができた。子どもの担当職員と自立支援コーディネーターとで計画・実施している。

◆外の機関との連携

大学や専門学校に進学しても不安定な子どもも多いので、進学先の担任とも打合せをしている。

県の社会福祉協議会の奨学金も活用している。これは在学中の2年間に支給され、卒業後5年間働くと返済しなくてよい。この制度を利用することで、7年間、県社協や施設とつながることができる。

また、県内には自立援助ホームが1カ所あり、退所後、子どもたちがそこに相談にいたり、ごはんを食べる会などに参加することができる。

施設には障害のある子どもも多く、退所前から福祉サービスとつなぎケース・カンファレンスなどもしているが、障害のない子どもたちに対しては、あまり支援ができていないと感じる。

◆家族との関係の調整

18歳で施設を出て家庭復帰するケースは減っている。この5年で5名以下。家庭に復帰した場合でも、親が子どもに関心がないこともある。上手くいっているケースは、退所前に家族と児童相談所と施設とでケース・カンファレンスを数回実施し、今までの経緯を

伝えながら、今後について話し合いをしている。

兄弟の家族と遠慮しながら暮らしている子どもが20歳の成人を迎えたときに、ACHAプロジェクトで袴を着せてもらい、家族を呼んで一緒に写真を撮ったことがあり、よい支援ができたのではないかと思う。

家庭復帰には児童相談所と連携している。担当者によっては、子どもの生い立ちの整理のために、絵本を作ってくれた人もいた。子どももそれを大切にしている。生い立ちの整理は児童相談所または施設で実施するが、方法が難しいので、施設職員全員ができるわけではない。

18歳で施設を出て、家庭に復帰しなかった子どももいるが、その母親に「お母さん、子育てお疲れさま」と声をかけたりしている。中には、子どもが施設にいる間に子ども手当を貯めていたが、家庭に戻ったら、それを親が使ってしまったというケースもある。その場合、再度施設に入るように児童相談所や施設が調整することもある。大切にしたいのは、子どもが施設に行くことを納得しているということ。子どもたちは自分でどうしたいかを言うことは稀だ。言っても無理だと思っている。親との関係で悩んでいる子どもに対しては、施設職員がその心に寄り添うようにしている。

③アフターケア（退所後の支援）について

◆日常的な取り組み

施設として20歳までアフターケアをすることを数年前に決めた。それまでは、職員個人の気持ちに委ねていた。この決定により他の職員からも理解してもらい、業務としてアフターに行きやすくなった。

退所前に子どもたち一人ひとりの「自立計画支援書」を作成し、本人と担当職員、主任と共有する。半年に1回は更新したいと考えている。ここには、面会の目的や頻度などが記載されている。子どもによっても違うが、最初は月に1回程度会うようにしている。

また、昨年からは、施設の子どもや職員の寄せ書きが入った誕生日カードを20歳まで送ることにした。施設にいる間は誕生日を盛大に祝ってもらえるのに、退所するとそうした機会がなく、その差が大きいことに気がついたからだ。

施設として20歳までアフターケアをしようと決めたのは、身寄りのない子どもが巣立っていくために必要だからだ。親からのひどい虐待で児童相談所に逃げ込み、在園中も自傷行為が激しかった子どもが退所した後、崩れていったケースもあった。こうした退所生に対して、心理士も関わって支援している。

なお、退所生と食事をしながら面会する場合は1人1,500円まで、月に何回まで、差し入れは1回1,000円までとか決めている。

◆イベントやイレギュラーな取り組み

また、退所生が参加する施設のイベントとしては、創立記念日のある10月に学園祭がある。お盆やお正月のイベントはない。学園祭は300名ほどの来場者でにぎわう。退所生も子どもを連れて参加している。今年はコロナの影響で実施できなかった。

◆コロナによる退所生への影響

このプロジェクトを受けなければ、退所生の変化に気がつかなかった。「コロナのために収入が減った」というような相談が退所生から来てはいなかった。このプロジェクトで

連絡したところ、いろいろ困っていることがわかった。

今朝、アウトリーチ・プロジェクトで支援した30歳を超える退所生からLINEで「電話で相談したい」という連絡があった。

④アフターケアの課題：

◆施設の課題

施設がアフターケアをする場合の課題はその財源。時間の捻出については、小規模施設であると難しいが、職員の連携でなんとかなる。現在、アフターケアの経費がないので、措置費を削って行うことになる。そうなると、面会の際の食事や差し入れの効果はどれだけあるのかを検証することになるが、なかなか効果を証明しにくい。

アフターケアをしていると、インケア（入所中の支援）やリービングケア（退所に向けての支援）がどのくらいできたのかという問題提起をされているように感じる。施設にいる間に、子どもたちの強みや弱みについて本人と一緒に確認し、退所後どうしたらよいかを話してきたかが退所後の生活を左右する。

先日、県内の4施設と心理治療施設にアフターケアの財源をどうしているかを聞いてみたところ、職員が経費を負担しているケースが多いことがわかった。

◆退所生の課題

自分はこうなりたいという気持ちがない子どもたちがいる。今回のアウトリーチ・プロジェクトで、心療内科の診察代を支援してもらった子どもからここ数日連絡がきているが、自分の復職についてどうしたらよいかかわからない。ドクターからはまだ休むように言われている。本人の気持ちを受容しつつ、施設にいる間に、社会で生きていく覚悟や社会に向かっていく準備ができればよかったと考えている。

◆専門機関との連携

アフターケアについて専門的に行うNPOとの連携が重要だと思っている。

施設にいる間に、退所に向けて、職員が何をめざして日々子どもたちと関わっていくのかを本人とも共有しておくことが必要であり、それをアフターケアのNPOに伝えられるとよいのではないか。

これは自分自身の反省でもあるが、子どもたちの現在の問題の原因は過去にあると考えていた。しかし、アフターケアの専門NPOは、退所後に3日～1週間程度しか会わなくても、その子どもの強みや弱みを把握するアセスメント力がある。そして、その子どもがこれからどう生きていけばよいのかについて、いろいろな選択肢を用意できる。施設職員もこうした力を身に付けられるとよいだろう。

県内の施設の子どもたちの進学率は低く、就労しても続かないという調査結果がある。働くイメージがないまま、職場に飛び込んでいるのが原因。そこで、県の社会福祉協議会と各施設の代表者が協力して中高生に就労体験の機会を提供している。小学生も見学できる。しかし、企業とよいご縁があっても、就労継続は課題。自分とのつきあい方を施設にいる間に身に付ける支援が足りないのではないか。

⑤今回のプロジェクトに参加して

◆退所生の状況

今回のプロジェクトは年齢制限や、「学生のみ」または「就労している人」という制限がなかったので、18歳まで施設にいて、連絡がつく人は全員に連絡した。

このプロジェクトがあったので、今まで連絡がとれていなかった人とも連絡がとれるようになった。また、何人かには実際に会って顔を見ることもできた。それぞれの退所生の成長と今抱えている困難を知ることができた。特に、2次支援としての緊急支援金を申請する時には、退所生がだいぶ深いところまで話してくれた。

例えば、夫婦ともに児童養護施設の出身の退所生に1次支援の救援物資を送った際は、本人のお金の使い方が悪いようにも見えた。2次支援の緊急支援金は家賃の補助に使わせてもらった。この件で夫婦の家で会って、いろいろなことがわかった。実は、夫の両親が何かにつけてお金を要求してくるが、「嫌われたくない」という思いから、それをはねのけられないということだった。こうした親子関係について、施設にいる時に親とのこうした関係についてもサポートできたらよかったと思う。その他にも、自分に自信がないので、親からお金をゆずられているケースもある。また、仕事の大変さについて話してくれた子どももいた。表面からは見えないことがわかった。

◆本プロジェクトの改善点

今回支援していただいた子どもたちが東京ボランティア・市民活動センターにお礼の手紙を書いたら、お返事をいただいた。プロジェクトの内容もわかりやすかった。遠慮ではなく、改善点は思いつかない。

この報告書のように、児童養護施設について社会に伝えていくというソーシャル・アクションが大切だと感じている。

例えば、虐待する親からの追跡がないように、住民票を児童養護施設に移せない子どもがいる。そのために携帯電話の契約ができなかったり、銀行口座が作れないということが起きる。児童養護施設の状況を知らない企業の支店レベルだと難しいが、本店だと理解があり、対応してくれるところがある。社会の人たちが児童養護施設について理解してくれることによって、こうしたハードルが少なくなっていけば、施設の子どもたちも生きやすいだろう。

最近、施設の子どものたちの状況を知れば、協力してくれる人たちがいることもわかってきた。このプロジェクトでのソーシャル・アクションに期待したい。社会に向けて動く人たちも重要だと感じている。

5) 都内の施設の自立支援コーディネーター

①施設の概要

子どもの定員は56名。ユニットは8つあり、本園に5ホーム38名、グループホームは3棟に18名いる。現在、4棟目のグループホームを作ることを検討中。創立してから今年で85年目。職員は45名（常勤職員）。

②退所に向けた支援（リービングケア）の状況

◆担当者

本施設の支援の特徴として、子どもの個別化・差別化（結果の平等化）と、生活をベースとした支援がある。『退所前だから、この時に、この職員が、この話をする…』というような、生活から取り出すことはしない。点ではなく、線で支援することをめざしている。子どものテーマ・課題ごとに子どもを集めたり、いろいろな職員が対応したりするのではなく、その子の生活全体を見ているホーム担当職員（生活支援スタッフ）がリービングケアについても担当している。そして、それをサポートするのが専門職であり、その中に自立支援コーディネーターも含まれる。

◆方法

昔は、退所へ向けて学年ごとに生活訓練をしていたが、今は、退所前だから何かを特別にするということはない。日々の生活の中で退所に向けて日々取り組んでいる。とはいえ、退所が近づいてきたら、ひとり暮らしをする場合は住むところの物件探しをするなど、現実的に即した動きを行っている。

家庭復帰の場合は、退所前に1LDKの間取りの多目的室を活用し、親が子どもに朝食を食べさせて、学校に遅刻しないように行かせるという日常生活を体験してもらう。休日の帰宅だけではイベント的な交流になってしまうことも少なくないため、退所へ向けて家庭復帰後の生活を想定した生活を子どもにも親にも、『ことば』だけでなく『体験』してもらうことを実施するケースもある。

退所する子どもたちがSOSを出せることが大切なので、施設にいる間に人に頼ることや失敗したときも誰かが一緒にいてくれるという経験をなるべくたくさんしてほしい。高齢の子どもが退所する時は、「私たちができることは少ないかもしれないけれど、困っているときは頼ってほしい。相談する先の選択肢の一つに入れてくれたら嬉しい」と伝えている。相談はなるべく早くしてくれた方が対応の幅が広がる。退所してから躓くと、施設に相談するのはハードルが高い子が多いようだ。自分が上手くいっているときは施設に連絡するが、困ったときは頼れない子が多い。子どもたちは自分の弱いところやしんどいところを見せたくない。「かっこわるい自分になっても大丈夫だから。頼ってくれない方が残念だから。音信不通にならないでね」と、“お願い”として伝えている。

◆外部の資源

家庭復帰の場合は、施設ファミリーソーシャルワーカーが児童相談所と共働をして支援している。特に虐待で施設に入っている子どもの家庭復帰後は地域での見守りが必要なので、退所前に関係機関と連携することが大切になってくる。困った時はどこに連絡したらよいのかを親子に伝え、退所後の情報提供やネットワークづくりをしているが、施設や地域とつながらない親子もいる。

自立のケースでは、就労自立の場合は、社会的養護の子どもの就労を斡旋している団体を活用して就労する子どももいる。

退所後に子どもが様々な思いから施設に相談しにくくなることを想定したり、施設だけに依存してしまう可能性を考え、複数の支援先があった方がよいので、アフターケア相談所の紹介を行ったり退所前に職員と活用してみたりすることもある。NPOなどの退所者支援の団体は増えてきたが、活用したことがない団体の場合は、活用したことのある施

設に様子を聞いてみるなど活用するに際して慎重になっている。都内の自立支援コーディネーターは隔月で集まって情報交換をしている。東京都全体で集まったり、6つの地域ブロックごとに集まる。ブロックだと地域も近いし、小規模なので、情報交換がしやすい。

③退所後の支援（アフターケア）について

◆日常的・継続的な支援

子どもの状況によって、ケースバイケースで対応している。子どもが大変な状況の時は毎日のようにメールや電話をし、その子の回復とともに間隔をあけていくようにするなどしている。普段の連絡は数か月に1回の連絡でよい場合もある。誕生日だけの連絡でよい子どももいる。子どもの状況や担当との関係性の中で頻度や方法も決まってくる。

高齢児になって家庭復帰した場合は、本人と直接連絡ができるが、低年齢の子どもだと、親を通してなので、本人と連絡をとりあうのが難しい。

◆イベント・イレギュラーな支援

以前は退所生が集まるような総会をしていたが、リスクもあり、子どもの課題や特徴は個別性があるので、全員集めるようなイベントを今はしていない。その子どものイベントに施設があわせる形だ。誕生日なので連絡して、会ってお祝いしたり、カードを送ったり、結婚式に呼ばれることもある。早急な対応が必要な場合もある。弁護士に相談したり、法人がお金を貸して、外部との関係を整理したり、子どもを施設に避難させるということもある。

インケア（施設内の支援）も全員参加のイベントは辞めた。職員と個別に旅行に行ったり、入所前に住んでいた地域やその子が行きたいところに行くなど、子どもの希望や目的をもった支援としての個別のイベントを行っている。アフターケアも個別の支援にしている。全体での集まりだと、退所生同士の力関係を職員も把握しきれず、巻き込んだり巻き込まれたりすることがある。加害・被害の関係だと、加害者の子をそのイベントに呼ぶことはできないなど課題が大きい。

退所の時に、入所生との関係や退所生同士の関係について、お互いに気持ちよいものであるようにと伝えている。「トラブルに巻き込まれたり、巻き込んだりしないよう気をつけて。自分の人生のことをよく考えて付き合い方を決めてほしい。もし、退所生同士でトラブルがあったり、断れないということがあれば、相談してね。」と話している。最終的には本人が判断するが、自分にとってプラスの関係かどうかを考えるようにアドバイスをしている。

◆アフターケアの課題

インケアもアフターケアも個別支援なので時間がとられる。子どもが退所後に支援してほしいのは苦楽を共にしてきた担当職員だが、その職員はインケアだけでも多忙なので、時間外での対応になってしまう。そのため、アフターケアは担当職員の気持ちに頼っている部分が多い。担当職員が忙しくすぐに時間を作れなかったり、退職してしまったりしている場合などは、自立支援コーディネーターの自分に対応している。アフターケアにバラつきが出ることもある。その他、課題はたくさんある。

◆コロナの影響

今までも退所した子どもたちに連絡をしていたが、今回のコロナによるアフターケアで、

子どもたちはSOSを出すことが難しいことに改めて気づかされた。特に、大変な状況のまっただ中ではSOSは出しにくいことや、聞き方や聞くタイミングが重要であることを再認識した。

定期的に連絡をとっていた子どもだったが最近電話をしてきて、正社員で働いているが、コロナの影響で6月は給与が一桁だったことがわかった。今回のプロジェクトで、その子に連絡をとったときは大丈夫と言っていたが、実は、貯金を切り崩して生活していたようだ。連絡がとれているから大丈夫かと思っけていても。表面上のことばや健やかさで判断してはいけないということを改めて思い知った。

④退所生への支援の難しさ

退所生にやってあげられることはとても少ない。連絡を取り合える関係性を保つことが一番大切だとは思いますが、いざ、子どもが頼ってきた時に、施設では対応できないことが本人の一番求めていることだったりする。例えば、保証人になってほしいという相談がある。お金が必要だというときも施設としては殆ど対応できない。公的機関と一緒に出向くこともあるが、公的支援の範疇ではない状況もある。そのようなときは、何もできなくて、本当に申し訳ないと思う。本人も施設で対応できないとわかっている（諦めている）ので、施設を責めたりはしないから、それがまた辛い。

⑤今回のプロジェクトについて

このプロジェクトがあったおかげで、会うことができた退所生がいる。他の退所生とのトラブルをきっかけに、施設に対し『恩を仇で返して申し訳ない』と言い残し施設との関係性を絶ってから4年になるケースである。その間、返信がなくても、自分から毎月1回は「どうしてる？」とメールを送るようにしていた。今年になり、その子から4年ぶりにメールの返事があった。ただ、こちらが焦って関係を戻そうとすると、せっかく本人が勇気を出して連絡をくれたのにまた離れてしまいそうなので、アプローチに慎重になっていた。しかし、その子もコロナのために金銭的に困っていたので、このプロジェクトの緊急支援金の話をしたら、本人がそれを受け入れて、4年数か月ぶりに会うことができた。想像より早く会ってもらえた。

支援できることがあれば、それを理由に堂々と会うことができる。連絡しても何もできないよりは、支援できるものがあつた方がよい。4年間手を差し伸べることができなかったもので、ありがたかった。

退所生へのアプローチは根気があることだが、なかなか反応がなくても、子どもたちの心情を想像しながら、連絡を取り続けたいと思う。ありがたかったのは、今回のプロジェクトは施設を通しての支援だったことである。これがきっかけで退所生にアプローチでき、また、退所生が自ら支援団体に連絡しなければいけないと、そこまではしたくないという子どもたちもいる。子どもたちも「知らない人たちとやりとりをしなくてもよいことが嬉しかった」と言っている。

また、アンケートは退所生への負担になることも多いが、本プロジェクトのアンケートは退所生の負担にならないように答えやすい形式だった。退所生に配慮してくれていることがわかった。また、支援によっては複雑で、説明書を読み込まなければいけないものも

あるが、本プロジェクトは何をするのかが明確だったので、職員への配慮もしてくれていたように思う。

⑥今後の希望すること

もし、できるのであれば、今回のプロジェクトの申請時期を逃してしまったケースが多かったので、通年で申請できるような基金があり、アフターケアに使える資金があると、より有益である。支援が必要なタイミングが子どもによって違うからだ。

また、最近、有名人の自殺というニュースが相次いだ。施設の子どもたちのように心に傷を深く負っていると、ぎりぎりのところで生きている。その有名人のファンでなくても、無意識に影響を受けてしまっているのが、施設の子どもたちの様子を注意深く見守るようにした。退所生はもっと孤独なので、社会情勢の影響を受けやすい。アフターケアでは社会の動きも気かけなければいけないと思う。しかし、できることは少ない。担当職員の負担も増える。イベント的なケアだと楽だが、個別の伴走型支援をしたい。今は、担当職員のボランティア意識に頼っているが、担当職員がインケアもアフターケアも両方できるように、担当職員1人が見ている子どもの数がせめて今の半分に減ると、もっと丁寧なケアができるのではないかと。

自分たちが想像する以上に過酷なことを経験してきた子どもたちを、自分が『丁寧だ』と感じる何倍も丁寧にケアしないと届かない。どの子どもも、子ども時代を子どもらしく生きられる世の中になってほしい。支援は、インケアとアフターケアのどちらかではなく、その子の入所前の状況、親との関係、その親の持つ背景というように、点ではなく線で考えることが必要である。

多くの一般家庭の子どもたちは、自分もそうだが、親元離れてからも時々家に戻り、「子ども」をさせてもらって、少しずつ大人になっていく。施設の子どもたちはそれができない。特に何の後ろ盾のない退寮生に対して施設が実家のような機能も果たせたらと考えるが、ハード面含め課題が多く、実家として機能させられていない。施設の子どもたちは、すぐに大人にならなければいけない。失敗するとまるで全てが終わってしまうような状況を生きている。

今のアフターケアはいろいろ足りないが、やれることを探して、やるしかない。施設に連絡くれる子どもには感謝している。連絡とれない子どもたちはどうしているか気になっている。

6) NPO法人 NPO STARSのメンバーへのグループヒアリング

①リービングケアについて

◆施設A

退所後の支援担当者はいないが、退所前に担当した職員7～8名が窓口になって対応している。退所する1年前に複数の職員とつなぐようにしている。お金、薬、体、食事など、テーマごとに担当がいて、退所生はその職員に連絡する。

本県では県と社会福祉協議会が主催し、中学校・高校の時から仕事体験ができ、そこで知り合った中小企業に就職している子どももいる。

障害のある子どもは障害福祉施設につなぐことができるが、それ以外の子どもは施設外

の資源につなげられていない。進学の場合は大学や短期大学、専門学校の相談室に事前にあいさつに伺っている。資源の開発はまだまだできていない。

家庭に復帰する場合は、保護者と子どもと職員の3者で約束事の確認や家族関係の調整をしている。

◆施設B

退所時は家庭支援専門員や所属する棟のチーフと子どもの担当職員が関係機関との調整や退所の準備などを進め、複数の職員が関わっている。

施設外の資源としては資生堂財団の主催する自立支援セミナーに高校3年生が参加している。県独自のものでは、高校生全学年を対象に県が主催するキャリアカウンセラー講座に参加して退所生の体験談や一人暮らしに何が必要かを学んでいる。

児童養護施設を出て大学に進学することは、今では普通になってきたが、大学生活と自立生活の両立が大変なので、20歳まで措置延長して施設にいられるようにし、児童相談所や保護者と相談しながら、学校生活に力をそそげられるようにサポートしている。しかし、20歳の誕生日には措置解除となるため県の社会福祉協議会の自立支援資金の貸付制度を利用している。

高校を卒業して、就職した子どもたちもこの貸付事業を利用しており、施設がアフターケアの窓口となっている。就職先とも施設にいる間に話し合いをもつようにしている。企業側が児童養護施設の子どもの雇ったことがないので、いろいろ説明しながら、企業の人と一緒に仕事と生活を支援している。

特別支援学校の子どもは、就労・生活支援センターの担当ワーカーに入ってもらって、仕事と生活の両面でサポートしてもらっている。ただ、センターとはそれまでの子どもとの関係性がないので、当分の間は施設職員がセンターの職員と一緒に家庭訪問をしたりして、支援している。

高校中退の子どもたちも多い。15～16歳の子どもたちは未熟なので、中退しても18歳までは施設でケアしたい。そこで、定時制に入りなおして、施設で生活をしながら、時間をかけて自立の準備をさせるようにしている。

県のアフターケア事業の委託機関があり、2週間、一人生活を体験することができる。施設職員も訪問し様子を見ることができる。また、本県には、就労に向けて職親プロジェクトがあるので、就労体験をすることも可能。最終的には本人が体験先に就職するかどうかを決めるが、職親は住む場所も提供してもらえる。

家族の関係支援については、措置解除後でも18歳までは児童相談所と協働し、18歳以上はアフターケア機関と一緒に施設が実施している。

資源の開発はまだあまりやっていない。既存のものを活用して進めている。

◆施設C

本施設では自立支援コーディネーターが中心となり、子どもの担当者や施設長、家庭支援専門員、調理担当などが複数で支えている。例えば、調理担当が子どもたちの好きなメニューの作り方を教えたり、健康担当が今後の投薬管理などを指導している。

施設外の資源としては、財団や企業などによる進学のための奨学金を利用している。施設に在籍中にNPOの自立支援プログラムにも参加し、退所後もそのつながりがある。施設にも連絡があり、いろんな人に支えられているのがよいと思う。

最近、発達障害があり、退所後に福祉分野の通勤寮やグループホームにつながる人が増えている。未成年後見人を決めてもらい、退所後、サポートしてもらっているケースもある。また、地域の障害福祉課とも退所前につながっておき、本人が誰に頼ればよいかわかるようにしている。

特別支援学校は卒業後も支援がしっかりしている。

高校中退の子どもに対しては、定時制の学校や通信教育などに再チャレンジしている。

家族との関係の支援は、退所の前に家族・親族と児童相談所と施設とで会議を開いている。自立の場合は保証人や携帯電話の親権者、学費の管理などをどうするかについて、親子だけで話し合うのが難しいケースもあるので、児童相談所や施設が入り、役割分担を決めている。

◆施設D

子どもたちは担当職員に愛着があるので、子どもが選んだ職員を退所後の主担当にしている。若い新しい職員と小さい頃担当していたベテランの職員がペアとなり対応する。担当していた職員が退職した場合は、長くいる職員が対応するようにし、子どもとのつながりを保ち、子どもたちから施設に連絡しやすいようにしている。

自立に向けては、食事づくりも子どもたちができるように、買い物を職員と行っている。また、高校生のグループワークを月1回実施し、心理士と主任が入る。高校の学年ごとに実施したり、全学年で実施することもある。そこでは、施設にいることでの悩みや施設を出ることでの不安について話し合ったり、職員が、お金の使い方や人間関係の作り方などを話したりしている。

年に1度、退所生を呼んで、進学や子育て、就職、転職などで、どんなことに苦労したのかを、失敗談も話してもらいながら、どうやって、そこから立ち直るかといった話をしている。施設の先輩という身近な人からの話は子どもたちに伝わりやすいようだ。

NPO STARSの自立支援セミナーにも参加し、印鑑の取り扱いなど、いろいろなテーマで、他の施設職員から話してもらっているのもよいようだ。

施設外の資源としては、地域小規模グループがある地域の子ども会に参加しているので、子ども会の大人たちが声をかけてくれる。退所生は施設にはこないけれど、地域のまつりに参加していたりする。犬や猫の好きな子はお散歩仲間ができて、そのご家族から食事に誘ってもらったりしている。また、野球チームやサッカーチームの監督が連絡してくれている。このように外の団体に入ることも大切だと感じている。

県の独自事業として、民間のアパートを借り切って、ケースワーカーが付いた施設がある。月額何千円かの家賃を払えば利用できる。大学や専門学校に行く場合は、20歳までは措置延長し、その後は、この施設へ移るといろいろ相談ができる。

親がいない子どもたちは、未成年後見人と入所中につなげておき、退所した後も未成年後見人から連絡が来るようになっている。

退所した子どもたちが、本児童養護施設と同じ法人が運営している高齢者施設で働くこともあり、その場合は職員寮が利用できる。

進学する子どもたちに対しては、大学・専門学校の事務担当者につながるようになっている。各大学の奨学金もできてきたので、手続きの仕方を教えてもらったりしている。法人独自の奨学金もあり、学費だけではなく、生活費も支援している。親が家庭ひきとりを希

望しているけれど、家庭から学費を出す経済的余裕はなくても、家庭に戻ってしまうと児童養護施設の子どもたちのための奨学金は使えないので、当法人の奨学金を利用している。

また、退所する前に小さい時から、生き立ちの整理をしておくことが必要だと感じている。

◆施設E

本市では平成30年度から自立支援コーディネーターを配置した。本園は現在、自立支援コーディネーターが家庭支援専門員を兼任しており、退所生が親との関係が上手くいかなくなった場合にも相談を受け、対応している。

施設外の資源は、その子どもの必要に応じて紹介している。退所後は人とのつながりが必要。某協会は7カ所の青年センターで月1回食事をとりながら、子ども同士の交流の場を提供している。企業からも奨学金や生活費の援助をしてもらっている。

高校中退の子どものための通信制の学校が増え、希望者もいる。学校に通いながら、施設で自立をめざしたい子が多い。アルバイトが続かない子も多いが、企業の住み込みもある。しかし、市外である為慣れない環境もあってか、姿を消してしまうこともあり、施設を出て、上手く仕事につながるものが課題である。

◆施設F

本県では職業指導員を配置しており、自立支援コーディネーターの代わりとなっているが、県内の全施設に配置されているのではなく、2施設のみ。退所生には、担当をしていた職員が主に支援しているが、長く勤務している職員がみんな関わっている。

施設外の資源としては、特別支援学校が徒歩圏内にあり、ここに通う子どもたちも多い。彼らの退所後は、グループホームや市の障害担当や社会福祉協議会と連絡をとりながらサポートをしている。

また、アフターケア相談所が1カ所ある。施設および里親の子どもたちを対象として、企業との面接やインターンシップなどを実施している。中小企業同友会が就職先として協力してくれている。このアフターケア相談所が退所生に定期的に連絡してくれるので、施設にいる間にこの相談所とつながっておくようにしている。特に、発達障害やコミュニケーションの問題のある子は早めにアフターケア相談所に相談している。ただこの相談所も県内18施設を担当し、業務過多なので、施設もアフターケアを行っていくことが必要だと思う。

退所後、家族復帰して好転するケースは少ない。高校まで施設にいて、その後は自立することを希望する子どもたちが多く。親には就職の保証人にはなってもらっている。

②アフターケアと今回のプロジェクトについて

◆施設F

退所生へのアフターケアとしては、職業指導員が個人の携帯ではなく、施設の携帯でLINEのやりとりを月1回している。また、今年から業務として、訪問も月1回実施する予定だったが、新型コロナウイルス（以下、コロナ）のために退所生の訪問ができないでいた。退所して半年も経たないうちに、大きな借金ができて子どももいる。

今回のプロジェクトでは退所した20名とコンタクトを取った。このプロジェクトがあったから、全員に電話で連絡がついた。今のところ、大変な状況の子どもたちはいなかった。

◆施設A

退所後に定期的に連絡している。最初は週1回程度、落ち着くいてくると月1回程度。バナナの買い方を相談してくる退所生もいる。相談する子はしてくるが、自分が困っていることを困っている時に相談できない子もいる。問題が大きくなってしまってから、介入することもあるので、連絡はこまめにとらないといけないと考えている。退所してから何年まで連絡するのかが検討課題になっている。

今回のプロジェクトで19名を支援した。過去7年ぐらいまでさかのぼって、最近連絡がとれていない子どもにもつながった。コロナで仕事がなくなった子もいた。退所してから年数が経てば経つほど、施設に相談しにくいので、今回のプロジェクトがよい機会になった。その後、子どもたちから連絡が頻繁に来たり、これを機に連絡が取れた子もいる。

高校生の時に2～3年だけ施設で生活して、退所した子どもへの支援が難しい。今まで電話にも出なかったが、さすがにコロナで仕事が全くなり、部屋に籠っていたので連絡が取れた。このプロジェクトで、物品と緊急支援金10万円を届けた。生活費がなくて、貯金も切り崩していたので、家賃と食費に使った。その後、仕事も決まって、今、2か月目になり、ようやく生活が整い始めた。その子には、毎週少しずつお金を渡すようにしたので、お金が足りないと電話をしてくるようになった。誰かに相談してよいということを体験的に学べたのではないか。

◆施設B

コロナ下では、子どもたちが学校に行かないで施設にいた。また、コロナを持ち込まないために職員は外に出れないという状況だったので、退所生とはLINEでやりとりをし、家庭訪問はできなかった。ある退所生は外食産業に就職したが、試用期間が長かったので、コロナが落ち着くまで正規採用が遅くなり、その間は社会保険に入れていなかった。

退所生への支援の難しさは、担当職員との個人的な結びつきに委ねている面が大きい事である。インケア（退所前のケア）であればケース・カンファレンスをして、予防的な支援ができたり、実践の振り返りができるが、アフターケアの場合は、退所生が困ってしまってから、その情報が入ることが多く予防的に手を打つことが難しい。

チームとしてアフターケアができる体制を組みたい。退所生から小さな困りごとの段階で連絡がくるようになるとよい。例えば、子どもが施設を出るときに、児童手当や措置費の支度金、民間企業の奨学金等を含めて、ケースによっては100万円以上の大金を持たせることがあるが、自分では管理できない。本人は「だいじょうぶ。」と言うが、お金を使ってしまうと身動きがとれなくなってしまうケースもある。退所後の財産管理は大きな課題である。遺産等莫大なお金が入ってきた場合は弁護士さんに未成年後見人になってもらう場合もある。

今回のプロジェクトでは退所後5年以内に絞り、10名の退所生を支援した。このプロジェクトでは退所生と頻繁に関わる機会があったので、生活状況を把握しやすく、必要な支援がわかった。退所してから5年以上でも連絡はとれるが、現状の生活把握まではできていなかった。こうした緊急の支援について退所生にどう説明するのが難しい場合もある。退所生が家庭を築いていて、施設から連絡してほしい人や施設にいたことをパートナーに伝えていない人もあるため連絡を取る時に慎重さが求められる。

◆施設C

施設独自の奨学金がある。外国籍の子どもの場合は、退所後の在留資格申請の支援も行っている。今回のプロジェクトでは17名に支援物資を送り、緊急支援金で3名を支援することができた。コロナの状況等により、仕事ができなくなった2人と、進学したがバイトができなくなった1人だ。緊急支援金の10万円は彼らの生活の立て直しができ、彼らと連絡をとるきっかけとなった。

このプロジェクトに参加し、より積極的に退所生の状況を把握しようとした。退所生の困っていることはさまざまだった。「話を聞いてほしい」、「お金がない」、「収入があるが、公共料金の支払いができていない」、「助成金の申請の仕方がわからない」など、個々のニーズがわかり、今後のアフターケアに活かすことができるよいきっかけになった。

◆施設D

退所生が自分ではお金の管理ができないので、本人の希望で、施設にいた頃に貯まった子ども手当が入っている通帳を施設が預かっている。大金を持つと、タクシー代など、すぐに使ってしまう子どももいる。施設で通帳を預かっている子は、施設に来てもらって話す機会があるので、いろいろなことで悩んでいることがわかる。

例えば、退所生が子育てをしていると、自分のトラウマが表出してきて、「子どもはかわいけれど、このしかり方は虐待だろうか。」という相談の電話がくることもある。コロナ下ではこうした不安が増す。今回のプロジェクトを利用した退所生が電話をくれるようになった。

支援物資を送付する20名をどう選ぶかについて、主任の間で話し合い、一番苦労していそうな子で、連絡がとれる子やアンケートを返してくれそうな子を優先した。選んだ子以外の子どもたちも困っているかもしれないので、これからどう関わっていけるかを検討しているところだ。

退所生の中にはプライドがあり、「施設の退所生扱いされたくない。もっと困っている子にあげてほしい」と、言う人もいた。

今回のプロジェクトでは、支援物資の資金とともに、施設の追加支援ができるための2万円の資金もあったので、今まで退所生に会いに行く交通費や食費代は職員が自腹で払っていたが、この資金を使っ子どもたちと会って、困っていることの相談を直接受けることができた。この資金で子どもの電車代も出すことができたと言った職員が喜んでいる。アフターケアのためのお金の支援はありがたい。退所生と会って支援したいが、職員の自腹だとなかなかできない。

◆施設E

退所生の支援としては、連絡が入ったときにゆっくり話を聞くようにしている。施設のまつりを年に1回、土曜日に開催して帰りやすい環境を作り、退所生も同窓会気分が集ってくる。

経済的な支援については、施設独自の基金がある。子どもたちには、「返せるときに返してね。」と伝えている。すぐに返せる子もいれば、毎月千円ずつでも返す子もいる。コロナ下では外に出られず精神的にめいってしまったという連絡が多かった。入所している子の親が経済的に厳しいという連絡もあった。コロナ下で、進学するのか、就職するのか、進路選択を悩んでいる子どももいる。

退所生の中には「困った」と言えない人がいて、音信不通になっている場合が多い。過去には自死してしまったケースもあった。どんな形でもよいので、施設に相談できるような関係性を作りたい。

③今後のアフターケアに向けて

◆施設E

退所した子どもたちがSNS等を含め、お互いに繋がっていることで、支援対象の範囲を決めるのが難しい。今回のプロジェクトでは、携帯を持ち始めた平成元年以降の35名に声をかけた。10万円の緊急支援金で1人を支援した。居酒屋で働いていたが、コロナの関係で仕事がなくなってしまった退所生だ。

施設が退所生に食料などの物資を送る「実家便」は年齢の制限があったり、グループホームに入っている子は対象外となっているが、今回のプロジェクトは退所生の制限がないのがよかった。昔に退所した人ともつながれた。条件のない支援の必要性を感じた。

◆施設D

子どもたちが施設に依存するのではなく、必要な時に連絡がとれるようにすることが大切だと思う。退所生には担当職員の個人の携帯で連絡をしているが、難しい子どもは施設の電話で連絡している。今回のプロジェクトを通して、退所生にもっと積極的にアプローチすることの必要性を感じた。施設では年に1度、バザーがあるので退所生が来る。その際に連絡先を書いてもらい、クリスマスにカードを送っている。施設とのつながりをもちたい子はバザーに来る。40歳すぎてもつながりを求めて来る人もいて、対応していく必要がある。

◆施設A

職員の個人の電話番号は教えない。入所している子どものケアもある中で、退所生にいつまでアフターケアをするのが課題となっている。また、子どもたちが頼れるところを施設だけにしないことも大切だ。職場関係や新しい生活のところに頼れる人を作り、困ったときは身近な人を頼り、その人たちに言いにくいことは施設へ相談するようにして、頼れるところをたくさん作りたい。

◆施設B

職員の携帯番号を退所した子どもには教えている。子どもとの関係のなかで、施設には直接相談するまではいかないが、職員個人には気軽に相談できる場合が多いため。しかし個人携帯の対応は場合によって負担にもなりかねないため、施設の携帯があり、職員が相談に使えるようになるとよい。退所生からの相談内容は職員間で共有し、その職員が抱え込まないようにしている。施設でできる支援には限りがあるので、すぐに動かなければいけない支援についてはアフターケア事業の委託機関にお願いし、役割分担することが必要だと思う。

今回のプロジェクトは即時性があった。希望としては、コロナ下での緊急支援だけでなく、コロナ下でなくても困ってしまった時に現金で支援することができるような、いつでも利用できる基金があるとよい。

今回のプロジェクトはあまり制限がなく、施設の裁量で使えた。普段からアフターケアに体系的に取り組んでいる施設は支援の厚みがあったが、職員が個人でしか退所生と繋

がっていない施設は、プロジェクトの自由度が高すぎて、どのように使ったらよいかわからず申し込まなかったのではないか。そういう施設には資金使途のガイドラインや好事例を紹介したり、コーチングができるとういのではないか。

◆施設D

施設がアフターケアに使える2万円の使い方がわからないところがあった。レシート¹の提出が必要なのか、いつまで使えるのか、残った残金はどうしたらよいか等、もう少し説明がほしい。

◆施設C

いきなり緊急支援金を渡すのではなく、まず、支援物資のパッケージを送ったことによって、子どもたちのいろいろな状況が見えてきた。コロナで仕事がなくなった、アルバイトがなくなった等、本当に大変な子どもには緊急支援金を申請した。まず支援物資を送ったことによって、その後の支援につなぐきっかけになったように思う。

◆施設E

このプロジェクトの最初の案内が来てから、申込期間が短かったので、ケースの洗い出しができないと思ったが、その後、締め切り延長の案内が来たので応募できた。申込が間に合わなかった施設もあるのではないか。また、今回、応募しなかった施設は、既に施設で「実家便」を送っていたり、該当する退所生がいないというところもあるかと思う。

3. ヒアリング調査を終えて

【報告と分析】法政大学 現代福祉学部・人間社会研究科 教授 岩田美香

1) 退所生へのヒアリング

①入所の背景と退所後の生活

退所生へのヒアリングでは、子育てをしている女性、大学生の男性、勤労者の女性という三人から、お話を聞くことができた。いずれも、施設入所に至る理由となっている家族との関係や生活の困窮が、施設を退所した後の生活にも影響を及ぼしている。

子育て中の女性は、実母の精神的な問題と離婚の繰り返しや就学前の施設利用、また祖母に引き取られた経緯などもあり、子どもながらも落ち着かない生活を送っていたと推察される。そうした生育歴にあっても、高校3年生の時に社会的養護に繋がる際には、「高校を卒業したい」という強い気持ちがあり、それを実現するために児童養護施設に入所している。施設退所後は、結婚し2児を育てているが、夫が浪費家で離婚を考えたこともあるなど、平穏な日々ではない。さらに実母の自死という凄まじい経験もしているが、その時は子どもの存在に支えられたと言う。

彼女の夫の仕事は、早朝から深夜までの勤務状況で、会社から「仕事に必要なもの」という名目で給与が差し引かれ、それをボーナスで返還するという約束も守られていない。彼女自身の仕事も、保険の営業に加えて、夜間と週末にファーストフード店でバイトを行い、ダブルワークで生計を支えている。そこへコロナ禍による大幅な減収と、保育園が利用できない事によって在宅で子どもを見ることとが重なり、家事と生活のやりくりにもストレスを感じている。自身の友達とも遊ぶこともできず、ストレスをどのように発散したらよいのか悩んでいる。子どもたちとは、お金のかからない工夫をしながら遊んでいるが、「子ども好きであっても心に余裕がないとだめだと思う」と言うように、生活が逼迫していることが、子育てにも影響してくると話していた。

大学4年生の男性は、母子家庭の貧困という理由で4歳から9歳まで施設に入所しており、現在は施設の近くの公営住宅に母親と二人で生活している。彼は、塾も使わず、高校の先生や友人、そして無料の学習支援を活用しながら勉強を頑張り、成績もよいために第1種の奨学金も利用している。しかし、大学進学の際の学費など、金銭的な困窮を経験している。また、生活保護も受給していたが、受給を廃止するための数か月間の生活も大変だったという。就職の内定も得ているが、卒業に向けた研究が忙しいために、現在、アルバイトはしていない。

コロナ禍により母親が失業し生活が困窮した。奨学金の他に、大学の授業料一部免除や区の緊急給付金で何とか生活できているが、オンライン授業に伴う経費なども発生している。

勤労者の女子は、親の貧困とネグレクトにより2～18歳まで施設に入所していた。高校を卒業し退所した後は、寮付きの福祉施設で働いたが、摂食障害を発症し退職に至って

いる。私生活では、元夫が仕事もせず、お金を搾取した上、彼女の名義で多額の借金もついで離婚している。現在は一人暮らしで、風俗店で働いている。母親やきょうだいはいるが、関係が悪く疎遠となっている。

コロナ禍によって仕事が減り、客から病気を移され、収入減にともなう無茶な節約で摂食障害を再発している。

②施設との関わりと支援

ヒアリング調査に協力してくれたということもあり、三人とも施設との関わりが取れている。それでも職員に対して相談しづらい状況や、反対に施設職員と繋がることになった経緯など、彼らのエピソードからは、多くの示唆が得られる。また、本プロジェクトの運用に関しては、「施設を通した」実施が大きなポイントとなっているようである。

子育てをしている女性と施設との関わりでは、季節ごとに、また彼女の誕生日や施設の学園祭に声をかけてくれる職員の存在が大きい。それでも、「(自分が) 調子のいいときは話せるけれども、困った時は話せない」と語っているように、支援が必要な困っている時に相談をするということは高いハードルとなっている。

今回の支援物資では、特に食料品が助かったが、心理士や職員が子ども服や手作りマスクなども一緒に自宅にもってきてくれたことを喜んでた。要望する支援としては、子どもを産んだ後の子育て支援について語っていた。プロジェクトの支援金により、「食事をもやしにして電気を消す」といった生活が回避できている。子どもには、自分の幼少期のような困窮した生活をさせたくないが、仕事時間を増やすと子どもとの時間が減ってしまうというジレンマもあり、国の就労支援と子育て支援に対する不満も述べていた。

大学生の男性は、施設から近くに居住していることもあり、施設とは頻りに電話連絡をしたり、イベントの手伝いに行っている。入所当時の職員は辞めてもいても、イベントなどを通して他の退所生や職員との繋がりをつくっている。

今回の支援物資では、やはり食料品が助かったが日用品も希望していた。支援金は、支払いがギリギリだった学費の残金に充当した。要望する支援としては、自分自身の経験から、より安定した職に就くために施設出身者へ大学進学への支援を行うことや、学生のアルバイトが見つからない現状から、アルバイトの斡旋や情報提供の支援について語っていた。

勤労者の女性は、施設の規模が大きかったため、一人暮らしを始めた時には、自分は既に退所した立場であり、実家にも頼れず誰も助けてくれないのではないかと「表現するのが困難なほどの孤独感」を覚えたという。施設を退所する際には、担当職員から「困ったことがあったらいつでも連絡を」と言われてはいたが、入所中に、先輩である退所生の「落ちぶれた」状況を職員が良く評価していないと思い、自分が「落ちこぼれにならないように」というプレッシャーも感じていたと言う。職員には頼れないと思っていた彼女が、施設と繋がるようになったのは、年に一度の退所生の集いや地域の夏祭り（施設から花火が見られる）である。久しぶりにイベントに参加する機会があり、「職員に相談してもよいのかな」という気持ちから相談がはじまり、現在は数日に1回程度、職員とLINEでやり

取りするようになっている。こうした行事や企画が行われることは、退所生にとっても、その日程に合わせて日々の生活を頑張っていけると話していた。

今回の支援プロジェクトでは、支援物資も職員と一緒に買い物に行き、緊急支援金についても職員と直接に会うことが嬉しかったと語っている。10万円は、本当に苦しい生活の助けになっていた。あえて述べた運用上の改善点としては、レシートの提出の期間が短すぎることをあげていた。

さらに今後に向けた支援としては、緊急的金銭支援や、食料品の宅配（2週間に一度か、月に一度ぐらいの間隔で）があげられた。退所生は車や運転免許を持っていない者が多いのでフードバンクに行くこと自体が困難になっているという。また、施設職員に限らない傾聴ボランティアも希望していた。強い孤独感を感じていたからこそそのニーズであり、電話が苦手ということもあるので、LINEによるやり取りを希望していた。メールやLINEは、多方面における相談のツールとして取り入れられてきているが、支援される若者にとっても、今後の繋がりの方策として使いやすいものとなっている。

2) 施設職員へのヒアリング

施設職員へのヒアリングは、東京都外と東京都内における施設の自立支援コーディネーター各1名ずつに話を伺った。両施設ともに退所生への支援の充実に向けて様々な改善を図っているが、東京都外の施設は施設全体として行う支援を整えているのに対して、東京都内の施設は施設全体のイベントは廃止し、子ども一人ひとりに応じた支援を行うという特徴をもっている。しかし両施設ともに共通点も見られる。例えば、退所生へのアフターケアは施設入所中のインケアやリービングケアの質と繋がっているということ、また、退所生への「支援」をするために、その後ろ盾となる資源を必要としていることなどである。

①退所に向けての支援

東京都外の施設における退所に向けた支援では、子どものホーム担当職員と自立支援コーディネーターによって計画・実施され、子どもたちの進路となる学校や社会福祉協議会、自立援助ホーム、アフターケアを専門的に行うNPOなどと連携して展開されている。数年前に施設として「20歳までアフターケアする」ことを決めただけで、業務として出向きやすくなった。退所前に「自立計画支援書」を作成し、本人・担当職員・主任で共有した後、半年に1回は更新していく。退所した当初は、月に一回程度は面談することや、20歳までの誕生日カードを送付すること、そして退所生との食事や食品の差し入れについての回数と料金の規定もでき、職員個人の対応ではなく施設として対応するように整ってきた。

18歳で施設を出て家庭復帰するケースは減っており、親の無関心や親による子どもへのお金の無心など、子どもが家庭復帰して残念な思いをした事例も見られた。一方、家庭復帰が叶わない子どもに対しては、20歳の成人式ACHAプロジェクトや、児童相談所との連携による生い立ちの整理も大切である。

アフターケアをしていく中での課題としては、アフターケアを実施する財源の問題がある。さらに、インケアやリービングケアの中身が退所後の生活を左右するという、施設内

での支援についても問題提起もされているように感じる。また、関連するNPOのアセスメント力の高さと支援の確実性から、施設職員の力量も問われている。

都内の施設では、施設全体として子どもの個別化と生活ベースの支援を目指している。従って、リービングケアも子ども生活全般をみているホーム担当職員が担当し、それを自立支援コーディネーターを含めた専門職がサポートする体制をとっている。支援は入所前の状況や親との関係、親の背景といったように、点ではなく線で考え、支援も点ではなく線で展開することを目指している。家庭復帰の場合は、ファミリーソーシャルワーカーが児童相談所と連携し、自立の就労支援の場合は子どもの就労を斡旋している団体を活用している。NPOなどの外部の退所生支援団体は増えているが、活用には、その団体についての情報収支を通して慎重に活用している。また、子どもたちがSOSを出せることが大切と考え、インケアの段階から、人に頼ることや失敗しても誰かがいてくれるという経験を重ねられるようにしている。

アフターケアにおいても、その子の状況や状態に応じて、繋がるツールと頻度は決まっていく。インケアにおけるイベントや旅行も同様に、全体ではなく子どもの要望に応じて個別対応で行っている。アフターケアの課題としては（インケアの課題でもあるが）、個別支援により職員の時間が取られることと、職員間によるばらつきがみられることである。

②今回の支援について

都外の施設による今回のプロジェクトの感想としては、年齢や属性などの制限がなかったことを評価している。その結果、18歳まで施設にいた者全員に連絡をとることができている。さらに、当初は退所生の問題としてとらえていたものが、その背景（生まれ育った家族からの影響など）を知ることを通して、表面からは見えていなかったことも分かってきた。

今後に向けては、児童養護施設と児童養護施設の子どもたちについて、社会に伝えていくソーシャル・アクションの必要性を訴えている。複雑な家族背景を背負っているからこそ、社会生活が送れない現実もある。子どもたちの背景と現状を知ってもらう必要があるとしている。

都内の施設においても、今回のプロジェクトが施設を通しての支援であることを評価している。このプロジェクトによって会うことができた退所生や、退所生の理解について新たな気づきも得ている。この施設では、インケアの段階からSOSを出せるように実践してきているが、やはり退所生はSOSを出すことが難しいということや、本人とは連絡が取れていて、本人も「大丈夫」と言っている、生活の内実は異なっていたことなどである。表面上のことばや健康状態で判断してはいけない事を思い知ったという。さらに、支援を求められても、こちらからは支援できない辛さも痛感している。今回、支援ができる後ろ盾があって退所生に連絡を取ることができ、「堂々と」会うことができた。

今後には、アフターケアにも使える通年で申請できる基金を要望している。加えて、孤独を抱えている退所生への伴走型支援を行うためにも、施設担当職員の一人当たりの児童数は半分ほどにすることを提案している。

3) NPO STARSへのヒアリング

6都府県の施設から各1名ずつが参加し、リービングケア、アフターケア、今回のプロジェクトや今後の要望についてグループで話していただいた。それぞれの地域と施設の特色のもと、日ごろの実践や思いが語られていたが、一つひとつが考えさせられる内容であり、退所生へのアフターケアを工夫していくうえでの助言となった。

以下、5つの項目に分けて主な実践例や意見をまとめていく（同様の意見はまとめて記している）。

①退所生への支援担当

- ・退所する1年前に複数の担当者と繋ぎ、お金・薬・食事などテーマごとに担当がいて、退所生は、その職員に連絡する。
- ・複数の職員が関わる（家庭支援専門員、所属棟のチーフ、子どもの担当職員）
- ・複数の職員が関り、例えば、調理担当などは子どもの好きなメニューの作り方を教えたり、健康担当が投薬管理を指導する。
- ・子どもが選んだ職員を退所後の主担当に。
- ・若い職員と、（子どもが小さい頃に担当していた）ベテラン職員がペアで対応。職員が退職した時の継続性の担保。
- ・自立支援コーディネーターが家庭支援専門員を兼務して担当。
- ・担当した職員が主に支援しているが長く勤務している職員がみんなに関わる。

②児童養護施設から社会に向けて

- ・施設以外の主催による、自立支援セミナーやキャリアカウンセラー講座、アフターケア事業の委託機関での一人生活の体験などに参加させる。
- ・就労に向けた職親プロジェクトで就労体験。職親は住むところも提供する。
- ・児童養護施設の子どもを雇ったことがない企業と一緒に仕事と生活を支援する。
- ・子どもたちが頼れるところは施設だけにせず、色々な人に支えられているのがよい。
- ・地域の子ども会や野球チームなど、外の団体に入ることも大切。
- ・社会福祉協議会の自立支援資金の貸付制度を利用している。
- ・施設独自の奨学金がある。
- ・大学生活と自立生活の両立が難しいので、20歳まで措置延長して施設にいられるようにして、大学生活に力を注げるようにする。
- ・15～16歳は、まだ未熟なので高校中退しても18歳までは施設でケアしたい。定時制高校などに入りなおして施設で生活をしながら、時間をかけて自立の準備をさせる。
- ・外国籍の子どもには、退所後の在留資格申請の支援も行っている。
- ・親のいない子どもには、入所中から未成年後見人に繋げておく。
- ・主任と心理が入り、高校生のグループワークを月に1度実施。悩みや施設を出ることの不安を話し合う。お金の使い方や人間関係についても講義。
- ・年に一度、退所生（先輩）を呼んで失敗談も含めた体験談を話してもらう。
- ・退所する前に、小さい時からの生い立ちの整理をしておく。

◆障害を抱える子ども

- ・特別支援の子どもは、就労・生活支援センターのワーカーに入ってもらい、仕事と生活の両面をサポートしてもらうが、最初は施設職員も一緒に支援をする。
- ・障害者施設、福祉分野の通勤寮やグループホーム、未成年後見人、地域の福祉障害課と繋がり、本人が誰に頼ればよいのかをわかるようにしている。
- ・特別支援学校は卒業後の支援もよい。

◆家庭復帰

- ・家庭復帰は退所前に、家族・親族と児童相談所、施設で会議。約束事の確認や家族関係の調整。役割分担。
- ・家庭復帰して好転するケースは少ない。高校まで施設にいて、その後に自立するケースが多い。親には就職の保証人にはなってもらっている。

③退所生と施設が繋がる工夫

- ・職業指導員が個人の携帯ではなく、施設の携帯でLINEのやり取りを月に1度、行っている。
- ・職員の携帯番号を退所した子どもに教えている。子どもとの関係で職員個人には気軽に相談できる場合が多いため。しかし個人携帯での対応は負担にもなるため、施設の携帯があり、職員が相談に使えるとよい。
- ・退所生からの相談内容は職員間で共有し、その職員が抱え込まないようにしている。
- ・退所後の定期的な連絡は必要。最初は週1回程度、落ち着いてくると月に1回程度。
- ・問題が大きくなってから介入することもあるので、こまめな連絡は必要。
- ・子どもが施設に依存するのではなく、必要なときに連絡が取れるようにすることが大切。
- ・連絡が来た時は、ゆっくり話すようにしている。
- ・施設のお祭りを年に1回、土曜日に開催し退所生が帰りやすい環境づくり。退所生も同窓会気分で集まる。
- ・年に一度バザーがあり、参加した退所生には住所を書いてもらって、クリスマスカードを送っている。
- ・お金の管理ができない退所生は、本人の希望で、まとまった手当などが入金されている通帳を施設が預かっている場合がある。預かっている子は、施設に来て話す機会があるので悩みを把握できる。
- ・どんな形でもよいので、施設に相談できるような関係性をつくりたい。

④退所生支援の難しさ・悩み

- ・施設を出て、うまく仕事に繋がること。
- ・高校生の時に2～3年だけ施設で生活して、退所した子どもの支援が難しい。
- ・退所後の財産管理やお金の使い方：退所時には手当や奨学金など100万円以上の大金をもって出る子もおり、数か月でお金を使ってしまって身動きが取れなくなる。
- ・退所生が家庭を築いている場合など、施設から連絡してほしい人や施設にいたことをパートナーに伝えていない人もいるため連絡には慎重さが求められる。
- ・定期的な連絡について、退所してから何年まで連絡するかが検討事項。

- ・ 困難さは、担当職員との個人的な結びつきに委ねている面が大きいこと。

⑤今回のプロジェクトに関して

- ・ 退所生の年齢などの制限がなく職員の裁量で使えてよかった。昔に退所した人とも繋がれた。条件のない支援の必要性を感じた。
- ・ 今回のプロジェクトでは、頻繁に退所生に関わる機会があったので生活状況を把握しやすく必要な支援がわかった。
- ・ より積極的に退所生の状況を把握しアプローチすることが大切。個々のニーズがわかり、今後のアフターケアに活かすきっかけとなった。
- ・ 追加の2万円について。今までは退所生に会うための交通費や食事代を職員の自腹で払っていたが、今回はこれを使って会うことができた。退所生の交通費にも使えた。
- ・ プロジェクトを利用した子育てをしている退所生が、子育ての相談電話をくれるようになった。
- ・ コロナ禍に限らず、施設が10万円を支給するのは厳しい。
- ・ このプロジェクトは即時性があった。希望としては、コロナ禍でなくても困ってしまった時に現金で支援できるような、いつでも利用できる基金があると良い。
- ・ 普段から支援の体系ができていない施設には、お金の支給と並行して、資金使途のガイドラインや支援の好事例の紹介など、コーチングができると良いのではないかと。

第4章 児童養護施設のアフターケアを考える

法政大学 現代福祉学部・人間社会研究科 教授 岩田美香

第4章 児童養護施設退所生のアフターケアを考える

法政大学 現代福祉学部・人間社会研究科 岩田美香教授

1. 児童養護施設退所生の問題とは何か

今回のアウトリーチ・プロジェクトは、児童養護施設退所生への支援と同時に、彼らのおかれていまする現状についても明らかにすることができた。以下、アンケート調査とヒアリング調査の結果を中心に、児童養護施設退所生へのアフターケアについて考えたい。

1) コロナ禍の影響

新型コロナウイルスの影響により、児童養護施設の退所生たちの生活は大きな痛手を受けていた。アンケート調査からも彼らの半数は生活が悪化しており、それは性別や年齢や属性を問わず表れている。今回のアンケート回答者は、施設支援に繋がっているという、退所生の中でも比較的施設との関係が良好と思われる退所生であるのに、この結果である。さらに就労している者においては、パートやアルバイト就労に関わらず正規雇用であっても生活は悪化し、業種ではサービス業や製造業、医療・福祉領域に勤務している者たちへの影響が大きい。収入においても全体の約4割が減収しているが、コロナ禍以前の普段の収入が低い者ほど、より減額されている傾向がある。そのため、現在困っていることについても、収入が減った者は、生活全般の不安や現在の仕事の悩みを抱えるとともに、衣食等の費用、家賃などの住居費といった支払いの困難さに直面している。その悩みの深刻さは、アンケート調査の自由記述にも表れていた。

一方、無職者（6割が女性で7割が20代）においては、その働いていない理由も体調不良やコロナ禍の影響も含めた「仕事がない」ことであり、働きたくても働けない状況にある。彼らのコロナ禍以前の月収は10万円未満が8割を超えており、コロナ禍により生活が悪化した者も約6割と高い。彼らの困りごとは、就職、健康問題、生活不安であり、今後の支援についても資金と物資の支援、そして仕事に関する支援を希望している。

さらに今回、ヒアリング調査の対象でもある、学生や子育てをしている主婦もまた、大きな影響を受けていた。

学生は約8割が一人暮らしで、半数以上が働いてはいるが、その大部分がサービス業におけるパート・アルバイト就労をしている。コロナ前の月収は10万円未満が7割強と低く、コロナ禍によって約6割の学生の生活が悪化している。コロナ禍による減収も、以前の月収の6割以上減が4割と大きく減収している。こうした影響もあり、彼らの困っていることは、生活不安を筆頭に、学費や学校、就職、衣食等の費用、心身の健康と、目の前の生活や学校、就職、そして心身の健康問題を抱えている。ヒアリングをした学生においても、本人は頑張って勉強し成績をあげても、同居している母親が失業し、金銭的な問題が生じていた。

女性については、調査全体では約半数を占めるが、その女性の中でも主婦は1割程度である。主婦の年齢構成は20代が6割強で、就労状況では4割弱が働いている。学生と同様に、その大部分がサービス業におけるパート・アルバイト就労であり、コロナ禍以前の

月収は10万円未満の者が6割を超えている。コロナ禍によって生活が悪化した者は半数である。困っていることは、子育て・妊娠を筆頭に、生活不安、家族・親族の問題、衣食の費用、就職、健康問題と多岐にわたり、多くの困りごとをあげていた。また、今後の支援についても、資金と物資の支援と共に子育てや家事の支援をあげている。

2) 問題の背景

児童養護施設を退所し、自立して勤労している者であっても、仕事に就きたくても就くことができない無職者であっても、また学生や主婦においても、その生活は困窮していた。しかし、この退所生たちの生活の不安定さは、コロナ禍の以前から存在していた問題ではないだろうか。すなわちコロナ禍によって、もともとの生活の脆弱性が、より強く、より見える形となって私たちの前に表れてきたとも言える。

児童養護施設職員が中心となり、熱心に子どもたちの自立に向けた教育や就労に繋げる支援を展開している。しかし、その繋げていく先の社会をみると、完全失業率は近年減少傾向にあるものの、その内実は、非正規雇用としての仕事が創出されているにすぎない。非正規雇用者数は1989～2019年の30年間で2倍以上の増加となっているのである。本調査の結果でも、退所生の半分は非正規雇用であり、学生や主婦に至っては大部分が非正規雇用である。労働市場をめぐる不平等な雇用状況が、児童養護施設退所生にも偏在して現れており、これは労働市場も含めた社会全体の構造の問題でもある。

併せて学生と主婦の問題は、「家族で何とかする」といった家族責任を負わされることが一般的となっている教育や子育てに関する事柄である。これらの問題は子どもの貧困やひとり親家庭の貧困でも指摘されるものである。施設職員へのヒアリング調査でも語られていたが、多くの一般家庭の子どもたちは、高校を卒業して大学などで一人暮らしをした後も、帰省して、あるいは様々な形で実家からの援助を受け、なかには結婚や子ども（孫）が生まれた後にも親の援助は続いていく。しかし退所生には頼るべき家族は不在か機能しない場合が多く、なかには親が子どもたちの自立を阻害する場合すらある。家族主義の弊害は、家族に期待できない退所生にとって、より強く申し掛かってくる。

2. 退所生支援、施設支援、そして社会対応を考える

問題の所在が、コロナ禍に関わる問題と、その背景にある児童養護施設退所生の本質的な問題にあるならば、その対応も自ずと、退所生に向けた支援と、それを支える児童養護施設に向けた支援、そして社会に対する対応が求められる。

退所生に対する相応的な支援として、今回のようなコロナ禍や失業・病気など、緊急時の生活困窮に対しては、やはり給付型の金銭的・物質的支援が求められる。その際には、NPO STARSへのヒアリングで語られていたように、金品を渡すだけでなく、そこに人が介在するように支援を展開していく事が大切である。また、貸付金による支援は、彼らの日常生活水準を考慮すると、更なる借金を増やして支援をしていく事となり現実的ではない。さらに、彼らのニーズを把握し、情報提供を得るためにも、退所生と繋がっていく工夫は重要である。彼らの「困ったときほど連絡しづらい」という思いにも寄り添い、彼らがSOSを出し、あるいは実家を頼るように相談できる施設となっていくには、施設職員の専門性が問われてくる。

この職員の質を担保するためにも、施設への対応や支援が求められる。現在入所している子

どもたちへの対応もあり、施設職員が、落ち着いて退所生への支援を行っていく事は難しい。職員が担当する子ども数を見直すと同時に、退所生への支援を「施設での業務」として、きちんと位置付け環境整備を行うことが求められる。業務として位置づくことによって、施設職員がボランティアとしてではなく、個々の退所生のニーズをアセスメントし、その子にとって必要な社会制度や資源、サービスをアレンジするといったソーシャルワークが展開されるようになる。さらに施設への支援としては、一施設だけでは賄いきれないアフターケアのための財源への支援も必要となる。今回のプロジェクトの評価にも、施設が支援の軸となり、後ろ盾となる財源も保障されていたことが述べられていた。退所生に対する声掛けだけではなく、このプロジェクトによって一人ひとりに対する具体的なニーズ把握と支援が展開できたことは、大きな成果である。

これらの支援を社会から得るためにも、児童養護施設は、退所生の日常を守ることの重要性について発信していく必要がある。すなわち、働いても貧困状態にあるといったワーキングプアへの対応や、高等教育を含めた学びの保障、やがて退所生が家族をもった時の子育てへの支援、そして社会での孤立への支援である。

新しい社会的養護ビジョンも受け、児童養護施設は支援の発展が求められている。今回のアウトリーチ・プロジェクトからは、アフターケアの新たな支援を考えるための多くの種をいただいた。今後も、この種を育てながら、児童養護施設のインケアからリービングケア、アフターケアを含めた包括的な支援について考えていきたい。

最後になりましたが、本プロジェクトに参画させていただく機会をいただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

まとめにかえて ～アフターケアのために私たちができること～

東京ボランティア・市民活動センター 所長 山崎美貴子

◆進学支援と就労支援の現状と課題

東京ボランティア・市民活動センターでは、2011年より、ゴールドマン・サックス社の大きな支援を受けながら、都内の児童養護施設・母子生活支援施設等の児童福祉施設と連携し、子どもたちの4年制大学への進学を支援してきた。その後、大学や民間の支援団体による奨学金も増え、2018年の全国児童養護施設協議会の調査では、全国の児童養護施設の進学率が初めて30%以上になり、東京都の2017年の調査では40%以上となっている。そして、今年の春から、経済的に困窮している世帯に対して、国の給付型奨学金が始まり、社会的養護の子どもたちが大学や専門学校に進学することは「夢」ではなくなった。

しかし、実際は、子どもたちがアルバイトをして生活費を補填し、授業料の自己負担分は民間の奨学金や貸与型の奨学金を活用することを前提としているため、奨学生たちが体調を崩したり、人間関係に躓くと、すぐに経済的に破綻し、中退せざるを得ない状況に陥る。さらに、それまでの奨学金は返金しなければならない場合が多い。また、奨学生たちを支える人の支援も十分ではない等、まだまだ、社会的養護の子どもたちへの進学支援については改善点が残っている。

一方、施設を18歳で退所し、就労する子どもたちへの支援としては、自立援助ホームというケアワーカーのいる支援施設があり、その数は増え続け、現在、全国に200か所以上になった（1か所の定員は6名程度のところが多い）。しかし、利用料の月額3万円程度は子どもたちが自己負担しているので、仕事がなくなると滞在することが難しくなる。また、基本的に利用できるのは20歳までなので、ホームを退所した後の支援をどうするか、入所していない退所生をどう支援するのかが課題となっている。今まで、施設の子どもの貧困防止として、高等教育への進学支援に社会の関心や支援が集まってきたが、退所生の大半を占める就労した人たちへの支援も充実させることが必要だ。

◆本プロジェクトでわかったアフターケアの必要性

今回の新型コロナウイルスは、こうした児童養護施設等を退所して進学した人にも就労した人にも大きなダメージを与えている。本センターがGS社や関係者と実施した今回の「アウトリーチ・プロジェクト」は、一刻も早く支援を届けるために、企画しながら実行し、そこから見えてきたニーズで次の支援を開始するという、まさに、走りながらのプロジェクトだった。このような未完成の取り組みに参加し、柔軟に対応していただいた全国187カ所の施設の職員の方や2,501名の退所生の方々に心より感謝したい。

そして、本プロジェクトから見えてきたことを関係者の皆様にお伝えするために、法政大学の岩田教授にご協力いただきながら本報告書にまとめることができた。岩田教授にはアンケート調査の分析、ヒアリング調査およびその分析、両調査のまとめだけでなく、緊急支援金の選考委員としてもご参加いただいている。

今回の調査結果や取り組みからわかったことは、退所生へのアフターケアを強化することは必要不可欠であるということだ。退所生の生活困窮や孤独はコロナ禍のような非常時に顕著に

表れたが、退所生の多くが日頃から不安定な雇用であったり、孤立化しやすい状況にある。親からの虐待や病気、経済的理由などの理由で施設に暮らす子どもたちは、18歳で施設を出ると、自分の力で厳しい社会の中を生きていかなければならない。もし、体調が悪くなったり、失業したり、困ったことが起きても、頼れる親や親族はいない者が多い。退所生が頼れるのが以前いた施設である。しかし、施設に相談しない、できない退所生もいる。

施設としても、退所した子どもたちを支えたいと思っても、入所している子どもたちの世話に追われ、余裕はない。また、アフターケアのための人や予算を施設として確保できておらず、職員個人の意思や負担に頼っているところが少なくないという状況も見えてきた。

朗報として、来年度からは、国が全国の児童養護施設にアフターケアを専門に行う自立支援専門員を配置することになっているが、人の配置とともに、子どもたちに会いに行く交通費や相談しながら摂る食費、通信料、支援物資の購入費や送料、緊急支援金などの経費を助成することも必要である。一方、施設としても、行政からの支援だけではなく、寄付を集めたり、後援会・賛助会を作ったり等、民間の支援を集めることも重要だろう。

◆支援の連続性とネットワーク化

現在、児童養護施設には中学・高校生の高齢児童の入所が増えており、施設との関係性を十分に育む前に退所となるため、退所後に施設とつながっていない子どもも多いようだ。今回のプロジェクトで施設が支援できたのは、連絡先がわかる退所生だった。また、アンケートに回答してくれたのは、その中でも施設との関係が良好な人たちだと思われる。施設とつながっていない退所生がより困難な状況にあるのではないか。

今後、退所生へのアフターケアを強化していくためには、入所中の支援（インケア）と、自立して社会で暮らすための準備をする支援（リービングケア）だけではなく、退所してからの支援（アフターケア）を連続性の中で捉えた支援計画を実行していくことが重要である。退所生がより安定した就労に着くためにも、退所生の強みや適性を活かした就労や就労継続、キャリアアップの支援を充実させたい。そのための進学や資格取得への支援も必要であろう。

こうした継続的な支援は、施設と退所生のつながりをベースにしながら、施設だけが行うのではなく、公的機関や民間非営利団体（NPO）、企業、社会福祉協議会、地域社会とのネットワークを進めていくことが望ましい。ぜひ施設にはこうした社会資源とつながっていただきたい。

今回のアンケート調査やヒアリング調査、退所生からの手紙に寄せられた「SOS」を施設や社会が真剣に受け止め、子どもたちの「未来」を築くために、それぞれのお立場でできることを考え、実行して下さることをお願いしたい。

最後に、ゴールドマン・サックス社のご支援により、コロナ禍の退所生と施設を支援することができ、さらに、その実践からアフターケアの現状と課題、今後の方向性を学ぶことができたことに、心より感謝を申し上げたい。

資料編

【資料 1 - 1】施設から退所生にあてた手紙	P 87
【資料 1 - 2】主催団体から退所生への手紙	P 88
【資料 1 - 3】救援物資の写真と送付リスト	P 89
【資料 1 - 4】支援情報	P 91
【資料 1 - 5】退所生へのアンケート用紙	P 94
【資料 1 - 6】アフターケア計画書	P 96
【資料 1 - 7】緊急支援金申請理由	P 97
【資料 2】退所生アンケート調査単純集計	P101
【資料 3】退所生と施設からの手紙	P147
【資料 4】施設が考える「今後必要な社会的支援」	P 14

様

久しぶりですね。新型コロナウイルス感染のことが毎日毎日気になりながらも、負けずに、仕事と生活を頑張っているのかなと思うところです。

日本や世界で、感染が始まってから今日まで、こんな状況になろうとは思いませんでした。普段の生活や仕事、遊びなど、以前は当たり前感じていたことのほとんどが狂ってしまったようです。一日も早く終息して、安心して生活できるようになって欲しいですね。

こちらでは、予防のために2月末から「鎖国」みたいになり、外出や面会の制限を開始。始めのころは少々不満気味でしたが、4月に非常事態宣言が出た時は、「さすがに今度はやばいぞ」とみんな口々にしていました。そこで、外出できなくても気持ちは前向き前向き(たくましい!)、何かやろうと日々取り組み、料理、庭や山での遊びの他、男子は卓球大会、女子は小運動会など行って過ごしていました。小学校の運動会が中止になったのは残念だったけど。

まだまだ感染予防は続きますが、こちらでもようやくちょっと外出や短時間の面会を始めたところです。

終息すると信じて、なんとか乗り切りましょう。

今回は、ゴールドマン・サックス様の事業を利用することができたので、支援物資を届けることができました。いつまで続くかは分からない中で十分ではないかもしれませんが、この危機的状況を乗り切るためのエネルギーにして下さい。

今回のコロナの影響で困っていること、踏ん張っていることなど、色々な経験をしていると思います。そういった近況を良かったら教えて下さい。

アンケートも入れてあります。ぜひ記入して返信封筒で送ってください。

7月15日までに着くように出してください。

令和2年6月

2020年6月吉日

児童養護施設を退所した皆様へ

東京ボランティア・市民活動センター
所長 山崎美貴子

季節は夏に向かっていますが、いかがお過ごしでしょうか？

新型コロナウイルスが日本の経済や社会に大きな影響を及ぼしている中で、施設を退所した方々の中にも困難を抱えていらっしゃる方がいらっしゃることを児童養護施設の職員の皆さんからお聞きしました。

そこで、全国の児童養護施設の皆様方と、長年にわたり児童養護施設への支援に取り組んでいるゴールドマン・サックス社にご協力いただき、退所生の皆様にお使いいただけそうな生活用品等や支援情報を送らせていただきます。

また、新型コロナウイルスの状況下で支援が必要な人たちに対して、何ができるかを検討するために簡単なアンケートを実施したいと考えています。つきましては、同封の返信用封筒を使い、7月15日までに施設宛にご返信ください。なお、アンケートは匿名となっています。

何かご不明な点などありましたら、下記までご連絡くださいますようお願いいたします。
どうぞ、健康に気を付けて、お過ごしください。



【この件のお問い合わせ先】

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

東京ボランティア・市民活動センター（担当：河村、田中、屋敷）

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1

TEL: 03-3235-1171 FAX: 03-3235-0050

Eメール：kigyov@tvac.or.jp URL: <https://www.tvac.or.jp/>

児童養護施設の退所生のアウトリーチ・プロジェクト 送付品リスト

	商品	単価	数量	計	13名配分
1	インスタント米(20個入り)	2,840	2	5,680	3
2	カップヌードル詰め合わせ(20個入り)	3,728	1	3,728	1
3	カレーメシ(6個入り)	1,412	3	4,236	1
4	ハヤシメシ(6個入り)	1,412	3	4,236	1
5	牛丼の具(10個入り)	2,343	3	7,029	2
6	インスタントスープ(コーンポタージュ、3個入り)	630	5	3,150	1
7	プリッツ4種セット(40個入り)	2,505	1	2,505	3
8	スナックアート(30袋入り)	1,836	1	1,836	2
9	カルビー たべきりパック(12パック入り)	2,306	2	4,612	1
10	ウイダーインゼリー(6個入り)	1,111	5	5,555	2
11	ガム	当学園より		0	1
12	マスク(50枚入り)	当学園より		0	1
13	手紙、アンケート				1
	84円切手、返信用封筒(アンケート)	84	13	1,092	
	郵便局用包装箱	220	13	2,860	
	ゆうパック料金(発送)			16,690	
	配送料、代引手数料			840	
			総合計	64,049	4,926

退所者へのアウトリーチプロジェクト 助成金の使途報告書

1) ケアパッケージ詳細

NO	対象者	支援品目
1	18才女性	衣類（タオルケット・シーツ）折りたたみ傘
2	18才女性	米、レトルト食品、クオカード
3	18才女性	食品（ラーメン・スパゲティ・パスタソース・コーンフレーク レトルトカレー・ライス）、シャンプー
4	18才男性	食品（カップ麺）、クオカード
5	20才女性 ↓ 変更 24才男性	米、レトルト食品
6	18才男性	衣類（下着・タオル）、シャンプー
7	18才男性	食品（飲料）、商品券
8	21才男性	食品（米・缶詰・インスタントラーメン）
9	19才男性	食品（レトルトご飯）商品券
10	24才男性	食品（米・レトルト食品）
11	20才男性	飲料、商品券
12	18才女性	食品（冷凍食品）、商品券
13	21才男性	食品（パスタ・缶詰）
14	20才男性	食品（米・みそ・しょうゆ・レトルト食品）
15	22才男性	食品（米・レトルト食品）
16	27才女性	食品（米・飲料・レトルト食品・海苔）、マスク
17	26才男性 ↓ 変更 25才男性	食品（みそ・しょうゆ・レトルト食品）
18	22才男性	食品（米・インスタント麺）
19	25才女性	食品（パックご飯・缶詰 飲料・レトルトカレー）



新型コロナウイルス関連 生活を支えるための支援情報

1. 生活費の支援について

1) 特別定額給付金

基準日（令和 2 年 4 月 27 日）に住民基本台帳に記録されている方に対し、1 人当たり 10 万円を給付。各区市町村から給付対象が属する世帯の世帯主に申請書が郵送で届きます。または、インターネットから申し込みます。

【問い合わせ先】総務省コールセンター 0120-260-020
または 住民票のある区市町村の窓口

2) 子育て世帯への臨時特別給付金

児童手当の受給者の方の対象児童 1 人につき 1 万円を令和 2 年 3 月 31 日に居住していた市町村から支給します。新たに申請は不要です。

【問い合わせ先】住民票のある区市町村の窓口

3) 緊急小口資金 および 総合支援資金

緊急小口資金は、緊急かつ一時的に生計の維持が困難になった方に 10～20 万円を無利子で貸付ます（据置 1 年以内、償還 2 年間以内）。保証人は不要です。

総合支援資金は、収入の減少や失業等により、日常生活の維持が困難な世帯に対して、単身世帯は月 15 万円以内、2 人以上の世帯は月 20 万円以内を無利子で貸付ます（据置 1 年以内、償還 10 年以内）。保証人は不要です。

【問い合わせ先】お住まいの市区町村社会福祉協議会、労働金庫、受付業務代行郵便局

4) 社会保険料等の猶予

①国民健康保険、国民年金、後期高齢者医療制度及び介護保険の保険料(税)の減免や徴収猶予等が認められる場合があります。

【問い合わせ先】お住まいの市区町村、年金事務所、国民健康保険組合

②国税、地方税の猶予制度があります。

【問い合わせ先】国税は所轄の税務署、地方税は居住地の都道府県・市区町村

③電気・ガス料金・水道・下水道・NHK、固定電話・携帯電話の使用料及び公営住宅の家賃の支払いが困難な場合は、猶予等への対応が事業者に要請されています。

【問い合わせ先】各事業者

5) 生活困窮者自立支援制度

様々な課題を抱え、生活に困窮する方に対し、1 人ひとりの状況に合わせた包括的な支援を行います（就労支援・就労支援準備支援、家計改善支援、住宅確保給付金、一時生活支援）。

【問い合わせ先】お住いの市町村や自立相談支援事業を実施する機関の窓口

6) 生活保護制度

生活保護は、最低生活の保障と自立の助長を図ることを目的として、その困窮の程度に応じ、必要な保護を行う制度です。

【問い合わせ先】お住いの自治体の福祉事務所

7) フードバンク

食品の支援が必要な場合はフードバンクというボランティア団体があります。

【問い合わせ先】お住いの市区町村 または 福祉事務所

2. 医療支援について

1) 無料定額診療事業

経済的な理由で必要な医療を受けることができない方に対して、無料または低額で診療を受けられる病院（無料定額診療施設）があります。

【問い合わせ先】お住いの都道府県

都道府県のホームページで「無料定額診療施設」を検索。

3. 学生への支援について

文部科学省から、高校や大学等に対して、学生が新型コロナの影響で入学金や学費の支払いができない場合は支払いの減免や猶予などの対応を行うよう通知が出ています。

1) 高校の入学金・授業料の減免、納付猶予

新型コロナの影響によって経済状況が悪化した世帯

【問い合わせ先】お住まいの自治体の教育委員会や通学している学校

2) 高等教育修学支援新制度

①住民税非課税世帯・準ずる世帯の学生に対して、入学金・授業料の免除、減額とともに、給付型奨学金を支給します。

【問い合わせ先】各大学・専門学校等の学生課

②貸与型奨学金

新型コロナの影響で家計が急変した場合、アルバイト収入が減った学生などが貸与型奨学金を申し込みます。

【お問い合わせ先】各大学・専門学校等の奨学金窓口

または 日本学生支援機構 奨学金相談センター

3) 学生支援緊急給付金

新型コロナウイルスの感染症拡大の影響により、世帯収入の激減やアルバイト収入の激減・中止などの経済的理由のために修学の継続が困難であると大学等が認めた場合、学生支援機構（JASSO）が学生に対して現金を支給します。

住民税非課税世帯の学生には 20 万円、それ以外の学生には 10 万円を支給。

【お問い合わせ先】在籍する学校

相談窓口一覧

皆様お一人お一人のお悩みに寄り添えるよう、
各種ご相談窓口をご用意しています。お気軽にご相談ください。

仕事について相談したいとき

- **ハローワーク**【TEL:最寄りのハローワークにおかけください】

仕事をお探しの方は、お近くのハローワークにご相談ください。求人情報は、ハローワークインターネットサービスでも探すことができます。また、職業紹介等は電話で相談できます。

あわせて、来所した方で住居・生活に関する支援が必要な方には、支援制度のご案内など、必要な相談も受け付けます。



労働問題（解雇・雇止め等）について相談したいとき

- **特別労働相談窓口等**【TEL:最寄りの窓口におかけください】

各都道府県労働局に「特別労働相談窓口」を設置しております。
新型コロナウイルスの影響に伴う解雇・雇止め・休業手当等の労働相談に対応しています。

また、内定取消しや入職時期繰下げにあわれた皆様のため、新卒応援ハローワークに「新卒者内定取消等特別相談窓口」を設置しています。来所しなくても電話で相談できます。



心の健康について相談したいとき

- **精神保健福祉センター等**【TEL:最寄りのセンターにおかけください】

保健師・精神保健福祉士等の専門職が、面接や電話等により、コロナのことが不安で眠れない、子どもの世話でストレスがたまるといったお悩みの相談を受け付けます。



- **働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト「こころの耳」**

職場のメンタルヘルスに関する情報提供をしています。また、産業カウンセラー等が、メールや電話により、メンタルヘルス不調、過重労働により体調を崩したといった健康相談を受け付けます。



DVや子育ての悩みについて相談したいとき

- **DV相談ナビ**【TEL:0570-0-55210】

配偶者や恋人からの暴力（DV）の悩みについて、最寄りの相談窓口で相談できます。相手との関係が「つらい」「なにかおかしい」と感じていたら、ひとりで悩まず、お電話ください。



- **児童相談所・児童相談所虐待対応ダイヤル**

【TEL:最寄りの児童相談所か、児童相談所虐待対応ダイヤル「189」におかけください。】

子育ての悩み、虐待の相談等について、お電話にて相談を受け付けます。



生きづらさを感じるなどの様々な悩みについて相談したいとき

- **よりそいホットライン等（電話等による相談）**【TEL:0120-279-338】

どんなひとの、どんな悩みにもよりそって、一緒に解決できる方法を探します。

（ご相談の例）

・暮らしの悩みごと・悩みを聞いて欲しい方、DV・性暴力などの相談をしたい方、
外国語による相談をしたい方 など



- **SNS等による相談**

LINE, Twitter, FacebookなどのSNSや電話を通じて、年齢や性別を問わず、「生きづらさを感じる」などのお悩みの相談を受け付けます。



2020年6月吉日

新型コロナウイルスの影響下における
生活状況に関するアンケート調査

今後の支援を検討するために、下記のアンケートに匿名でご回答いただき、同封の返信用封筒で7月15日までに施設宛にご返信ください。

東京ボランティア・市民活動センター

Q1. あなたについて、あてはまるものに○をつけてください。

- 【性別】 男性 女性 その他
- 【年齢】 10代 20代 30代 40代 50代以上
- 【属性】 勤労者 学生 主婦 その他 ()
- 【現在の住所】 () 都道府県
- 【現在の住居】 家族と同居 養育家庭家 自立援助ホーム 学生寮 通勤寮
公営住宅 民間賃貸住宅 知人宅 その他 ()
- 【同居者】 配偶者(パートナー) 配偶者以外の親族 同居の家族はいない その他 ()
- 【施設との連絡】 あり ときどきあり なし



Q2 新型コロナの影響で生活に変化がありましたか？ あてはまるものに○をつけてください。

- a. 良くなった b. どちらかと言えば良くなった c. かわらない
d. どちらかと言えば悪くなった e. 悪くなった

Q3 現在困っていることで、あてはまるもの全てに○をつけてください。【複数回答】

- a. 家族・親族 b. 子育て c. 現在の仕事 d. 職場の人間関係 e. 就職(職探し) f. 異性関係 g. 家事
h. 住居探し g. 衣食等の費用 h. 自分の学費等 i. 家賃等の住居費 j. 消費者金融やクレジット等の借金
k. 生活全般の不安や将来の不安 l. 孤立や孤独感 m. 心身の健康問題 n. その他 ()

新型コロナの影響で困ったこと、困っていることがあれば、具体的に教えてください。

Q4 現在の仕事の状況について、あてはまるものに○をつけてください。

- a. 働いている b. ときどき働いている ⇒ 4-1)へ
c. 働いていない ⇒ 4-2)へ

⇒4-1)「働いている」「ときどき働いている」と回答した方にお聞きます。

① 次の業種で、あてはまるものに○をつけてください。

- a. 水産・農林業 b. 建設業 c. 製造業 d. 電気・ガス業 e. 運輸・情報通信業 f. 商業・サービス業
g. 金融・保険業 h. 官公庁 i. 医療・福祉 j. 教育 k. その他 ()

※裏面もご回答ください

②お仕事の雇用形態で、あてはまるものに○をつけてください。

- a. 正規雇用（正社員） b. 派遣・契約社員 c. パート・アルバイト d. 自営業 e. その他（ ）

③新型コロナが感染拡大する前のあなたの月収（手取り）であてはまるものに○をつけてください。

- 10万円未満 10～20万円未満 20～30万円未満 30万円以上

④新型コロナの影響で月収は減りましたか？ あてはまるものに○をつけてください。

- a. 減った（約__割減った） b. 減らない c. 変わらない

⇒4-2)「働いていない」と回答した方にお聞きします。その理由であてはまるものに○をつけてください。

- a. 家事・育児を担当しているから b. 学校に在学中だから c. 体調が悪いから
d. 良い仕事がないから e. 新型コロナウイルスで仕事がなくなったから f. その他（ ）

Q5 現在、公的な支援は受けていますか？あてはまるものに○をつけてください。

- a. マスク2枚が届いた。 ⇒（ ）月頃
b. 国の「特別定額給付金」を受給した。 ⇒（ ）月頃
c. 学生支援機構による「学生支援緊急給付金」を申し込んだ。
d. 社会福祉協議会の「緊急小口資金・総合支援金（無利子の貸付）」を利用している。
e. 生活保護を受けている または 申請中。
f. その他（ ）

Q6 困ったことを相談する相手は誰ですか？あてはまるもの全てに○を付けてください。【複数回答】

- a. 配偶者（パートナー） b. 親（保護者）・その他の親族 c. 学校の友人・先輩 d. 施設の友人・先輩
e. その他の友人・先輩 f. 職場の上司 g. 職場の同僚・先輩 h. 現在通う学校の先生
i. 以前通った学校の先生 j. 施設出身者等のための相談支援機関 k. 福祉事務所等の職員
l. 施設の職員 m. 施設の前職員 n. その他（ ） o. 相談できる人はいない

Q7 今後も新型コロナの影響が続く中で、どのような支援があるとよいですか。あてはまるものに○をつけてください。

- a. 資金的な支援 b. 物品の支援 c. 仕事の斡旋や就労支援 d. 子育てや家事の支援
e. 相談や支援情報の提供 e. その他（ ）

よろしければ、具体的に教えてください。

Q8 その他、何かご希望やメッセージなどありましたら、お書きください。

ご協力ありがとうございました！

2020年 月 日

GS アウトリーチ・プロジェクト緊急支援
アフターケア計画書

※複数いる場合はコピーしてください。

施設名	
施設長名	
記入者名	
申請者名	
1) 家計を同一にする世帯全体の収入・支出の状況	
2) 緊急支援金の使途（「生活費」だけでなく、具体的に）	
3) 貴施設による今後の支援計画	

※2020年●月●日までに返信ください。

【資料 1-7】 緊急支援金の申請理由

- 1 仕事が減ったため家賃の支払いが困難になったため
- 2 減収により毎月の返済で生活が困窮している。
- 3 給与未払いが続き、生活が困窮している。
- 4 完全休業となり減収となったため
- 5 月々の収支がマイナスとなり、今後も増収が見込めないため
- 6 解雇され生活が困窮したため、生活費に充てたい。
- 7 居住先の選定や転職活動費に充てたい。
- 8 休業につき収入が激減したため
- 9 休業につき収入が激減したため
- 10 休業につき収入が激減したため
- 11 アルバイトができなくなり生活が困窮したため
- 12 資格取得のための費用、生活費に充てたい。
- 13 専門学校の後期授業料に充てたい。
- 14 体調を崩し働けなくなり生活が困窮したため
- 15 生活費、学費に充てるため
- 16 アルバイトができなくなり生活が困窮したため
- 17 両親への資金援助等を行ったので、自分たちの生活費等の補填に充てたいため
- 18 毎月の返済等で日々の生活に不安があるため生活費に充てたい。
- 19 減収により生活が困窮。通信費用に充てたい。
- 20 減収により生活が困窮している中での就職活動で通信費用に充てたい。
- 21 減収と詐欺被害により経済的困窮している。弁護士費用等に充てたい。
- 22 生活を維持するのに精一杯なため
- 23 貯金残高も減り、今後の生活に不安を抱いたため
- 24 生活が困窮したため
- 25 アルバイトができず、大学後期の授業料の支払いが困難なため
- 26 仕事が激減し、生活が困窮したため
- 27 仕事が減少し、生活が困窮したため
- 28 うつ病を発症し、休職中で支払を滞納しているため、生活費に充てたい。
- 29 解雇等で生活が困窮。家賃の支払いと病院の受診・検査費用に充てるため
- 30 休業につき収入が激減したため
- 31 休業につき収入が激減したため
- 32 精神的な理由で退職し、生活が困窮したため
- 33 親の店の運用資金のためお金を貸してしまい、生活が困窮したため
- 34 母との関係が悪く、持続化給付金ももらえず生活に困窮しているため

- 35 休業につき収入が激減したため、家賃に充てたい。
- 36 大学後期の授業料や、オンライン授業の器材購入で生活費が不足したため
- 37 日用品も購入できず、国民健康保険も滞納しているほど困窮しているため
- 38 仕事が激減し、かつ体調不良で生活が困窮したため
- 39 無職となり生活が困窮したため
- 40 仕事が減り、生活が困窮したため
- 41 学費の為の貯蓄を切り崩し生活費に充ててしまい復学が危ぶまれるため
- 42 入院・手術費用に充てるため
- 43 休業により仕事が減ったため
- 44 職場を解雇され、生活に困窮したため
- 45 アルバイト先が休業し、生活が困窮したため
- 46 減収につき家賃の支払いが困難になったため
- 47 貯金を切り崩して生活しているため
- 48 減収につき生活が困窮したため
- 49 減収の上、ケガによる入院・通院で生活が困窮したため
- 50 通院により生活が困窮したため
- 51 体調不良等で勤務困難で減収し、生活が困窮したため
- 52 減収により、経済的・精神的にも不安定になったため
- 53 減収により生活が困窮したため
- 54 減収により生活が困窮したため
- 55 退職や別居等で生活が困窮したため
- 56 減収により生活が困窮したため
- 57 休業による減収や感染予防品の購入のため
- 58 休業による減収や体調不良で生活が困窮したため
- 59 減収につき返済に充てる費用を賄えなくなったため
- 60 減収により生活が困窮したため
- 61 収入が半減したため
- 62 引きこもり状態となり衰弱し、入院の諸費用に充てるため
- 63 第二子出産直後に配偶者が交通事故に遭い減収し、生活が困窮したため
- 64 切迫早産による出産費用等が想定外の出費となったため
- 65 減収により家賃の支払いが困難なため
- 66 離職により、生活費（水道光熱費等）を滞納しているため
- 67 失業保険手続きが遅れ、収入になるものがなくなったため
- 68 アルバイトができず、生活費を賄うことができないため
- 69 減収により家賃の支払いが困難なため

- 70 減収により生活が困窮したため
- 71 緊急帝王切開による出産で入院費や生活費が困窮したため
- 72 減収により生活が困窮したため
- 73 退学により奨学金からの収入が途絶え、生活が困窮したため
- 74 減収により生活が困窮したため
- 75 減収により生活が困窮したため
- 76 減収により生活が困窮したため
- 77 減収により生活が困窮したため
- 78 現在入居しているグループホーム移転に伴う引越費用の捻出のため
- 79 出産による費用や、衛生用品の購入等の生活費用に充てるため
- 80 業務に必要な感染予防対策品の購入等の費用に充てるため
- 81 車検等、車のメンテナンス費用に充てるため
- 82 社員寮の老朽化に伴い引越が必要となり、その費用等に充てるため
- 83 業務に必要な感染予防対策品の購入等の費用に充てるため
- 84 生活費に充てるため
- 85 減収により生活が困窮したため
- 86 減収により生活費が逼迫したため
- 87 生活費に充てるため
- 88 減収により学費の捻出が困難なため
- 89 減収により学費の捻出が困難なため
- 90 減収により学費の捻出が困難なため
- 91 学費に充てるため
- 92 離職により、国保・税金等を滞納しているため支払いの費用に充てたい。
- 93 減収のため、生活費・学費に充てるため
- 94 収入が激減し、アルバイトをするも体調を崩し、生活が困窮したため
- 95 収入が激減した上、ルームシェアしていた友人が音信不通となり、家賃の支払いが困難となったため
- 96 減収により家賃の支払いが困難なため
- 97 減収により家賃の支払いが困難なため。生活費・家賃の支払いに充てたい
- 98 育休中で収入がなく、貯金を切り崩して生活しているため
- 99 減収により生活費・学費に困窮しているため
- 100 減収により返済が滞り滞納しているため、返済費用に充てたい。
- 101 7月に第二子を出産し、経済的・精神的にも不安定な状況が続くため今後の生活費に充てたい。
- 102 8月に出産予定のため、出産費や生活費に充てたい。

- 103 母子家庭で日々の生活に困窮しているため、生活費等に充てたい。
- 104 実父の介護と育児とで収支のバランスが崩れ生活が困窮している状態。出産の諸費用や生活費の補填に充てたい。
- 105 母子世帯で第二子を来年2月に出産予定。今後の出産や生活にかかる費用に充てたい。
- 106 収入が激減し、公共料金の滞納があるため支払い費用に充てたい。
- 107 アルバイトができず、大学後期の学費の支払いが困難なため
- 108 失業し収入がない状態で生活費（水道、ガス代等）を滞納し、生活も困窮しているため
- 109 自立援助ホーム退所し、生活資金に充てるため
- 110 転居資金のほか、今後の出産にかかわる通院費用や生活費等に充てたい。
- 111 コロナ禍と7月の豪雨で勤務先、自宅が浸水した上、収入の目途がないため生活費等に充てたい。
- 112 減収につき生活が困窮し、支援施設の利用料の支払いに支障をきたす恐れがあるため
- 113 減収と転居先の悪環境で精神的に不安定な状態。環境改善のためと生活費に充てたい。
- 114 減収により家賃滞納や車のローン支払いが困難なため
- 115 アルバイトによる収入が見込めないため、生活費（水道光熱費）と後期授業の教材費に充てたい。
- 116 減収により生活が困窮したため。家賃と生活費に充てたい。
- 117 アルバイトによる収入が見込めない中、複数科の受診が必要で通院費や生活費の捻出が困難なため
- 118 求職中で生活が困窮し光熱費を滞納しているため
- 119 収入が激減したため、家賃の支払いに充てたい。
- 120 減収や賞与カットにより家賃等の支払いが困難なため
- 121 無職のため生活が困難。家賃の支払いに充てたい。
- 122 減収により通信費の費用に充てたい。
- 123 アルバイトによる収入が見込めないため、通信費の支払いに充てたい。
- 124 就活中。今後の見通しが立たないため、家賃の支払いに充てたい。
- 125 減収により生活が困窮し、今後の家賃の支払いに不安があるため、家賃の支払いに充てたい。
- 126 休業により減収されたため。家賃の支払いに充てたい。
- 127 減収につき支払いを滞納しているため、居住費等に充てたい。
- 128 7月中旬に出産し、収入の見込みがないため生活が困窮。生活費に充てたい。
- 129 減収によって家賃を滞納したため、家賃の支払いに充てたい。
- 130 大学退学によって奨学金の受給がなくなり、返済も必要なため生活が困窮。生活費に充てたい。

退所生アンケート調査
(新型コロナウイルスの影響下における生活状況に関するアンケート調査)

単純集計結果

【 質問項目 】

- Q1 本人について（性別、年齢、属性、現在の住所、同居者、施設との連絡）
- Q2 新型コロナによる生活の変化
- Q3 現在困っていること
- Q4 現在の仕事の状況
 - Q4-1) 【働いている場合】
業種、雇用形態、新型コロナ感染拡大前の月収、新型コロナによる減収
 - Q4-2) 【働いていない場合】働いていない理由
- Q5 現在受けている公的支援
- Q6 困ったことを相談する相手
- Q7 今後希望する支援
- Q8 その他、希望やメッセージなど

※以下の集計では、選択肢をまとめたり、「その他」の回答が多いものを選択肢に追加しました。

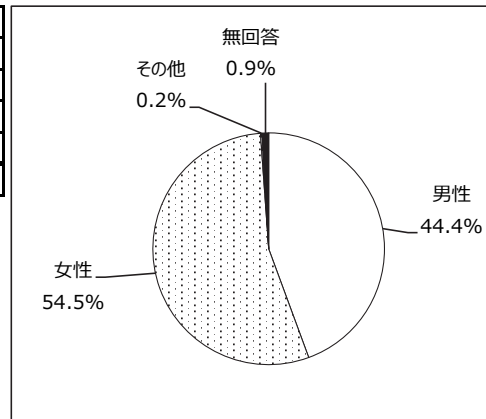
東京ボランティア・市民活動センター

Q1【本人について】

あなたについて、あてはまるものに○をつけてください。

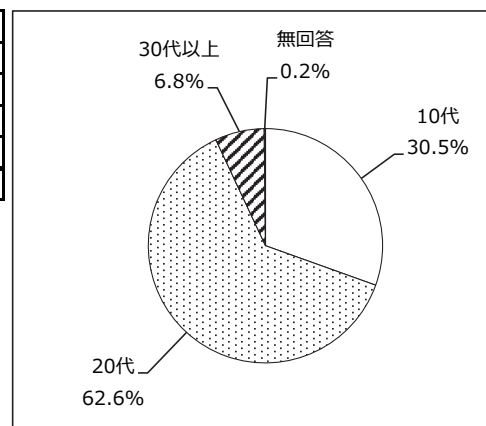
Q1-1) 性別

	回答数	%
男性	822	44.4
女性	1,008	54.5
その他	4	0.2
無回答	17	0.9
合計	1,851	100.0



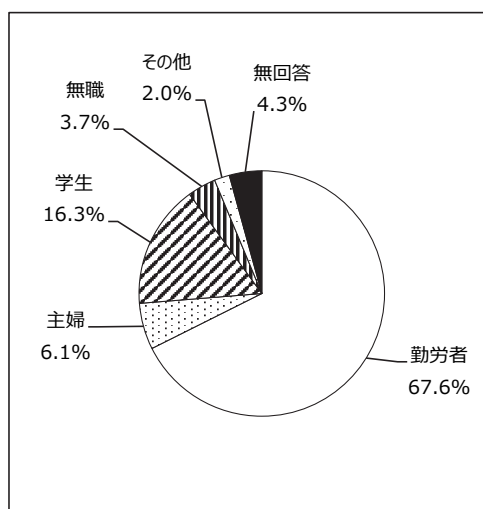
Q1-2) 年齢

	回答数	%
10代	564	30.5
20代	1,158	62.6
30代以上	126	6.8
無回答	3	0.2
合計	1,851	100.0



Q1-3) 属性

	回答数	%
勤労者	1,252	67.6
主婦	113	6.1
学生	301	16.3
無職	69	3.7
その他	37	2.0
無回答	79	4.3
合計	1,851	100.0



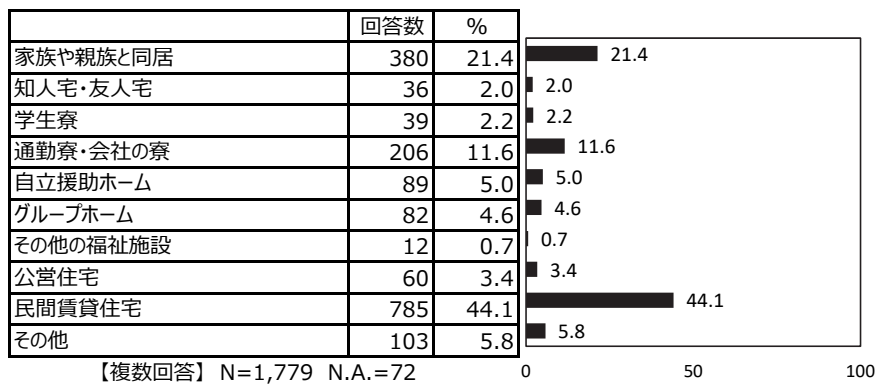
◆「その他」の自由記述

社会人 (4)
 単身
 福祉施設
 人
 パート

Q1-4) 現在の住所

	回答数	%		回答数	%		回答数	%
北海道	35	1.9	石川県	30	1.6	岡山県	15	0.8
青森県	1	0.1	福井県	9	0.5	広島県	8	0.4
岩手県	1	0.1	山梨県	36	1.9	山口県	18	1.0
宮城県	9	0.5	長野県	13	0.7	徳島県	4	0.2
秋田県	7	0.4	岐阜県	58	3.1	香川県	9	0.5
山形県	5	0.3	静岡県	19	1.0	愛媛県	25	1.4
福島県	40	2.2	愛知県	136	7.3	高知県	11	0.6
茨城県	58	3.1	三重県	13	0.7	福岡県	23	1.2
栃木県	18	1.0	滋賀県	49	2.6	佐賀県	7	0.4
群馬県	16	0.9	京都府	102	5.5	長崎県	24	1.3
埼玉県	105	5.7	大阪府	157	8.5	熊本県	38	2.1
千葉県	141	7.6	兵庫県	71	3.8	大分県	18	1.0
東京都	267	14.4	奈良県	5	0.3	宮崎県	13	0.7
神奈川県	113	6.1	和歌山県	3	0.2	鹿児島県	19	1.0
新潟県	8	0.4	鳥取県	11	0.6	沖縄県	23	1.2
富山県	3	0.2	島根県	8	0.4	無回答	49	2.6
						合計	1,851	100.0

Q1-5) 現在の住居



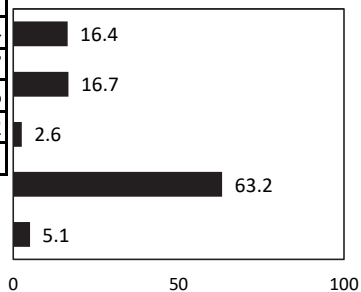
◆「その他」の自由記述

- マンション(6)
- 持ち家(2)
- 自衛官
- 下宿
- 自宅
- 里親宅
- 一軒家 (ローン)
- 戸建て
- 東京チャレンジネットアパート
- 3にんぐらい
- 一般家庭
- 一軒家

Q1-6) 同居者

	回答数	%
配偶者（パートナー）	276	16.4
配偶者以外の親族	280	16.7
友人・知人・恋人	43	2.6
同居の家族はいない	1,061	63.2
その他	85	5.1

【複数回答】 N=1,680 N.A.=171

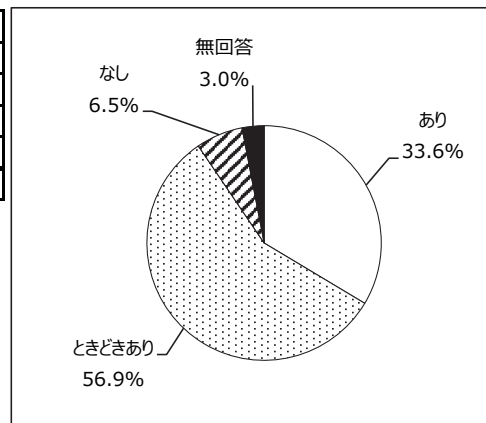


◆「その他」の自由記述

- | | |
|----------------|-----------|
| グループホーム関係者(12) | 里親 |
| 利用者(9) | フィリピン人 |
| 寮関係者(4) | 会社の人 |
| 施設関係者(3) | シェアハウスの方々 |
| 職場関係者(2) | 知らない人 |
| 同僚(2) | 同居人 |
| 同入居者 | 他の学生 |
| スタッフ・入居児童 | メンバー |
| シェアハウスの人 | S子 |
| 住民 | 妹 |
| 人 | 姉 |
| 施設職員 | |

Q1-7) 施設との連絡

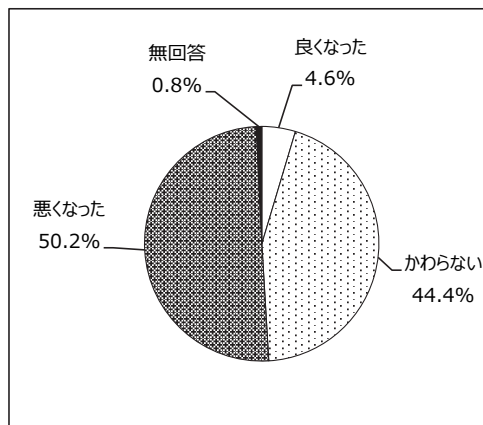
	回答数	%
あり	622	33.6
ときどきあり	1,053	56.9
なし	120	6.5
無回答	56	3.0
合計	1,851	100.0



Q2【新型コロナによる生活の変化】

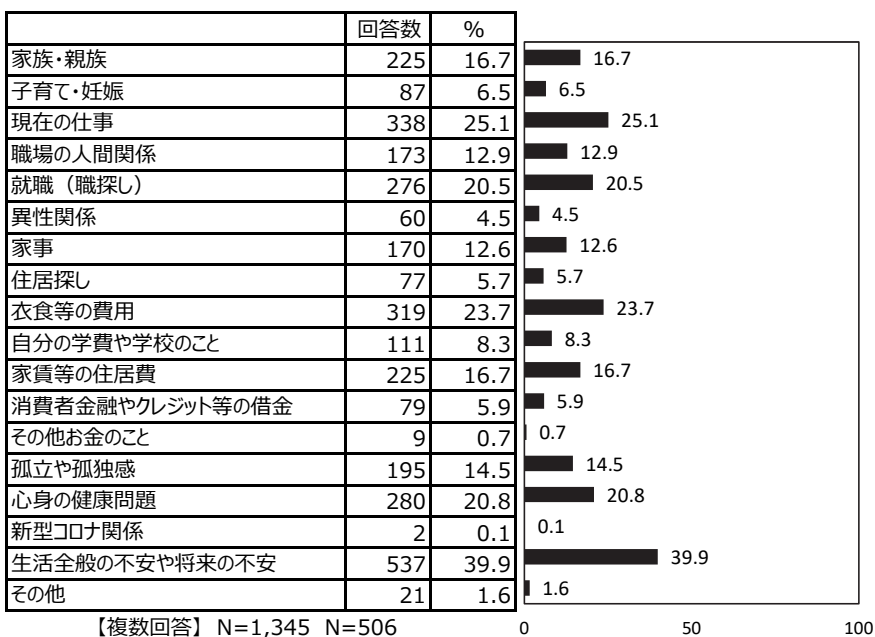
新型コロナの影響で生活に変化はありましたか？ あてはまるものに○をつけてください。

	回答数	%
良くなった	86	4.6
かわらない	822	44.4
悪くなった	929	50.2
無回答	14	0.8
合計	1,851	100.0



Q3【現在困っていること】

現在困っていることで、あてはまるもの全てに○をつけてください。



◆具体的に（自由記述）

新型コロナの影響で困ったこと、困っていることがあれば、具体的に教えてください。

- 1 アルバイトしながら転職に向けて生活していたが、コロナの影響で普通の生活に余裕を取り戻すことで手一杯と
なってしまった。
- 2 子どもの学費や自分のガソリン代、ちゃんとした体温計がないから、子どもが熱があるかどうかわからない。高校生の
娘の自転車がないから、毎日送り迎えで少し大変。
- 3 コロナとは別
- 4 経済状況の悪化により、仕事が継続できるかどうか心配。
- 5 自宅待機時間が長いです。
- 6 前の職場をやめたこと。
- 7 友だちに会えないこと。
- 8 特になし。
- 9 体温計がこわれて新しいのを買わなきゃいけないのに手に入らない。子どもの保育園前や体調の良さあしの判断に
必要。
- 10 給料の変動。
- 11 趣味がなくなり友達と会う機会がなくなった。
- 12 友だちとあそべなかった。
- 13 お金
- 14 勤務時間の減少
- 15 本日はマスクと食品のご支援ありがとうございます。いただいたものではありませんが、今九州のほうでいろいろと大変
な方々が多いので、そちらに食品とマスクを送らせていただきました。こうやって卒園しても気にかけてくれる素晴らしい
園で育った自分を誇らしく思います。園には感謝しかありません。これから先時間はかかるかもしれませんが、恩を
返していきたいです。
- 16 コロナの影響でお客様が減って、転職を考えている。
- 17 お金が生活費がなくなりそうです。
- 18 部屋に長くいることで携帯料金が高くなった。
- 19 コロナで主人の仕事がしばらく休みになっていた期間、収入が減り大変不安に感じた。また、長い期間、主人の実
家にお世話になり、コミュニケーションにとまどった。
- 20 仕事が少しへった。
- 21 家族との金銭トラブル。
- 22 マスクが足りなくなるかもしれない。
- 23 営業自粛のため生活費が減った。
- 24 職がなかなか見つからない。
- 25 職場の人と話があわない。夏になってからクーラーついてるけどあまり涼しくない。扇風機もつけば涼しくなると思
うんだけど、職場の人にダメって言われてつけてないこと。
- 26 一人親なので逃げ場がなく、365日休みなく子育てに追われる。中1、中3で大きいけれど……。
- 27 ホーム
- 28 コロナの関係で仕事が減り、給料もかなり減り、貯金はできないうえに食べ盛りの子どもがいるので、生活がいっぱ
いいっぱい。
- 29 パイトが入らなかつたりしてお金が心配。
- 30 今後の仕事のこと。
- 31 マスク不足。
- 32 都内で遊べない。
- 33 マスク不足。
- 34 いろいろとあります。
- 35 家の外に出づらくなり、人と関わりづらくなった。
- 36 パイトの数が減った。
- 37 コロナの影響で仕事が休業になり、一時的に収入がなくなった。
- 38 パイトがない、貯金ができない。
- 39 感染するのが怖いのと、日々の生活が心配です。
- 40 アルバイトが始められなかった。
- 41 派遣切りにあったこと。
- 42 職場で、コロナに対して対策を何もしてくれない。マスクも消毒も支給されず全て実費。その他もろもろ……。

- 43 働き方、転職など、いろいろと考えるようになった。妻の仕事、家庭を視野にいれながら、ちょうどいい生活を話し合っている。
- 44 収入が減った。友達と遊ぶ回数が減った。
- 45 給料が6割になってしまったため生活が苦しい。
- 46 パートナーの仕事がストップしたので、生活費が少なくなってきた。
- 47 骨折の手術を4月にする予定だったけど、コロナでできなくて腕が悪化した。
- 48 お金がない
- 49 子どもが小さいので感染対策などを気をつけていますが、遊びにいける場所がなく、息抜きの時間がほとんどないです。
- 50 いろいろ。
- 51 新型コロナの影響でアルバイトができず、収入がないこと。
- 52 パートのシフトが削られているから給料が安定しない。
- 53 会社での残業が確保できず給料が減ってしまい日々の生活が厳しいです。
- 54 働いているがアルバイトなので生活費がギリギリ。
- 55 収入減。
- 56 コロナの影響でアルバイトができず学費等の面が心配。
- 57 就職活動が不安。野菜が高い。
- 58 病院の受診が怖い。買占めで困った。
- 59 面会規制で施設に帰れず頼る相手が少なかった。
- 60 仕事を辞めさせられた。
- 61 生活が大きく変わったわけではないが、休日の外出等を控えているので、気にせず子どもの遊ぶ場所に連れて行ってあげたい。
- 62 どこへ行くにもマスクをつけなきゃいけないこと。お金が全然足りない。一人暮らしだからたくさんお金がかかる。
- 63 その他の支払もの。
- 64 ストレスを発散する場所がなかったこと。
- 65 退園した施設を訪れることができなかったことです。
- 66 漠然とした将来への不安。
- 67 給料が減った。
- 68 仕事には行けているが、土曜日出勤がなくなったりで収入が減った。
- 69 月のお給料が半分以下になった。たまにこのまま死ぬんじゃないかと不安になった。
- 70 転職（職種は同じ）で関東圏をねらっているが、コロナの影響で時期が見通せない。
- 71 結婚
- 72 働いていたバーがコロナでつぶれてしまい、就職活動をはじめたけれど、コロナで採用している企業が本当に少なく収入がない。今は母親の遺族年金を切り崩して生活しているけれど、お母さんが残してくれたお金がなくなっていくことが怖いです。
- 73 残業がなくなったので帰りは早くなったが、給料カットが入って手取り金額が2万程減った。
- 74 仕事。
- 75 貯金がないのでコロナにかかってしまったとき、医療費等が困る。
- 76 アルバイトがコロナの影響でなくなり、収入がなくなりました。
- 77 3か月間仕事休みになり、無給になってしまったが、国の給付金でなんとかやりくりできている。
- 78 アルバイトが見つからないのでお金が大変。食事。
- 79 仕事の量が急激に増加した。
- 80 給料が減ったからやりくりが難しい。
- 81 オンライン授業が早く終わってほしい。
- 82 今年体調が良くなりましたが、コロナの影響で活動や仕事探しのタイミングがなかなか見つけづらいです。コロナが終息次第、色々な活動を再開しようと思います。
- 83 買い物等で人込みに出るのをためらうようになった。
- 84 子どもと外で遊べないこと。あまり出かけられないこと。
- 85 家族がつねに家にいること。
- 86 仕事が減りました。
- 87 コロナの影響で売り上げのびず8月23日で閉店。8月24日から職がなく、どうなるか不安。
- 88 コロナの影響で仕事の勤務時間が減り、生活するお金が大変にきついです。
- 89 収入が減ったこと。
- 90 コロナの影響で例年より求人が少なくなり、就職活動がなかなかうまくいかない。
- 91 就職が決まってから始業まで一カ月かかったこと。
- 92 運よく転職ができたので生活自体には困っていないです。

- 93 今まで将来についてちゃんと考えてこなかったこと、その考えもあってまともに貯金もしてこなかったので、今回のコロナの影響で一番お金に困りました。仕事も全部お休みでギリギリで生きています。副業で何とかつないでいます。
- 94 収入がへったため生活がかつかつなこと。支援があるならば欲しい。
- 95 現職の仕事量が減り、残業不可となり生活が厳しい。コロナ前から転職活動をしていましたが、求人数がへってしまった。
- 96 買占め騒動。マスクやトイレットペーパーが店にないのが困った。食品も。
- 97 家族と一緒に外宿外泊、帰省ができなくて困っています。
- 98 自律神経失調症になってしまった。
- 99 何一つ生活が変わらないためです。
- 100 仕事がかわり金がないため家賃などが払えなくなりそう。ハローワークなどに通わないといけなくなった（泣）。
- 101 学校に行けないので作業がはかどらない。
- 102 オンライン
- 103 家賃が少し高い。肉体労働なので、将来的に不安がある。
- 104 将来このままうまく生活をできていけるのか不安である。
- 105 仕事が減って一人でのいる時間が増えた。
- 106 スポーツクラブで働いているため、約3か月くらい働けなくなり、なかなかお金がありません。
- 107 とくになし。
- 108 人に会えなくなったことが、子ども2人きりだったことが、気持ち的につらかったです。
- 109 もともとあった仕事の案件が急に中止になったり、仕事不足によって案件の倍率が増えてしまい、働く機会が少なくなった。
- 110 コロナの影響で、習いたいことがしっかり学べない。
- 111 コロナの影響でアルバイトのシフトが減り、給料が減ったこと。
- 112 アルバイトで生計を立てているので、コロナで緊急事態宣言が出てから、一気に仕事が減った。
- 113 働ける時間や給料の低下により、衣食住の費用が払えなくなった。
- 114 統合失調症と知的障害と発達障害をもって、家族も持病があり、緊急事態宣言が発令されてから、私も含めて家族がゾリゾリして、なおかつ精神的にまいってしまい、いがいみあってしまうことが以前より増えて。
- 115 働いているお店が休業になり、収入が減った。
- 116 コロナの影響でバイト先が休業になり給料がなくなった。
- 117 安定した仕事がない。
- 118 スポーツセンターがやらなくなって、トレーニングができない。
- 119 何をしてもお金がかかりすぎる。
- 120 生活
- 121 仕事を決めるのに時間がかかった。
- 122 子どものマスクがない。特に夏用のもの。
- 123 アルバイトのシフトに入る回数が減ったため生活費が少なくなった。
- 124 生活費
- 125 なかなか学校も始まらず、アルバイトも開始できない。
- 126 仕事ができなくなりお金が減った。
- 127 主人のお給料が減っており生活費が苦しくなりました。
- 128 職場がコロナの影響で、今は正社員で働いているが、これから先、業務委託になり、給料が今よりももらえるかどうか、一番はお金のことが不安。
- 129 外出制限があった（仕事）。
- 130 給料が下がった。
- 131 最近子育てで疲れてきている。
- 132 元々予定していた仕事が無くなってしまった。
- 133 仕事が無くなり困っています。
- 134 授業の始まりが遅れ、授業の進めるのがとても速くて大変です。
- 135 外に出ることを自粛しなければいけないので買い物に不便。家族にあう機会を設けて予定をたてるも、コロナをうつす可能性があるため会えない。
- 136 仕事が2か月待機になり収入がなくなりました。
- 137 職場の環境がかわり少し働きづらくなった。
- 138 友人と会えなくて嫌だった。
- 139 外出ができなかった。体調を崩した。
- 140 仕事は自宅待機や勤務時間の短縮になり収入が減った。6月末で退職となり寮を退出。現在は短期契約で働いています。
- 141 持病があり仕事に不安定。休職中です。

- 142 給料が5-6万へる。
- 143 仕事が減って給料も減ったこと。
- 144 仕事の勤務日数が減った（給料）。
- 145 会社説明会をしていない会社が多い。コロナが流行しはじめたとき、スーパーの食品がほとんどなかった。
- 146 アルバイトが、多くて週2回のため稼げない。
- 147 今後の学費が払えるか不安です。
- 148 コロナの影響で仕事がなくなり収入がなくなった、解雇された。
- 149 仕事・求人がないこと。身近ではないですが、コロナを理由に日頃のうっ憤を他人にぶつける人たちに怒りが湧いてきます。
- 150 やりくりできないほどではないが、給料が以前より減ったので、貯蓄等にまわすお金がへった。
- 151 仕事量が減った。
- 152 特に大きな影響はありません。
- 153 家に子どもがいると、生活費全般があがります。
- 154 営業の仕事でお伺い先がコロナで休業になったため売上げの低下、現在も休みの職場があります。
- 155 仕事さかし。
- 156 バイトが人員削減や時間短縮などで、収入が激減していること。
- 157 勤務地がコロコロかわり、交通費が高額になり金銭を工夫するのに苦労しました。
- 158 安定した収入が得られない。
- 159 コロナの拡大により職場である飲食店が休業になり、給与が減額になった。そのためいつも通りの生活が送れなくなった。
- 160 本職が大きくダメージを受け雇用が危うい。
- 161 ズームによる授業で伝わりにくかったり、実技などができなくて困りました。就職先の数が去年より激減していて不安があります。
- 162 前の職場を辞めないとけなくなった。
- 163 アルバイトが決まりにくい。
- 164 友人にあえない。1月ぐらいから就活を始めたが決まらなかった。
- 165 将来への不安
- 166 バイトが休業になり収入がなくなった。就職活動がまったくできていない。
- 167 気分転換が難しい。収入の落差。
- 168 給料が減った。
- 169 元気になります。
- 170 給料が減りました。
- 171 ナブキンやオリモノシートがひとり一点までとなっていたとき。
- 172 仕事がない。
- 173 外を出歩くことができず心情的につらい。
- 174 仕事がない日が続き、子どもたちの生活費が増え、食事代、光熱費が増えた。
- 175 仕事の休みが多くなっている。
- 176 収入がほぼない。
- 177 自宅療養中。
- 178 学校、保育園が閉まると本当に困るし、お金の支援も遅すぎる。今年の冬、どうなるか不安でたまらない。
- 179 外出ができないこと。
- 180 夫の給料が減った。
- 181 収入が減少した。
- 182 前よりも家族に会えなくなってさみしい。
- 183 感染リスクがあり、いつ感染してしまうのかということ。
- 184 コロナの影響で仕事が休みになってお金が少なくなった。
- 185 教習所へいけなくなった。友人と遊べなくなった。
- 186 特にありません
- 187 バイトがなかなか入れなくなったこと。
- 188 外出、外泊及び帰省の制限。
- 189 知的施設の支援施設で働いているが、入所施設という都合上テレワーク等ができず、個人のコロナ予防だけを頼みにするのは難しい。
- 190 障害児がありますが、デイサービスも時間短縮であり、助かってはいるが、短いので仕事に影響が出てしまっている。家にいる時間が多くなり、病院や訓練にも行けず、きょうだいのケンカやストレスは多くなっていた。
- 191 職場の一部の同僚にコロナ扱いされたことです。

- 192 孤独感があり、それを紛らわすためにアルコールや異性に依存しはじめ精神科に入院することになった。入院費にも少々困っている。
- 193 同じ会社の他の営業所でコロナの感染者が出て、自分も感染するのではないかと心配。
- 194 給料減。有給を使って休むように言われている。
- 195 今後就職できるか不安です。採用人数が削られるなど。
- 196 生活範囲が限られる。
- 197 外出ができなくなった。
- 198 子どもをつれて買い物や遊びに行くことが少なくなった。
- 199 旅行にいけないこと。
- 200 仕事が減り、収入が減った。
- 201 バイトを掛け持ちしているのですが、1つのバイトが休業になってしまい収入が半分になった。
- 202 仕事がなくなり、収入が激減。
- 203 小学校が休校になったりして、子どもだけで家にいることが増えて不安。休校が終わっても、子どもが学校生活になれず生活リズムも崩れた。食費が増えて生活もいっぱいばいでした。
- 204 なかなか思うように外出ができず家にこもりがちになると、気分がマイナスになり余裕がなくなってくる。接客業ということと、子どもを保育園に行かせていることもあり、子どもに、もしかしたら感染してしまうのではないかと感じ、心配がたえない。
- 205 お父さんお母さんに会えなくなった。
- 206 バイト先でシフトが半分に減らされた。そのため1日のメンバーの数が少なくなり仕事量が増えて手におえず、毎日追い込まれていたため、精神的にキツくなってきて体重が3キロ減った。もう栄養失調のレベルで遊ぶことも大変と感じる。
- 207 マスクをしていると暑い。
- 208 外にでづらい、人に会いづらいので、子育ても手伝ってほしいと言いつらい。
- 209 同居している家族の仕事が減ったので心配。
- 210 オンライン授業に対するの学費が見合っていないくて、大学側からの支援も十分ではないと感じる。
- 211 街を歩いている人が少なくなっているため、集客のほうがいまいち良くない。赤字にはなっていないが、感染対策でいつも以上に気をつかうため疲れる。
- 212 あらたにアルバイトを増やして生計を立てています。睡眠時間が足りないのと、学業に戻りたく受験費用、入学金、学費も貯めないといけないので大変です。
- 213 とくになし
- 214 第2派、第3波がきたときの収入とかがどうなるか心配。
- 215 フリーターなので仕事量が減り、収入も比例して減る。
- 216 コロナで困ることはないのですが、一人で生きていかないといけませんので、困ったときにどこに相談したらいいのかわからなくなります。
- 217 学校生活
- 218 給料の減収。
- 219 コロナによる月収の減額による生活の緊迫。
- 220 全体的にどうすればいいのかわからない。
- 221 お金もう少しほしい。
- 222 運転免許取得が遅れました。
- 223 過度な労働、出張が増えた。
- 224 仕事がなくて金がない。
- 225 仕事が見つからない。
- 226 老人ホームなどで利用者の方に感染しないか心配。
- 227 ボーナスカットになりました。
- 228 売り上げたから仕事が大変でした。しかし、残業でごはんが作れなかったことです。
- 229 お金
- 230 給料が減った。有給を使用できたのでなんとかしのげたが。
- 231 職がなくなりそうです。現在職探し中です。2回面接を受けましたが不採用でした。
- 232 給料が減少した。
- 233 仕事の給料が減ることで不安になりました。
- 234 会社が倒産したこと。
- 235 物品などが品切れになっていることがあったこと。
- 236 金銭面。
- 237 お金が減って少し生活が困った。
- 238 電車がこわいです。

- 239 仕事が減り結果的に生活費が減ったこと。
- 240 お店のお客が減ったこと。
- 241 家に引きこもるようになった。オンライン授業の反動でテストが増えて、バイトとの両立がきつく、家事がおろそかになっている。
- 242 ボーナスが少なすぎた。昇給もないかもって課長に言われた。
- 243 仕事探しがなんごう。キャバクラの時給が低くなった。車がないと仕事場に行けない。
- 244 夫の仕事が少し減った。自分も仕事ができなくなった。保育日が自粛のため。
- 245 収入が減ったこと。
- 246 飲食店なのでシフトとかも減らされて一時期は困ってました。しかし、第二波が来るかもしれないので多少は不安です。
- 247 GWに帰省しようとおもって航空機チケットを予約したが、会社から自粛しろと言われたのでキャンセルしたがキャンセルできず、航空会社に3万6000円吸い取られました。
- 248 友達に会えなくなった。
- 249 収入が減った。0円のときもあった。
- 250 あんまり外出ができない。
- 251 毎日満席になるような飲食店で働き、人の多い電車にのり、かなりリスクがありますが、働かなくては不安な現状。万が一のときに頼れる親や実家がないため。
- 252 学校が休校になり、子どもの預け先に困った（今は改善しました）。
- 253 欲しいものが手に入りづらい。
- 254 現在派遣の仕事しか見つからず、収入が減少しているため生活費に困っている。
- 255 生活費がほしい。
- 256 なんとなく不安な気持ちがあります。
- 257 資格の勉強のための研修にいけない。研修が延期になったり、県外またはオンラインがのみとなったりしたので、家なかでも学習できるようにネット環境を作ることになりました。その準備がちよっと手間と思うくらいです。
- 258 アルバイトができなくなり生活費の確保が難しくなった。
- 259 今年転職を考えていたが、コロナによって募集がストップしましたので、新しい道へ進めていない。
- 260 マスクがあつい。
- 261 給料が減ったことで生活的に少し厳しくなった、支払とか。あと人ごみにいくのが少し不安。
- 262 授業数が減った分授業のペースが早い。
- 263 カラオケのアルバイトをしているのですが、従業員が少なく働く時間が長く、帰宅する時間も遅くて、少しきついなあと思います。
- 264 施設の職員さんと4月の終わりに会う予定でしたが、新型コロナの影響で会えなくてさみしいです。
- 265 祖母と二人で生活していますが、生活費が足りず苦しい状況で大変困っています。
- 266 バイトが一つなくなりました。
- 267 給料が減った。
- 268 なかなかアルバイトが決まらずに苦労しました。
- 269 残業が減り給料が少し減った。節約は頑張っていますが……。
- 270 職を失った。
- 271 お金がありません。
- 272 主人の仕事が減り、仕事をしなくてはいけなくなり、生活リズムも悪くなり、心身がづらい。
- 273 電車にのるのがいやになった。
- 274 コロナの影響でほとんどのお店がバイト募集していないから、まだ始められていない。
- 275 マスクがうっとうしい、あつい、東京に用があるのに行けない。
- 276 仕事がなくなり家賃等がきつくなった。
- 277 GHを出たい。
- 278 仕事で収入が減ってしまうんじゃないかと毎日不安です。自分がコロナになってしまったら働けなくなってしまうから、あまり外出もできないなかでストレスの発散の方法が分かりません。
- 279 学校に通学ができないので友人関係が心配です。
- 280 祖父もコロナで仕事がなくなり、1日中飲酒しているので、文句が多かったり声が大きかったりと精神的ダメージが大きいです。
- 281 仕事に復帰するときに情緒不安定になったこと。仕事が続くか心配。
- 282 現在学生のため就活がまったく進まず困っています。
- 283 バイトを2つ掛け持ちしていたが、コロナで1つクビになり、もう片方も大幅にシフトが減り収入が少なくなった。
- 284 現金をください。
- 285 稼ぎがなくなり、家賃、食費が払えなかった。
- 286 お金の面で困っています。

- 287 お金がほしい。
- 288 仕事がない。
- 289 マスクをつけることが面倒くさい。
- 290 休業していて仕事内容がわからない。
- 291 感染が不安。
- 292 約2か月アルバイトがなくなり給料が減って生活が大変。
- 293 毎日のように感染のことを気にしながら生活したので、自分の趣味を楽しんで気分転換をしていました。
- 294 不審者が来る。
- 295 友人と会えないこと。
- 296 もう少しシフトに入りたいな……。
- 297 看護学生なのですが、病院での臨地実習ができなくなってしまったので、今後の学習についても大きな不安が残っています。
- 298 以前より収入が少し減ってしまったこと。
- 299 面接・求人応募をいくらやっても仕事につけない。無駄に時間だけが過ぎる。お金が底をつく。現状を打破しようと動くエネルギーがなくなる。
- 300 飲食店でのアルバイトで生計を立てていましたが、バイトに入れなくなり3~4月は収入がゼロでした。4月から就職したのでギリギリでした（もともと内容はもらっていました）。
- 301 仕事が減って収入が減っている。新しい仕事も見つからない。
- 302 6月1日頃から主人に高熱がでて、インフルエンザとPCR検査をしたが、どちらも陰性。職場が介護職ということもあり、この情勢から丸1日熱がでなければ出勤OKという判断があった。最終的には6月1日から6月12日まで一度も出勤できず、掛け持ちのアルバイトまで制限されてしまった。12日間の間は37.0~37.5度の間を行き来している状態だった。6月の給料は8万円ほど。通常は13万円。アルバイトのほうは人手が足りず、すべて私がかわりに出ることになった。
- 303 仕事が全てとまったので給料がなくなった。
- 304 職場の売り上げが激減し、収入に影響がでた。
- 305 今は特になし。
- 306 仕事に影響がでています。ほとんどの店のレジでお客さんとの間にアクリル版でとても声が聞こえにくく、お金の受け渡しもトレーのみとかなっているんで、かなり不便です。また、声がききとりにくいので同じことを何度も聞かざるをえないので、お客さんから厳しい態度を受けてしまいます。なので、最近のお客様はみなどりついている印象です。
- 307 給料が減った。
- 308 コロナの影響で給料が減って、ボーナスもでなかった。
- 309 給料が下がってボーナスがない。
- 310 給料がへったこと。
- 311 外出が自由にできない。
- 312 仕事が減った。
- 313 収入の減少。
- 314 通勤電車がいやだ。
- 315 児童養護施設を退所した私達にこのようなご支援いただきありがとうございます。お給料は減りましたが今までアルバイトをして貯めてきたお金があるので十分に生活ができています。
- 316 年中働ける仕事が見つからないこと。
- 317 マスクや除菌製品が売り切れで手に入らなかったことがあり困りました。
- 318 赤ちゃんがいるので外出がこわくずっと家に引きこもり、買い物もせずつストレスはたまるだけ。コロナのおかげで、職場の人も家にきてくれず、赤ちゃんとワンちゃんとすごす毎日！！
- 319 仕事が暇になりいつ切られるかと不安です。
- 320 給料が減った。
- 321 マネー
- 322 生活のリズムが乱れた。
- 323 アルバイトができる日数が減ったことで収入が減った。職場でコロナウイルスに感染した人がでた。
- 324 お金がない。保証人になる人がいない。
- 325 タイミングが悪い。
- 326 一時帰休が始まり給料が減った。
- 327 かわらない
- 328 マスク等を買うお金の出費がかさむ。
- 329 仕事を減らされた。給料が少なくなった。
- 330 外にでれなくなった。
- 331 バイトが減ったので学費のお金が貯まらない。

- 332 勤めている会社がテレワークを快く思わず、東京までで働くはめになっています。
- 333 就職活動がコロナの影響でなかなか進まない。
- 334 今は仕事に就けたが派遣契約を切られて3か月収入がなかった。家族・親族のコロナに対する意識のちがいで関係が悪くなっていくところがあった。
- 335 コロナの影響で働いていた風俗・ピンクサロンが営業時間短縮し、夜の時間でシフトに入っていた私は店を休まざるをえなくなった。そのため食費を節約していたら、摂食障害再発と思われる症状がいくつもあらわれ体調を崩した。緊急事態宣言が解除され週末だけ仕事を再開することができているが、体重の減少が止まらない。
- 336 主人が休業していた。
- 337 コロナのせいで退所がのびた。
- 338 就活の見通しが困難になったこと。
- 339 外出しづらくなった。マスクが高くて買にくい。
- 340 給料がへった。
- 341 4-5月のバイトでの収入が減り、土日1日バイトをして大変です。
- 342 収入が減って借金の返済に充てられなくなった。
- 343 収入が減ってしまった。
- 344 航空機関係の製造業なので、帰休や残業がなくなり給料が半分ぐらいになっている。
- 345 休みが増えたり短時間勤務になり収入が減ったり、今までより「稼がなきゃ」といった気持ちが強くなった。
- 346 今後子どもを引き取るために経済的な面、精神（ADHD）の病院で子育てが不安……。こんな自分でもちゃんとできるか……。
- 347 仕事が少なくなった。
- 348 家にいることが多くなったので、食費などがかさむ。
- 349 業績が下がってボーナスがないかも、人がたりない、休みが減った。
- 350 友人にあえなくなった。気軽に外出ができず発散の場がなくなった。日々のストレスがたまる。マスク不足があった。
- 351 月収が減ったこと。
- 352 就職が決まらない。
- 353 勤務先の業務悪化により、収入が以前より減りました。派遣社員のため、解雇などの標的になりやすく、生活費や返済がこれまで通りにできなくなったらと思うと不安です。
- 354 学校が休校中、仕事に行っている間、預かる場所もなく、小学生の子どもたちだけで留守番させるのが不安だった。
- 355 親の方が困っている。
- 356 手を洗うのに手洗い洗剤がなかなか買えません。消毒液・ジェルタイプじゃないものもなかなか買えません。
- 357 生活やお金のことですかね。
- 358 仕事を休まなアカンだったこと。外出制限。
- 359 ずっと家にいて嫌になった。
- 360 バイトをするのが難しいので生活費を稼げない。
- 361 おねえさんとおかあさんに会いにいけない。
- 362 ライブ・旅行の中止で仕事のやる気がでない。
- 363 業務が大幅に増えた。
- 364 自由に外出できなかった。
- 365 看護師として1年目にコロナの影響をうけ、1年目としての不安だけでない心配がある。
- 366 久しぶりにあった友人と遊ぶ機会が減ってショック。
- 367 コロナでもらえるお金を知りたい。家賃高いです。ちょっとでも安くしたい。
- 368 バイト先は閉店しており、学費が稼げず、学校を退学しなければならなくなる。
- 369 自粛が続いていて生活リズムがくるいそうに何度もなって、体調を崩すこともしばしばあること。
- 370 コロナの影響で労働時間が減り給料が減りました。
- 371 父親がコロナになって、お母さんたちからお金を貸してと言われる頻度が増えた。
- 372 コロナで仕事が減り、給料が減った。専門学校もあり途中で仕事をぬけて学校に行くが、その分給料から天引きされる。
- 373 アルバイトの収入がへり、生活が悪化している。
- 374 収入がかなり減り、生活に支障がでている。
- 375 アルバイトができなくなり、収入が減ってしまったこと。
- 376 がいつができなかった。
- 377 仕事が減り家にいる日々が多くなりました。その分、電気ガスの使用量も増え、食費や生活に必要な消耗品の購入費などお金に対する不安があります。
- 378 不安しかない。
- 379 悩み事があっても、相談相手の都合が分からず、相談するタイミングを見失う。

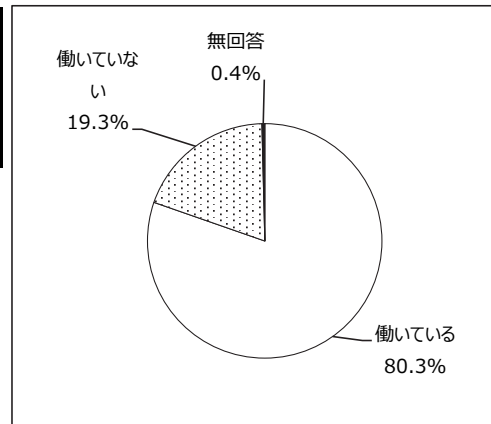
- 380 収入が安定しなくなり、会社としても忙しい時期に働いて欲しい等の理由で、助成金を勝手にカットされたりするの
で困ることがある。
- 381 仕事が減ってお金が少なくなった（給料）。
- 382 支払が多い。
- 383 とにかく生活に余裕がない。
- 384 介護施設で働いているため、職場にウイルスを持ち込む利用者様も命にかかわるので、自分や家族が感染しない
よう、どこへ行くにも細心の注意をしなければならず、これが長期的になるとしんどい。
- 385 休業補償が十分でなく、その上子どもが毎日いるので食費がかさみ苦しかった。
- 386 外出せず家で過ごす時間が長いので、ゴミ袋がなくなりやすくなりました。大学がオンライン授業をおこなっているの
で、ズーム等での通信費の負担が多いです。家にWi-Fiがなく、キャリア通信で行っている。Wi-Fiは大学内のをい
387 運動する量が減ってしまった。ジムに行きたくても不安でいけない。
- 388 バイトができず収入がなし。
- 389 転職を考えているが動きにくい。
- 390 アルバイトが見つからない。
- 391 マスクをしていないと冷たい目で見られる。
- 392 学校休校に対して単位の取得等。
- 393 住居がカビだらけ。アルバイトをクビになったこと。
- 394 仕事が見つからない。
- 395 コロナの影響は特にありませんが、東京から島根県にきたため、ふとしたときに悲しい気持ちになります。テレビや映
画を見ても東京都の風景ばかりで帰りたいと思うことがあります。
- 396 “化学物質過敏症”のため、使い捨てマスクがしよできない。のどが腫れて声でにくく、つまった感じ。また咳をす
ると、周りの人に距離をおかれたりしてつらい、ストレスとなる。しかし、学童保育で児童指導員をしているためマスク
不足に悩まされる。
- 397 仕事が減り出勤ができない日が増えました。ボーナスも大幅カットです。
- 398 減給。
- 399 仕事がひま、収入減りすぎ。
- 400 運動不足になった。マスクや消毒液などの値段が高い。
- 401 たてていた予定がくずれた。
- 402 コロナが蔓延するなか唯一の親族であった父親が亡くなりました。しかし、現在の施設での感染を防止する目的
で、葬儀等へは迎えませんでした。大好きだった父の最後を見届けることができず、さらには看護師の資格すらいま
だ活かせず、支援施設とは名ばかりの住居で現在も隔離中です。早く働きたい、父の墓参りだつて行きたい、です
が誰の後ろ盾もない今、誰を頼って自立を試みれば良いのでしょうか。私一人の力では、何も変わりません。どうす
ることもできません。帰る家さえなくなったのです。
- 403 4～5月にかけて休業が多かったです。
- 404 4～5月が無給だったので、次の家賃が厳しい。貯金が底をつき病気にもなれない。コロナが心配です。
- 405 在宅ワークが多いため、ネットワーク環境に関する課題が多い。通信速度が遅いなど。外出することが減ったので運
動不足になりがち。
- 406 他県への自由移動がうまく出来ていない。
- 407 FCサッカーやバスケの練習ができないこと。
- 408 生活する上で外出が難しくかったり、コロナにおびえながら過ごさなければならないというのは、とてもストレスになる。
健康面においても心配。
- 409 一人暮らしだと生活費にお金がかかってしまい、貯金が難しい。
- 410 ボーナスが少なかった。
- 411 4月・5月が無給だったので、次の家賃がきびしい。貯金が底をつき、病気にもなれない。コロナが心配です。
- 412 賃金が減った。
- 413 休む日も増えたため、収入が減り、生活のやりくりが大変だった。
- 414 ドラックストア等でのマスクの数がまた少なくなってきたのが少し困っています。仕事で毎日紙マスクを使わないと
いけないので……。
- 415 2か月間給料が10万円をしまわって生活費がギリギリだった。今は仕事が始まって給料が安定したがお客さんの
数がかかり多いし、ショッピングモール内にコロナになった人が出てきて不安。
- 416 仕事がなくなったので職を探している。
- 417 お金に困っています。
- 418 決まっていた仕事が無くなった。
- 419 話す人がいないので、急に孤独を感じるときがある。
- 420 職がない、金がない、食事もない。
- 421 学校の友人関係にも疲れしました。人と関わるのがしんどくなってきました。もっと強くなりたい。早く卒業したい、あと
少しだけ頑張る。

- 422 マスクのせいで具合が悪くなる。
- 423 バイトが減らされて稼げなくなっている。
- 424 8月に帰省したいが、コロナでできるか分からなくなり困っている。いつもは高速バスだが、バスが3密なので、新幹線で帰ることになり交通費が高くなる。
- 425 お金が足りません。嫁の仕事がなくなったため。
- 426 仕事の内容が自分のポリシーと逆なのでかえようか考えているが、特に困ったことはない。
- 427 頼る相手がいないため、生活を切り詰めることばかり、ただ不安でしかない日々が続いた。
- 428 家族との距離感のとりかた。自分は障がい者なので、苦勞がたくさんあります。怒られることが多いです。
- 429 外に出歩くことに対して厳しい世間の目。
- 430 バイトにあまり入れなくなった。
- 431 仕事が決まらないので生活していけるのか不安です。
- 432 残業が減り収入減で奨学金の返済に困っています。
- 433 食料など。
- 434 はらへつた。仕事が少なくなった。住んでいるグループホームの外出等の行動制限がある。
- 435 生活費がない、収入がない。
- 436 家賃が高い、ガス、電気代を含め。
- 437 仕事が減ったことです。
- 438 収入が減った。
- 439 生活費がない、収入がない
- 440 仕事が減ったことです。
- 441 家賃が高い。ガス電気代含め。
- 442 貯金を使いきってしまった。
- 443 頼りたいときに気軽に人に会えないこと。家にいる時間が増えるのはよいが、運動の機会が減ったこと。
- 444 なかなか友人と会うことができなくなってさびしい。アルバイトやインターンなども少なくなってしまった。
- 445 人との交流が減った。
- 446 仕事がなくなって困っています。
- 447 金銭的に不安です。
- 448 話し相手がほしいです。
- 449 職場の規制が厳しく、兄弟とも会えません。
- 450 友達と遊べなくなった。
- 451 働く時間が短い、3-4時間。週2-3回しか入れない。人が足りているせいか、なかなか長時間働けない。
- 452 公共交通機関の利用。実家になかなか帰れなくなった。家族とは連絡をとりあっているものの、コロナの影響で、実家まで、なかなか電車での移動ができなくなった。
- 453 バイトに入れる回数が減って、収入が以前よりも少なくなりました。

Q4【現在の仕事の状況】

現在の仕事の状況について、あてはまるものに○をつけてください。

	回答数	%
働いている	1,487	80.3
働いていない	357	19.3
無回答	7	0.4
合計	1,851	100.0

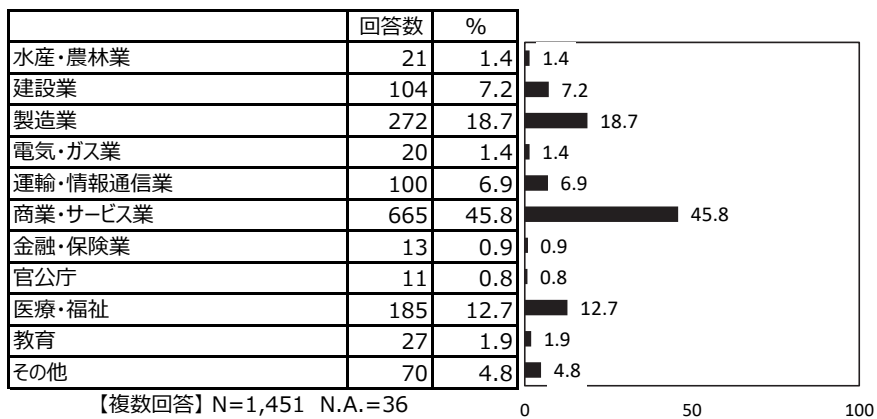


Q4-1)

「働いている」、「ときどき働いている」と回答した方にお聞きます。

Q4-1-①【業種】

次の業種で、あてはまるものに○をつけてください。

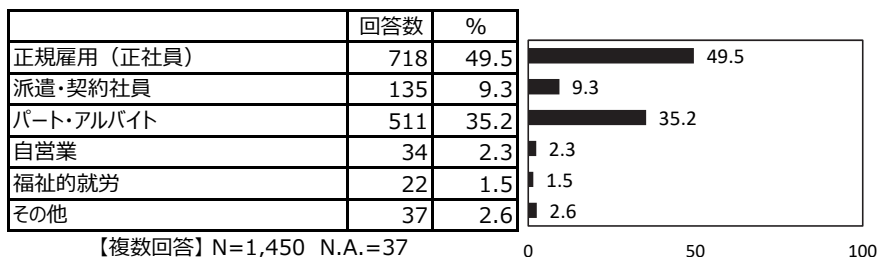


Q4-1)-①【業種】「その他」の自由記述

アルバイト(12)	団体職員
事務関係(5)	けんさ
営業(5)	学生サポーター
内職(2)	ジュエリー系
派遣(2)	コールセンター派遣
アパレル	営業でありサービスでもある。
データ入力	鉄鋼業
人材派遣業	ゼビオ
お手伝い、介護、片づけ	どれにあてはまるのか分からない。
データ管理・処理	パート
非検査業	ゲームき、小型電化製品の解体
レンタル業・建設機械	食品関係
衣服・呉服	メールの返信の仕事
会社員	倉庫・軽作業
父親の手伝い	軽作業
コメリ	資材管理
めっき業	

Q4-1)-②【雇用形態】

お仕事の形態で、あてはまるものに○をつけてください。



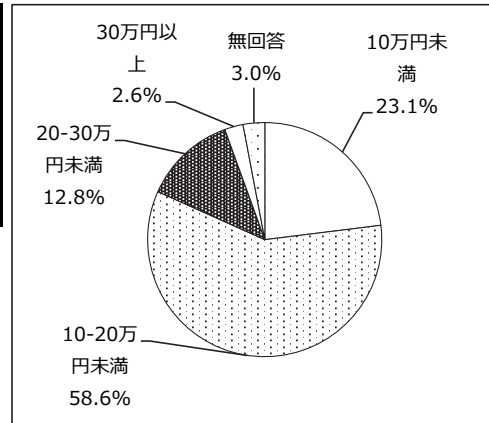
◆「その他」の自由記述

- 個人(2)
- 準社員(2)
- 修行中
- 一人親方
- 代表
- パートナー

Q4-1)-③【新型コロナ感染拡大前の月収（手取り）】

新型コロナが感染拡大する前のあなたの月収（手取り）であてはまるものに○をつけてください。

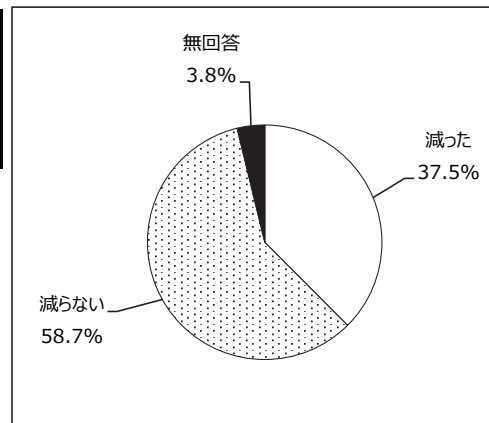
	回答数	%
10万円未満	343	23.1
10-20万円未満	872	58.6
20-30万円未満	190	12.8
30万円以上	38	2.6
無回答	44	3.0
合計	1,487	100.0



Q4-1)-④【新型コロナによる減収】

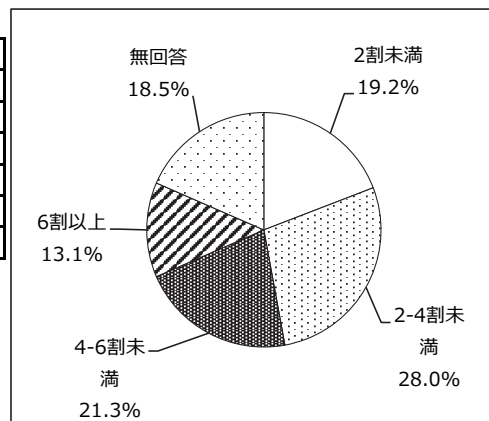
新型コロナの影響で月収は減りましたか？ あてはまるものに○をつけてください。

	回答数	%
減った	558	37.5
減らない	873	58.7
無回答	56	3.8
合計	1,487	100.0



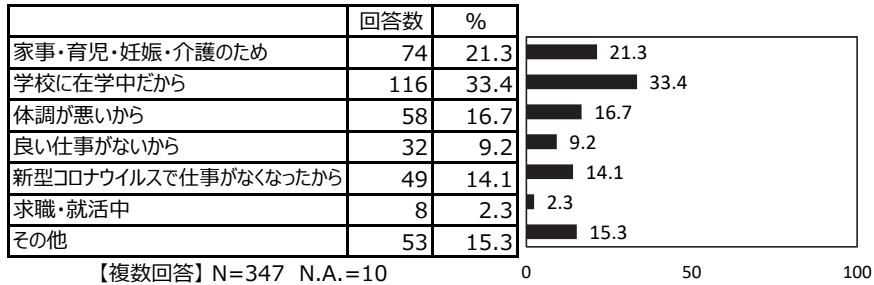
Q4-1)-⑤【減収した割合】

	回答数	%
2割未満	107	19.2
2-4割未満	156	28.0
4-6割未満	119	21.3
6割以上	73	13.1
無回答	103	18.5
合計	558	100.0



Q4-2)【働いていない理由】

「働いていない」と回答した方にお聞きします。その理由であてはまるものに○をつけてください。



◆「その他」の自由記述

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 求職中 (3) | 退学 |
| 辞職(5) | 行きたくない |
| 失業中(2) | 人間環境、まわりからのプレッシャー |
| 新しく始めても続かない。 | 車の免許、少し休みたかった。 |
| くんれん中 | 働けない。 |
| アルバイトをはじめられていない。 | 部活動でアルバイトが禁止されているため。 |
| 仕事探しのタイミングが見つげにくい。 | 失業中で就労移行支援事業所へ通所中のため。 |
| 7月16日から | まださがしていない。 |
| 両立が難しいため | にんしんしたから。 |
| 引っ越しして間もないため | 就労移行支援 |
| しゅふ | 不合格 |
| 職場の人間関係で休み中 | 精神的に |
| 転職 | 就職先が見つからない。朝起きれず続かない。 |
| 精神的にしんどいから | 自己改善 |
| B型作業所 | |

Q5【現在受けている公的支援】

現在、公的支援は受けていますか？ あてはまるものに○をつけてください。

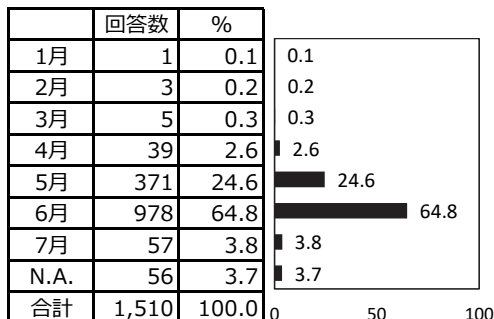
	回答数	%
国からのマスク2枚	1,510	86.7
国の「特別定額給付金」	1,350	77.5
学生支援機構の「学生支援緊急給付金」	140	8.0
社会福祉協議会の「緊急小口資金・総合支援金（無利子の貸付）」	40	2.3
生活保護	124	7.1
障害年金	14	0.8
その他	45	2.6

【複数回答】N=1,741 N.A.=110

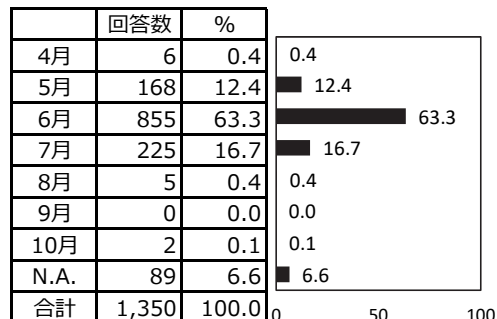
◆「その他」の自由記述

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 施設からの応援金（2） | 住宅確保給付金 |
| 退園したところからマスクが届いた。 | フードバンクさんから食料を頂きました。 |
| 親が全額わたさない。 | 奨学金制度（大学） |
| 障害者年金 | 住宅確保給付金 |
| 新型コロナウイルスによる応援金 | 日本財団 |
| 社会福祉の人から支援物資を数日分いただいた。 | ブリジスマイルの助成金 |
| ブリジスマイルさんからの家賃補助・5万円 | いくつか |
| 住宅補助を受けている | 一時保護を延長している。 |
| 施設からの食料の寄付 | わからない |
| マスク自立援助ホームに2枚届きました。 | 母子家庭の子どもに対する家賃保証 |
| 赤十字、朝日新聞の給付金 | 年金、児童扶養手当、児童手当 |
| 自律支援 | （株）手塚プロダクションからのアトム基金進級応援助成 |
| 失業保険 | 良く分からない |
| ひとり親助成金、遺族年金 | ブリジフォーから多くのマスクが届いた |
| 要保護児童自立支援基金 | 福祉施設にて管理中にて不明。 |
| 育児休業給付金受給中 | 職業訓練受講給付金 |
| 国民健康保険料の免除を申請したが断られた。 | 自立支援資金貸付家賃補助 |
| 施設出身者向けの支援金、大学からの助成金を受給。 | |
| 親が生活保護を受けている、給料が多い場合は、保護費が減額される。 | |
| 会社より定期的なマスク給配と一人あたり5万円以内のおみまい金。 | |

Q5-1) マスクが届いた月

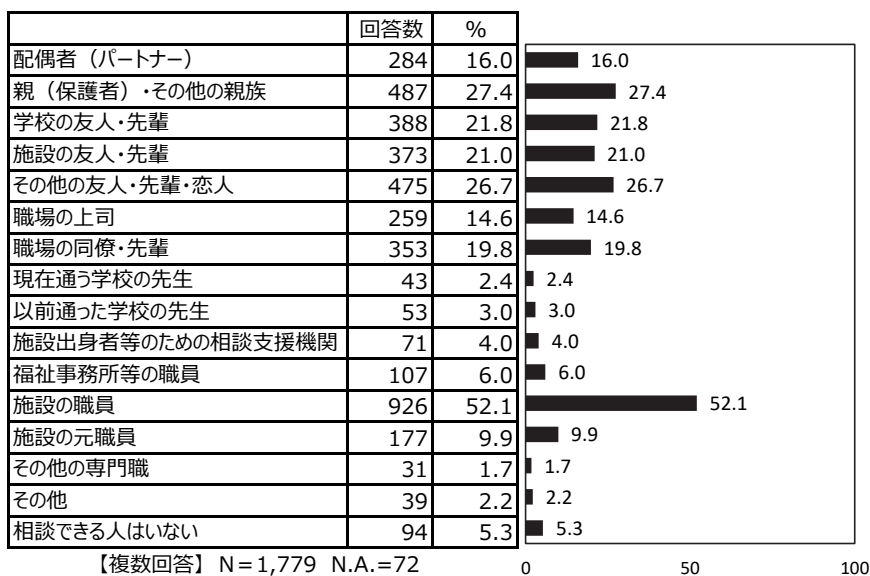


Q5-2) 国の「特別定額給付金」を受給した月



Q6 【困ったことを相談する相手】

困ったことを相談する相手はだれですか？ あてはまるものに○をつけてください。

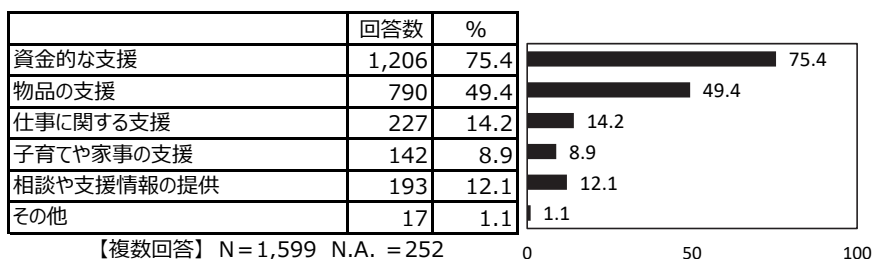


◆「その他」の自由記述

Uちゃん	学校の先生
奨学金のボランティアさん	趣味で知り合った友達。
困ることがない。	自分で何とかする
もと後見人	基本的に話さない
SNS	教会関係者
早く連絡つく人	わたし
同業者	相談
友人の親族	自問自答
支援者	相談についてですが、内容にもよりますが、お金のことは相談できません。
同居人	ゲームやマンガのキャラクターに話しかける。答えなんか知らない。
通勤寮の職員	相談しようと思えば誰かにするが、基本しないようにしている。
知人の父	施設入所時に世話になった学生ボランティア（福祉研）

Q7【今後希望する支援】

今後も新型コロナウイルスの影響が続く中で、どのような支援があるとよいですか。あてはまるものに○をつけてください。



◆具体的に（自由記述）

よろしければ、具体的に教えてください。

- 1 一人親の方等は大変だと思うので。
- 2 国からなら「資金的支援」を、そうでないなら「物品の支援」を。そろそろ赤ちゃんを産む。
- 3 食品。
- 4 マスク、アルコールなど売ってなくて困りました。
- 5 濃厚接触者で2週間休んだ時の援助が何もなかった。
- 6 学習など。
- 7 食品の援助を求む。
- 8 現金給付。
- 9 食料等。
- 10 コロナがまた増加しているため給料が変動するため、資金的な支援を。
- 11 ふるさと便みたいに使われるものが欲しいです。
- 12 金銭的にきつい。
- 13 手軽に食べられる食品など支援して頂けたらありがたいです。
- 14 マスクとアルコールがあまり手に入らなかったから。
- 15 食品も嬉しいですが、日用品等の支援があるとありがたいです。
- 16 特になし
- 17 食料品等の支給。
- 18 子どもたちのためになることを全力でやってほしい。昔の園みたい、職員さんには、子どもたちの「親」としてぶつかってほしい。
- 19 最低10万円くらいは欲しいです。
- 20 お金がかかること。仕事探しが大変です。
- 21 クオカードや商品券、物品は長期保存ができる食べ物（缶詰・乾麺）。子育て支援だと、小さな絵本や食器、洗濯洗剤当があれば嬉しいです。
- 22 今回の食品も本当にありがたいけど支払にあてるお金もほしい。
- 23 お金がかかるので大変。仕事探しが大変です。
- 24 非常食。
- 25 文房具、ルーズリーフ。
- 26 生活用品など
- 27 仕事は減ったのに支援が少ないと感じた。国からもらえる10万円もまだといていない。
- 28 なし
- 29 「資金的な支援」は、家賃とか払うために必要だから。
- 30 マスクが買えなかった。売ってなくて、売っていても高い。食費、光熱費が2倍になった。
- 31 保存できる食品。
- 32 保育園に預けられない、でも他に預けるところがないので仕事を休む。そうすると給料が減るので、働く時間だけでもみってくれるところがあればよいかなと思います。
- 33 給付金など。
- 34 お金と坐りごちの良い椅子。
- 35 仕事がなくなり新しい仕事もなかなか決まらない現状であり、その間の給料が入ってこない。

- 36 雑談
- 37 食品。
- 38 金と食料品がほしい。
- 39 相談会を開く。
- 40 もし生活も困難になるくらい収入になってしまったときに、生活できる最低限の資金の支援があれば嬉しい。
- 41 コロナの影響で仕事を失う人もいるのでコロナでも仕事ができる収入の得られる職の情報、仕事の斡旋が必要だと思います。
- 42 出勤できる日数が減ったので資金的な支援を。
- 43 コロナが広がったときは接客業をしていたのですが、自粛で働きたくても働けなかった個人にでなくても店を支援してほしい。
- 44 カップラーメン、レトルトカレー。
- 45 生活費、家賃の出費が大きく、少しずつ貯金が減っている。
- 46 家賃と食料の支援。
- 47 食料品の支援などがあると外出する機会が減るので助かります。
- 48 子育てがとても大変だと思うからです。
- 49 派遣切りにあつたので収入がなかったから。
- 50 コロナの影響をかなり受けている職種のため、今後どうなるか不安。
- 51 新しい生活様式に必要な物品をそろえるため、近い将来の子育ての準備のため。
- 52 日用品。
- 53 できれば日用品がありがたいです。
- 54 商品券。
- 55 マスク、消毒液。
- 56 正規雇用の離職に対する支援。
- 57 東京はすべてが高すぎる。政府からの10万円がはやくほしい。
- 58 お金が必要です。
- 59 定期的に情報を提供していただくと、見逃しがないのでありがたい。
- 60 スーパーの券。
- 61 これから給料が減るかもしれない。ボーナスはなくなった。
- 62 コロナの影響で近場での仕事探しが難しくなり、なかなか見つからず、彼だけの収入じゃ生活が厳しい状態で、支払だけでもお金が大変な状況です。子どもどこへも遊びに行けず困っています。
- 63 国民全員に10万円が支給されましたが、正直たりないと感じるので、状況に応じてあと何度か支給してもらいたいです。
- 64 お米、トイレトーパー等の生活必需品。
- 65 子どもに必要な消耗品。新生児でも大丈夫な除菌グッズ等。
- 66 資金的な支援も必要だと思うが、コロナの影響で将来が不安になっている人が相談できる窓口を提供することで、精神的にもゆとりができる。
- 67 家賃分は保証してほしい。
- 68 コロナで不安や情報が誤っていたりすることがあるので、お互いに情報とか交換しあったり、子どもの悩み相談を聞いてほしいと思います。
- 69 薬代がほしい。
- 70 マスクは会社でもプライベートでも使うのでありがたいです。
- 71 お金がないと不安になると思うから。
- 72 現金をもらうのは少し心苦しいので食べ物などでますぐ嬉しいです。
- 73 お金ください。
- 74 コロナの影響で仕事をする時間がへり、手取りが少なく余裕がない。
- 75 家でずっと過ごしていると生活の消耗品をよく使うので、普段よりもそこにお金がかかってしまうので、それに関わる支援や、一人暮らしでも、手軽に取り寄せられるご飯などがあれば、ありがたいです。
- 76 飲み物や食品。
- 77 米、野菜類。
- 78 現在育休中ですが、仕事復帰後でも仕事があるといいと思います。
- 79 資金もありがたいが、外に出ることと買占めを考えると現物のほうがありがたい。
- 80 お金の援助。
- 81 いつか正社員になりたいので、いろいろと話が聞きたいです。
- 82 コロナのためアルバイトがあまりできないので収入がないため、食料等の支援があると嬉しいです。
- 83 個人的に困っていることはないので、日本の経済が良くなるような支援ができればと思う。
- 84 買い物にあまりいけない。

- 85 今後どうなるかわからない状況で給付が遅れていて不安。また、緊急宣言があったとき、子どもと不安とストレスの解消法がよくわからない。いろいろな情報があるため、どれが正解なのか分からない。
- 86 給付金10万円をもらっても2か月の家賃と食費などできるから、もうすこしお金面で助けがあるといいなと思いました。
- 87 アルコール消毒液等。
- 88 日用品の支給、商品券の支給だと助かります。
- 89 免許等のお金が必要なので援助等がほしいです。
- 90 今一番不安なのがお金と今後の仕事についてなので、直接的な資金的な支援や仕事の情報を頂けるとありがたいです。
- 91 今野菜も高くなっているのに収入は減っているので、子どもに食べさせていくのに必死なので、食料関係、子どもの季節にあわせた服を支援してもらえると助かります。
- 92 現金よりはギフトカードのほうが使い道が限られていて不要な無駄遣いがない。カップラーメン等のインスタント類は長期保存がきくのでありがたい。
- 93 生活に役立つ支援をしてほしい。
- 94 コロナで収入が減っているので、資金的な支援が助かります。
- 95 恥ずかしながら今回連絡があるまで、こういった活動をして下さっている方々いることを存じ上げなかったので、困窮している方、するであろう方が、もっと助けをもとめやすいネットワークの構築が必要なのかなと、思いました。
- 96 自粛中、休業できない業種（児童、老人福祉、小売販売等）への手当等が不十分、通常の給付金とは別に支給すべき。
- 97 今回頂いたコロナ関連の生活を支えるための支援情報の冊子は、ぱっとみて分かりやすく、何かあったときにお守りかわりになるのでありがたいです。
- 98 マスクや消毒液。
- 99 家賃や生活費の補助があればとても助かります。就労支援もあってほしいです。
- 100 食料です。
- 101 お金。
- 102 保育や教育等、テレワークができない、かつリスクの高い仕事への手当金。こども（0～就学未満）はマスクをつけていることが難しい、保育現場ではコロナにかかり、クラスターがでてしまうか分からないので日々怖い。
- 103 就職が大変心配なので支援があると大変助かります。
- 104 長く保存できる食料など。
- 105 勉強をしているので、その教材や本等。
- 106 給料が減った分の補助金とか。児童館とか閉館しないで予約制とかで貸し切りで開いてほしい。
- 107 普段から購入する消耗品等の支援があるとありがたいです。
- 108 給食費など、4-6月休校中でも子どもはどんどん大きくなるにつれて、一度も使わず、上履きなど、もったいなかった。2学期以降に使うものがあれば助かる。
- 109 生活困窮者に対する資金援助。
- 110 野菜、肉、魚。
- 111 心理支援。生活を回せるだけの採用・雇用を作らないと、あっせんや就労支援など、あまり意味をなさないかも。
- 112 現在コロナの影響で仕事が減り休みが増えましたが、ありがたいことに給与は変動せず安心しています。しかし、コロナの影響がいつまで続くか分からないため、不安もあります。もしものときのために、相談できる窓口や支援情報を知りたいです。
- 113 今回の支援、とてもありがたいです。いろいろな状況があると思いますが、一番はお金、物品の支援が一番実用的で精神的にも助かると思いました。私は頼れる人が少ないので、今回のお話で、顔もわからない私のことを気にかけてもらえることがあるんだなあ嬉しかったです。
- 114 施設出身の人に給付金あったら嬉しかった。
- 115 買い出しにいくとどうしても人が集まるので感染の危険があるため、なるべく備蓄しておきたいため。
- 116 生活費がほしい。物品の支援だと好みが分れる。アレルギーなどもある。
- 117 お金がほしい。返さなくてもいいもの（笑）。
- 118 病院に行くにしても検査費用とかがどのくらいかかるのか不安があつてなかなか行けず、親に相談するのも負担になりたくなくて言い出せなかったりするので、相談できる第三者の方がいるととても心強いかと思えます。
- 119 シフトに入れないから給料が限られるので、資金的な支援をしてほしい。
- 120 生活ができるくらいの資金がないので少しでも支援があるとうれしい。
- 121 助けていただけるなら何でもありがたいです。
- 122 飲み物。
- 123 今は大丈夫です。
- 124 食品。
- 125 私は大丈夫でしたが、マスクなどなかなか買えなかったと聞いて支援できたらと思いました。
- 126 生活費に困ることがあります。

- 127 金が欲しいです。
- 128 シングルマザーであるため、今後自立に向けて頑張っていますが、コロナなどで不安は以前よりも高まってしまっています。相談先や子育て支援、自立支援などがあるといいです。
- 129 食料など。
- 130 自分の場合ですと、今年度から就活を踏まえたインターンシップが本格的に始動するはずの予定がコロナの影響で目途が立たない状況です。
- 131 学費や交通費など。
- 132 国の特別定額給付金のようなまとまったお金の援助があると助かります。
- 133 日々の生活を送るのといっぱいっっぱいで、就活がなかなか進みません。何かきっかけがあれば勝手ながら思います。
- 134 2リットルボトルの水で消費期限、賞味期限の長いもの。
- 135 正直資金的支援がほしいです。生保で年金分引かれて家族の苦しい顔をみたくない。物品の支援助かります。障害者（精神、知的、発達）の重複OK）相談の場所を教えてください。
- 136 ごはんやカップラーメン等のちょっとした詰め合わせみたいなものの支援があるとすごく助かっています。
- 137 資格取得の資金支援。
- 138 お金ください。
- 139 学費や生活費が苦しい。続いて支援して頂けると助かります。
- 140 ただいま妊娠8か月で動物園内のラーメン屋で6-8万円稼いでいたが、動物園が休業になりアルバイトができなくなってしまった。
- 141 コロナの影響で思うように収入が得られず、今回、食品の箱づめとクオカードを頂いて非常に助かりました。
- 142 お金に困ることが多いので資金があると助かります。
- 143 コロナの影響で収入が減って生活が大変です。
- 144 景気が良くならないと生活が悪くならないと思います。
- 145 現在、正社員で働けているがこの先職場もどうなるかわからない。生活できる資金も今は大丈夫かもしれない。少しでも生活ができる環境が安定してほしい。施設からの情報や資金などの支援がもう少しあったら助かる。
- 146 資金支援。
- 147 とりあえず資金が低くても良いので、長期的に仕事がほしい。
- 148 生活用品などがあれば助かります。
- 149 現金と消耗品。
- 150 消耗品（洗剤、食料、米、マスク）。
- 151 洗剤、シャンプー。
- 152 県外へ就職するときの情報提供があると助かります。
- 153 お米とても助かりました。
- 154 車検や車の燃料費当の支援がほしいです。
- 155 休職中なので生活費があるといいです。
- 156 生活用品の資金、子供用の物品。
- 157 アルバイトをしていないため貯金ができていないため。
- 158 今のところなし。
- 159 生活費の支援。
- 160 個数制限や売り切れ、値上がり等で、なかなか買い物ができないと思います。レトルト類は長持ちするので、支援していただくと助かると思います。
- 161 現金が一番必要だと思います。
- 162 仕事探しもそうですが、生活費が厳しい。
- 163 また今後も休業があると生活が大変になり、貯金を崩さないといけなくなってしまう。
- 164 一人暮らしの学生などに物品の支援（食料・生活用品）があると、とても助かると思います。
- 165 仕事量が減り、給料も下がる。
- 166 商品券やギフト券だと生活用品も買えて助かる。
- 167 資金や物品ではなく困っているときに安心して相談できる場所や人が身近に増えると生きやすいのかと思います。同じ立ち位置で寄り添ってくれる人が一人でもいるだけで大きく変化すると考えています。
- 168 通帳にいくらか支援金を振り込んでいただくなど。ティッシュペーパー、トイレットペーパーなど、食料であればレトルト食品やお米など。車がない人は購入が大変だから。
- 169 コロナで辞めさせられる方々もいらっしゃるのでは。
- 170 現物給付だけでなく、コロナ下での働き方、働き口の紹介等もあれば、より本人の生きる力になると思います。
- 171 食品、マスク、日用品。
- 172 私は新型コロナの影響なく働ける職業なので大丈夫です。
- 173 私の住む市からはお米券一人4000円分支給されました。

- 174 衛生用品が必要なので、支援して頂けたら助かります。
- 175 非常食など今回みたいに「もしも」のときがあったとき、助かると思います。給付の振り込みが遅いと生活に困るからです。
- 176 マスク、除菌類が店になく、あったとしても高額なので購入しにくいので、コロナ関連の物品支援があるとありがたいです。
- 177 施設出身者のため、相談支援機関を知らないなので気軽に相談できる機関を知りたいです。
- 178 マスクの配布。
- 179 職を失いかけてこの先不安、今日明日を生きていくために資金や物品の支援や補助があると助かる。
- 180 アルコール消毒、マスクなど。
- 181 就学支援をしてくださいと大いに助かります。
- 182 コロナの影響で仕事がなくなったり、家計のほうも苦しいと思うので、就労や生活の支援があったほうがいいです。
- 183 仕事をテレワークしてほしい！
- 184 金。
- 185 お金、アイス、韓国製キムチ、トースター、お菓子、洗剤、入浴剤。
- 186 もしコロナで仕事が休まないといけないと、生活できないかもしれないから。
- 187 家賃補助・米などの支援。
- 188 経済的に余裕が持てるため。
- 189 特になし
- 190 仕事やボランティアに出るときの費用。
- 191 国からお金が欲しい。
- 192 保育園が家庭保育になればまた仕事もあたりまえに行けず、生活費がかさむので食材や子育て支援金の様なのが今後も自粛になるからあったら助かる。
- 193 食材さえあればとりあえずは生かせる。
- 194 公園もいけなかったのが本当につらかった。
- 195 お金と食べ物が無かったら生きていけないと思う。
- 196 経済的に苦しい方を優先に、資金や物品の支援をできると良いなと思います。
- 197 特にそこまで困ってないから大丈夫
- 198 感染予防となる物品の支援（マスク、アルコール、消毒シート等）
- 199 食料の買い出しも一回で可能な限りまとめることを国はオススメしているが、仕事上、終業時間ではスーパー等は閉まっており購入が難しいため。
- 200 移動支援を（水）の登校時に利用しているが、弟が中学に入り、部活なので帰りが遅くなり兄の帰りに迎えられる人が居なく、私が仕事を早く帰らなければならなくなり困っている。支援のスタッフは夕方など希望者が集中しているためなかなか利用できない。
- 201 旦那の給料が安定しない、自分も仕事をしているけれど、平日ずっと仕事だから、子供と向き合うのが難しい（まわりで見えてくれる人がいない）
- 202 福祉施設で働いているので、もし職場のスタッフや利用者様がコロナにかかったら仕事に行けなくなるため支援は欲しいです。
- 203 ワクチンが早くできると良いと思います。
- 204 テレワークなどで家族が家にいることが多くなり、料理などの家事、食費、光熱費の負担が大きくなっている。
- 205 子供の預け先に困った。頼れる親族がいない分特に子供がいるので買い物は必ずしなければならない。その分感染リスクが上がって不安
- 206 マスクの定期的な配布。
- 207 それぞれの人によって影響状態が違ふと思われるので、物品よりは資金の方がよいと思う。
- 208 18万から6万4千円に給料が減って1か月の生活が厳しいことがある。「特別定額給付金」が2か月に一回かせめてでも3か月に1回のペースであると助かるかなと思います。
- 209 バイトをしているが極端にシフトが減った。自分は会社とバイトの掛け持ちで生活費などのお金は会社でまかなっているが、遊びのお金はバイトの給料でまかっていた。シフトが減れば給料も減るから遊び金が減った。自分は会社での給料もあるから生活が苦しくならないが、学生たちはバイトの金で生活をまかっているから大変そう。
- 210 特になし
- 211 特になし
- 212 コロナの対策についての情報。
- 213 マスクが欲しいから。
- 214 生活するための給付。
- 215 一緒に仕事を探していただいたり、相談にのっていただけるとすごく助かると思います。
- 216 食品
- 217 特になし

- 218 就職
- 219 なし
- 220 b.今回の物資の中にお米が入っているといいなと思いました。 C.現在作業所に通っていますが、追々は一般雇用の障がい者枠で働きたいと思っていますが、求人サイトがあまり充実していないため、障がい者の就職に詳しい人と仕事探しがしたいです。
- 221 支援金、トイレトペーパー。
- 222 収入が半分以上減ってしまいこまっています。今も仕事がひとつは休みという形になっています。
- 223 収入の影響、周りの状況や比較。
- 224 家で自粛していてストレスがたまるので買い物したい。
- 225 継続的な資金の提供、期間を設けない家賃等の免除。
- 226 日用品など普段からストックしていてもまたいつなくなるかわからないので、少しでもストックしておける量があると助かります。
- 227 洗って使えるマスクがあるといい。
- 228 食糧の支援等ありがたい。男子の一人暮らしなので。
- 229 仕事をやめてしまって次の仕事が見つかるまでの支援。
- 230 困ったことや悩み事がある時、相談できる場所があるといい。
- 231 日用品。
- 232 休業にならないサービス業のためにマスクが継続的に必要です。
- 233 家にいる時間が増え、子どもと過ごす時間、家事をする時間が増えストレスになっていると友人から聞いたので。
- 234 安定した生活を送りたいです。
- 235 お仕事一緒に探してもらいたい。
- 236 オンライン授業に対応できる環境があまりそろっていないので、それに対する支援をしていただけるとありがたいです。
- 237 アルコール等、マスク、家賃補助、生活費の補助。担当していた職員さんからの連絡。
- 238 働けない（できる職が見つからない）人への支援があれば良いと思う。
- 239 一番困っているのは資金です。お金がないと物を食べることも生活していくのも難しくなるので。
- 240 食べ物・現金。
- 241 食料品や日用品が嬉しいです。
- 242 第2波、第3波がきて、緊急事態宣言がきたとき、会社の出社日が減って収入が減るので、最低限ごはんが食べれる資金があると助かります。
- 243 非正規雇用だと補償の額も少なく、再開・中断の不安もあるので、状況によって必要になる支援は異なると思われる。国の定額給付金もあてにならないと思っているので自分でどうにかしないとけないと思う。
- 244 もうしてもらった。
- 245 お店で買い物をする密になり感染するリスクが増えてしまうから。
- 246 現金または融資。
- 247 特になし
- 248 資金はあるに越したことはないで…。
- 249 具体的に解決できる方法を教えてくださいとあるところがあれば（もし困るようなことがあれば）。
- 250 保育園が万が一閉鎖（臨時で）されたら、仕事が出来ず、収入が減ると思う。仕事の時間だけみてもらえたら助かるかなと。
- 251 何でもいいですよ、ありがたいので。
- 252 できるだけ外にでないために、物品の支援をしてほしい。
- 253 私は学生でアルバイトが主な収入源となっていますがCOVID-19の影響しかり、就職活動もあり十分なアルバイト時間を確保できないため、今回のような「食の支援」は非常にありがたく感じています。
- 254 買い物で重いお米とか。
- 255 お金が欲しい、食料品。
- 256 家賃が大きな負担だと思うため。
- 257 月々でもいいので、継続的に少額でも欲しい。
- 258 今回の様に休校になった際、共働きの方が大変そうだったので、施設の方でめんどうみて頂いたりするとありがたいかなと思いました。
- 259 aについては、そのような何か支援できるようなものがあれば活用したいです。 bについては、食品などを頂くことができれば生活を豊かにすることができます。
- 260 新型コロナ感染拡大外出自粛で外出できない人の物品支援。
- 261 感染リスクを軽減できるもの。
- 262 世の中全て金。
- 263 今後、紙類、手袋類などは値上がり傾向になると思うので早めに購入は必要と思える。
- 264 わからないことがきけて教えてもらえるから！

- 265 正社員を目指したい。大手の企業にも支援を 医療機関で働いている人にもっと支援してほしい。
- 266 もう一度「特別定額給付金」が頂けたら少し生活に余裕ができると思います。
- 267 家賃補助。
- 268 就職活動中だが見つかるまでの資金が心配。
- 269 主に非常食があればうれしいです。
- 270 転職が厳しくなるのでそこを改善してほしい。
- 271 分らん
- 272 レトルト。
- 273 生活に必要な物です。
- 274 マスクがあまり売ってないから困ります。
- 275 お米等の保存がきく食料。マスクが現在は高価なので、マスクや消毒液の配布。
- 276 食材。
- 277 給料が減っている分、少しでも資金や物品の支援があると助かります。
- 278 外に出たくないから食料品等。
- 279 食べ物の支援があると嬉しいです。
- 280 食料。
- 281 お金が欲しい。
- 282 車がないので安いスーパーに行けない。早く働きたい正社員として。お金が欲しい。
- 283 とくにないです
- 284 保育日自粛になって、お昼代がものすごくかかったので…。
- 285 定期的な卒園生の集まりなどがあったらうれしい。
- 286 物品の支援は助かった（特にマスク）。給付金があったが、それでも資金的な問題を持っている人は多々いるように感じる。同封してあった支援情報もわかりやすくて助かった。
- 287 家具をそろえることが大変だから。
- 288 1人暮らしの人に減った分の給料の支援してほしい。マスクが不足しているので、そういった物品が欲しい。
- 289 私のように親がいても助けてくれるわけではないので、生活を安定させるために給与明細書を見せれば、何割か生活費を負担してほしい。
- 290 新型コロナウイルスでやっぱり、物品を始め足りない物を支援。新型コロナウイルスで働けない人を中心に支援してほしいと思う。
- 291 食品。
- 292 今回、物品の支援を実際に頂いて、とても助かったので良いと思いました。色々な物を入れていただいたので中身を見るのもワクワク楽しかったですし、自分を思いながら選んでくれたんだなと先生方の温かい気持ちが伝わり、幸せで嬉しい気持ちになったからです。
- 293 必要としている人に尽くしてください。金銭等の資金的な支援は個人的には反対です。
- 294 子どもの預け先（慣れた学童保育で預かってもらえると安心）。
- 295 生活に使う物などは人それぞれなのでそういった支援があると少しでも生活のたしにすることもできても助かるため。
- 296 コロナの影響で生活費を払うのがギリギリなくらいの収入しかもらえていないため。
- 297 生活費の支援。
- 298 特になし
- 299 新型コロナ影響は予想以上にあるため、資金的な支援（特別定額給付金の再支給）。
- 300 転職先の紹介、次の仕事が見つかるまでの資金的な支援。
- 301 お金（現金）下さい。父が不安です。
- 302 出産された友人等周囲が増えていますが赤ちゃんのミルクボンとか消毒系のものが足りないとも聞いたり、医療現場でも衛生用品の不足もあたりしたので、今は少しずつ普及していますが、支援があると安心して暮らしたり仕事ができると思います。
- 303 商品券、生活必需品等が欲しいです。（困っている人中心におねがいします。）
- 304 お金が足りない時、最初に削るのが食費のため。
- 305 世帯ごとの生活状況を把握し必要としている方への資金と物品の支援が一番必要。書面での情報収集ではなく、インターネットでの情報収集が良い。YouTubeの告広告、もしくはYoutubeで動画を作成し募金を促し、本当に必要としている方への支援をすべきだと思います。
- 306 就職が難しくなった場合の賃金の補償。不況による就職活動の困難になった場合の支援。
- 307 コロナの影響で転職の機会が無くなってしまったため、少しでも給料を上げるため、転職支援などがあると助かります。
- 308 食品を今回の様に何度か支援して頂けると大変助かります。
- 309 ちよきんなどを切りくずして使うもギリギリになるから。
- 310 このようなコロナウイルスの状況ですが、頑張りたいと思います。

- 311 生計維持者である保護者がコロナウイルスの影響により仕事が出来なくなり、収入がゼロになったので、資金的な支援が必要だと思います。
- 312 一番は生活なので生活費の支援があるといいです。
- 313 学費の支援。
- 314 b:冷凍食品もらえればありがたい。c:できるならいい。e:給付金は知らない人いそう ※Q5で書いたものとか。コロナの影響でゆるくなっている。
- 315 働きにくいこのコロナ化の中でお金がたりないのももたりません。就職についても不安を抱えているので3つ選択しました。
- 316 食料品、日用品は頂ければ助かります。
- 317 私は上手くやっていますが、きょうだいや家族、施設の子がどんなことに困っているかアンケートをして、何をしてほしいか聞いているのは良いことだと思います。その人の要望に答えるだけで支援してもらっていると思うので、小さいことを継続して支援できるようお願いします。
- 318 主人の仕事も減り、子どもを育てるには厳しい状況。
- 319 今現在、働いていない人がいると思うので、資金的な支援があると少しは不安要素が減ると思った。
- 320 学費や家賃授業料を払うためにあつたら助かります。
- 321 支払いに回せる現金支援があると助かります。
- 322 お金の方が自分の必要な物品を購入できる。
- 323 食料。
- 324 お金が欲しいです。
- 325 給料があまりでない。だからたくさん出してほしい。フードバンクの支援が欲しい。お金に余裕がない。200円生活一日あたり。
- 326 収入がなく本当に困っています。
- 327 マスクが手に入れづらい。洗濯用の洗剤関係、トイレトーパー、ティッシュ、水、保存がきく食品など。
- 328 マスクが手に入れづらい。
- 329 1人暮らしを始めるにあたっての支援、相談。
- 330 お金が欲しい。
- 331 粉ミルクなどのベビー用品といった支援があると助かります。
- 332 お金がたくさんほしい。
- 333 お金。
- 334 現金。
- 335 お金の面で困っているので資金的な支援が欲しいです
- 336 現金が欲しい。
- 337 困ったときにお金をかしてもらいたい。
- 338 コロナ自粛の中、子どもを連れて買い物に行くのにためらいがあったので、支援物があるといいなと思う。また、マスクの支援。
- 339 米、マスク、アルコールスプレー、QUOカード。
- 340 お金もそうですが、物品も嬉しいです。
- 341 お米。
- 342 コロナで就職の方も困ると思われるので支援があつたらうれしいです。
- 343 お金をもらえると勿論嬉しいが、個人的にコロナウイルスとは全く関係なくお金を稼ぐ力が欲しいのでCを選んだ。
- 344 仕事が忙しかったので、子育ての支援はあればうれしい。
- 345 日々の生活の中で集まる所が無くなっているのでお店や施設に給付してほしい。
- 346 子どもが家で一人でいる時間が長いので、その時間を安心して過ごせる様に、色々たくわえているので普段はかからない費用がかかる。
- 347 金銭的支援があればと思います。なかなか10万円も届きません。
- 348 給付金として頂ければ今後の学費などにも使えます。
- 349 手作りの洗い替え用マスクや消毒液や学習物品の支援。※新型コロナのワクチンの早期開発など。
- 350 子供がまだ小さいので色々お金もかかるからお金や物品の支援があれば助かる。
- 351 お金が欲しいです。10万じゃ足りません。50はかるくほしかった。
- 352 保存食の配布など。
- 353 安楽死
- 354 特になし
- 355 米欲しい。
- 356 利用できる支援制度があっても情報を持っていなければ利用することができないのでこんな支援制度があるといった情報の提供はとてありがたいと思います。

- 357 施設を退所した方々の中には親や家族を頼れずに困っている方々もいると思います。資金的な支援や子育て・家事の支援があるとよいと思います。
- 358 コロナが完全に終息して今までみたいになればいいが、これからも戻らない場合自分以外の人も大変な思いもすると思うので資金や支援があれば助かります。
- 359 私はなんとかこなしていますが、仕事の無い方（なくなってしまった）もいると思うので、a・c。
- 360 収入が減った分、生活が苦しくなったから。
- 361 子供3人育てるのにいっぱいいっぱい。よく食べる、服のサイズもアップする。とにかくお金がかかる。なので物品の支援はすぐ助かります。
- 362 日給月給制度で働いているため、出れない日給カットなので辛いです。
- 363 児童養護施設への支援。
- 364 金券や物品は、とても実用的で助かる。
- 365 なし
- 366 学費。
- 367 店でなかなか手に入らないマスク。
- 368 支援情報は個人で調べていてももれてしまったり気が付かないことが多いので、積極的に教えていただきたいです。
- 369 学費。
- 370 食べ物等。
- 371 特になし
- 372 生活用品（日用品）。
- 373 カレーライス。
- 374 特別定額給付金のような配布を再度申請できるようにする。
- 375 現金給付。
- 376 食品関係。
- 377 キッチン用品がないため、電子レンジ又はポットのみ使用で作れるものをご支援して頂けると嬉しく思います。
- 378 新型コロナによる県外市外への移動等制限されると、仕事の内容も制限せざるを得なくなる。仕事を制限されると会社としても収益が減り、私も日給制なので休みの数だけ収入が減。
- 379 スーパーなど自粛など有るかもしれないから。
- 380 日用品の支給など外出しなくても支給されるとありがたい。
- 381 子育てのまっさい中ですがコロナのせいで外出できず。赤ちゃん広場の再開や育児とか相談できるママ友がほしい。とにかくしゃべる相手が欲しいです。食べ物もこわくて買いに行けないのでラーメンとかお菓子、レンジでチンできる冷食などが送ってもらえるとありがたいです。
- 382 持続的な給付金（一回だけでなく何か月に一回とかのペース）。
- 383 マスクやアルコール消毒などの値段が高いため。
- 384 大体は金があれば解決する。
- 385 必要な方だけに行く。申請した人だけみたい。
- 386 特になし
- 387 家賃補助。失業し収入があっても（年金・失業手当）今後のための貯金が出来ないから不安なため、日用品等の生活に必要な物の支援が欲しい。（トイレットペーパーや洗剤）
- 388 クオカードや商品券などのギフト券。レトルトや調味料の寄付。
- 389 家賃のお金。出来たご飯食べたい。
- 390 コロナでなくても施設卒園者は困っています。
- 391 給与減額を調査し、必要に応じて支援が欲しい。
- 392 特になし
- 393 マスクを買うお金をほじよしてほしいです。
- 394 マスクや消毒液、お金。
- 395 長期保存できる食料など。
- 396 東京で100人以上も感染者がでたのに東京まで出勤して働きたくありません。というか電車に乗りたくありません。テレワークできる環境。
- 397 減ってしまった収入の資金援助など。
- 398 今は解消傾向にありますが、マスク不足はけっこう困っていたので、送ってもらえて助かりました。（ほぼ毎日通勤していたため）
- 399 フードバンク系の支援があるといいなと思いました。
- 400 観光地なのでこれからのGOTOキャンペーンが不安です。
- 401 マスク
- 402 困っている人に資金的な支援が必要。
- 403 金銭的に援助がほしい

- 404 洗剤や消耗品。
- 405 今一番の不安は8月出産予定の子供のコロナの影響。
- 406 必要としている方、困っている方に提供してほしいと思います。
- 407 就労支援、支援情報の提供。
- 408 圧倒的に経済力と生活力が低いので、それにあてられるものと助かる。
- 409 共働きなので資金的には困ってないが、マスクなど支援があると嬉しいです。
- 410 お金もそうですが、おむつを使用する年齢の子には月一でも、おむつの支給（1人親は特に）があればいいのかなと。虐待のニュースも増えているので子供の相談を気軽にできるような人が月1回とか訪問があればいいのかなと思います。子どもは親を選べないので。
- 411 お米・飲み物・お菓子・乾麺など。
- 412 なんでも嬉しい。
- 413 就職の支援がほしい。
- 414 相談できる人が一人でもいたら、心強く自分にとって励みになります。「いつでも待っている」という言葉も嬉しいです。相談する相手を間違ふときもあります。（ちゃんと話せず心にためこむ）社会に出てすぐは、張り切り過ぎる子も多いかと思うので、心が病む前に声掛けを少しだけしてあげてほしいです。
- 415 資金的な支援は現在も働きに出れない人向け。物品の支援は欲しい物が手に入らない人向け。
- 416 飲食の節約は出来ますが、消耗品はなかなか難しいので、そういった支援があると嬉しいです。
- 417 防災用品。
- 418 資金的な支援はとても助かりますが、しかしそれだと額が増えてしまいます。支援する側も大変ですので、食料や日用品でも十分助かります。
- 419 家賃などの支援、食料など。また、支援情報など教えていただきたいです。
- 420 マスクとか箱ティッシュとか日用品。保存できる食品など。
- 421 車や自転車がなく息子をつれて買い物に行くのが大変でアルコール消毒やおむつの減りがひどいからそうゆうのがあればめっちゃたすかります。
- 422 新型コロナで休みの日に外出しづらくなり、子どもが退屈していることが多い。医療従事者なので、感染予防としてマスク購入することが多く、高価なので家計に響いている。
- 423 今のところ大丈夫です。
- 424 子育てや私生活などでの金銭面です。
- 425 特になし
- 426 現金10万円。
- 427 マスク、簡易食料
- 428 QUOカードなどの金券で支援をする。
- 429 給付金や消毒液・マスク・除菌シートなど。
- 430 生活保障に関する情報の提供、相談支援、covid-19流行前後に限らず、失業保険、無低診断等の生活保障に関する情報を提供する必要があると感じます。
- 431 全部あるといいと思います。
- 432 母さんに苦しめられてきた人とかにもサービスがあったらいいなあ。だって本来なら家族で助け合おうでしょう。でもそれが無理なので世界が私たちを救ってほしいですね。まず子供を捨てないでほしい。それがなかったらどんなに素晴らしいことか。
- 433 月々の学費を滞納している状況なので、学費の援助を受けられれば、まだ夢を追いかけられます。
- 434 特になし
- 435 給与が安定しないので、家賃保証があると助かります。
- 436 落ち着くまでの家賃負担または半分負担。
- 437 必要最低限の生活費や食材があるとかなり助かります。仕事がなく収入源が無い場合どうしようもないです。
- 438 もし工場のラインがストップして仕事できなかつたりコロナ解雇で職を失った時のため。
- 439 将来のことを考えて貯金したいのですが、仕事も減り給料も少なくなりました。この先不安ばかりです。
- 440 家賃が食費の足しにできるお金。
- 441 新型コロナウイルスで仕事ができない人のために働く場所が必要かなと思います。
- 442 会社からうける制度は制限があるので、そういったところを通さずに給料補償や手当等があると助かる。（働かないのに給料はないよ、みたいな扱いの制限）
- 443 国からお金がもらえないので資金の支援はうれしいことです。あれば。
- 444 家賃や公共料金を無くしてほしい。
- 445 カップ麺、調味料、お菓子類、タオル類、飲み物ジュース等。
- 446 学費や免許を取るのに必要なお金。
- 447 外で買い物するのも少し怖いので、代行等あるとうれしい。
- 448 とにかく充分ではない。つらい時期を国民は経験している。

- 449 生活消耗品。
- 450 例えば、仕事が決まるまでのつなぎの資金や生活費
- 451 生活出来る支援をしていただきたいです。
- 452 今どういった支援があるかわからない。仕事がいつできなくなるかわからないので資金の余裕が欲しい。
- 453 給付金みたいなのがあれば”嬉しいけど”、何より。仕事で、マスクは白い使い捨てマスクのみOKだから白いマスクは助かる。
- 454 りつあいかんでつくったパンがほしい。
- 455 アルバイトがなく、食費が削れなくて困っている。
- 456 給付金情報等。
- 457 就活する際、東京の実家には泊まるのが難しいのでどう探したら短期間で見つけられるかと思います。
- 458 私は進学のため東京から島根県に引っ越しました。年に二回ほど長期休みで帰省しますが、遠距離のため費用が掛かります。来年の就職活動でも往復しなければいけないため、支援をしていただければ幸いです。
- 459 現在生活保護を受給中だが、欠勤のない月は収入額が増えすぎてしまい返還金が増えてしまう。職場が神奈川なので引っ越したいが、精神疾患があり安定して働けないため、生保を打ち切った生活がなりたつと思えない 現在の自治体から出てしまうと保護が切れてしまうので新たな地で保護の申請ができるかわからない。
- 460 家賃支援して頂けると助かります。
- 461 資金的支援はとても助かります。
- 462 保存の効く食料品
- 463 布マスクより紙マスクが欲しい。もしくは洗えるマスク。給料が変わらなくても、生活用品とかもろもろ高くなっているから。
- 464 久しぶりの連絡や物品が届き本人がとても喜んでいました。
- 465 児童養護施設にも自立支援として退所した方に関わりをもてる支援があればよいのと思います。自立支援施設もさまざまなので一概にはいえませんが、私が入所しているところでは、コロナになり現在支援という支援は一切されておられません。仕事についての情報提供や相談もそんな施設の方にしたいとおもいません。家族のいない私はいつもさみしくて、自殺未遂もして、そうやって支援施設に入居しましたが、良くはなりません。そんな私にとって心の支えになるのは、いつも幼いころから入所していた児童養護施設です。どうか、なんでもいいのです、関わりの持てる支援がほしいです。
- 466 家賃補助。
- 467 新型コロナウイルスの影響で飲食業や観光業で失業者が相次いで発生していると聞きます。そのような方々が安定して継続的に収入を得られる状況を作ることが大切であると思います。
- 468 私は特にないです。都市部中心に、都市部では今後も大変だと思うので、このような物品支援は続けて良いと思います。
- 469 就職するために必要だから。
- 470 コロナにかかるかくごで働いているから。
- 471 一時的な金銭的な支援だけでなく月ごとに振り込まれる形式のもの
- 472 定期的に連絡をとり、近況報告しながら、支援情報を提供してもらおう。必要に応じて、相談しながら物品の支援をしていただく。
- 473 家賃補助（少しでもいいからあったら嬉しいです）。家族からの支援がないので、お金が欲しいです。
- 474 生活に困っているため。
- 475 家賃補助
- 476 特になし。
- 477 コロナの影響で生活するためのお金が減っている。
- 478 給料を上げてほしい。
- 479 特に支援はなくてもいいけど、なにかしらあれば助かります。
- 480 現在は早急に必要な支援はない。
- 481 また休業などで給料が減ったら資金的な支援があったら嬉しいです。
- 482 まず、自分達の心配をしなさい。そして右の頬を殴られたら、左の頬も差し出しなさい。主は見ています。アーメン
- 483 コロナでお金があまり入らないので、お金が不安です。
- 484 施設出身者に10万円支給、食料品レトルトの支給、
- 485 2千万円給付。
- 486 給料が減ってしまったので、食費を節約しないといけないので。
- 487 今のところ困っていることはございません。
- 488 特に自分でも何が必要かわからない。その時によります。
- 489 マスク（アベノマスクのようなものではなくて、みんながつけている様なもの）。
- 490 何でもよいです。
- 491 バイトが減って生活費がなくなるから。移動できる範囲が制限されたり、出れなくなるから。

- 492 日本の経済打撃がある中、特別定額給付金を持続型にし、少しでも経済に貢献できるようにする。その際、将来が心配で貯金に回す人もいると思うので、今回のようなQUOカード（ネットや店舗でものと交換できる物）等の配布が良いと思う。
- 493 マスク、アルコール、生活用品（洗剤、ペーパー類など）
- 494 支給条件が厳しくない奨学金など
- 495 小さい子どもがいてもパートができる職場。
- 496 施設の先生と子供という関係の中で求められることは相談ぐらいしかないと思う。現実問題、親ではないし、血の繋がりが無いから物質的な支援は難しいと思う。でも本当の本当にお金がない時は助けを求めることになってしまうし、思いと現実がかみ合わない。
- 497 雇止めなど起こっている、仕事の紹介や生活に必要な資金集めの補助など。
- 498 物品も嬉しいが、消費量によってこれが欲しいなど変わる。マスクのサイズ等もあるため、資金的な支援の方が本当に困ったときに助かります。国の特別給付は助かりました。
- 499 今働いているとはいえ、いつ働けなくなるかとても不安なので情報や相談できる所があると安心できます。
- 500 これまで普通に買っていたマスク等が急に買えなくなったりしたので、このような支援があり非常にありがたいです。
- 501 職的には福祉の仕事なので給料も変わらず頂いていますが、マスク、ティッシュなどは毎日使うものですぐに消費してしまうので助かります。
- 502 給付金。
- 503 食品や飲み物、食べ物があると生活も楽になり助かると思います。
- 504 仕事がない日が続いて、お金のことが一番困っているので資金的な支援が一番あると良いかなというのと、物品も消耗品などは頂けるなら、頂きたいです。
- 505 妊婦への支援。働けるだけ働くつもりが計画通りにいかず、生まれてくる赤ちゃんの物をそろえるのも難しく、市役所に相談に行ったり生活をととのえるのがとても大変でした。貸付のおかげで助かるものの結局返すのが大変。
- 506 電化製品。
- 507 資金的な支援（返金不要の支援金）。
- 508 給付金の定期的な支給。
- 509 雇用数の拡大が出来てくれればうれしいと思う。
- 510 資金的な支援（返金不要の支援金）
- 511 自己肯定感を高めるための支援。世の中いくら支援をしても受け取らない良くない状況に陥ってしまう人がおり、そこには自己認識を変える方法が必要です。まずは一人ひとりの心の改善が最優先！！
- 512 コロナウイルスの影響により、大学の授業がリモート授業が増えたり、課題の提出のためにパソコンが必要となってしまったが、金銭的に厳しいため。
- 513 収入が減ったため（コロナの影響により）、食品などの支援があつたらいいなと思いました。
- 514 なし
- 515 食材の支援や日用品の支援があると助かります。
- 516 私は寮に住んでいるけれど、友だちは一人暮らしでアパート代とかに困っているから。
- 517 園に遊びにいけないうのでさみしいです。
- 518 相談して解決策やアドバイスをもらえれば良いと思います。
- 519 感染が拡大して失業者が増えているから。
- 520 こうやって連絡をくれるだけでも嬉しい。クオカードありがとうございました。助かります。
- 521 今はまだ安定しているが、いつ不安定になるかわからないから。
- 522 お金や物品・生活用品の支援があると助かります。
- 523 現金を頂けることが助かります。
- 524 物品は、日用品か保存食がありがたいです。

Q8【その他、希望やメッセージなど】

その他、何かご希望やメッセージなどありましたら、お書きください。

- 1 頑張っ乗り越えましょう。
- 2 無理しないでピリピリしないで生きて下さい。
- 3 ありがとうございました。
- 4 大変たすかりました。
- 5 私と同時期に退園した子や園と一緒に生活していた子が親のこと、住まいのこと、お金のことで困っているとよく耳にします。私は、たまためパートナーにめぐまれ、今毎日を笑顔で過ごしていますが、少しで退園した子に支援をと思っていたので、頑張っ手を差し伸べてあげてほしいです。応援しています。
- 6 あまりこのような相談ができていなかったのでモヤモヤが減りました。
- 7 QUOカードとギフトカードで支援していただき、ありがとうございます。
- 8 クオカードとお米ギフト券助かりました。
- 9 マスクや消毒液などもらえると助かります。
- 10 ふるさと便、助かっています。
- 11 もし仕事で困っている人がいたらなんでも協力させてください。
- 12 施設にアルコールがないので届けてほしい。
- 13 ありがとうございます。
- 14 寄付を頂いてありがとうございました。大切に使います。
- 15 この度はご支援ありがとうございます。どれも大切にに使わせていただきます。なかなか外出できないなか、このような支援が頂けること、大変嬉しく思います。卒園者支援というものが少ないので、このような支援がもっと広がればよいなと感じました。支援いただいた皆様、コロナで大変と思いますがお体に気をつけてください。
- 16 話を聞いて本当にありがたい支援だと思いました。想像していたよりずっと多くの食品、調味料まで届いて感動しました。
- 17 今回のものがもらえて本当に助かります。
- 18 いただいた日用品ありがとうございました。
- 19 支援ありがとうございました
- 20 非常食
- 21 とくにない
- 22 たくさんの支援物資嬉しかったです。ありがとうございました！
- 23 今回のコロナで大変ですが、いろいろな人が電話をくれたり支援していただけたので、すごくありがたみを感じました。これをきっかけに話が増えたりしたので、全部が悪くは感じなかったです。
- 24 なし
- 25 ご支援ご協力ありがとうございました。
- 26 施設をでて何十年もたつと、忘れ去られていると思っていました。気にかけてくださる方がいるだけでこころが救われます。施設の職員だった方も、たまに連絡くださいます。とても嬉しく感じています。
- 27 ご支援ありがとうございました。これからも頑張っっていくと思います。
- 28 コロナの影響によりバイトができない状態でした。なので、金銭的な面で不安があったのですが、今回このような支援をしていただき前向きになることができました。本当にありがとうございました。
- 29 ご支援ありがとうございました。
- 30 特になし
- 31 椅子ください。
- 32 ご支援ありがとうございました。
- 33 いつもお疲れ様です。頑張っってください。
- 34 物品の支援ありがとうございました。とても助かりました。
- 35 ご支援ありがとうございました。
- 36 この度はありがとうございました。もう施設を退所している身なのでお話を聞いた際、とても心強く嬉しく感じました。大切にに使わせていただきます。
- 37 ギフトカード、マスク、除菌ウェットティッシュなどを送ってくださり、ありがとうございました。
- 38 施設を出た後も支援をしてもらいありがとうございます。
- 39 さまざまな面での支援、ありがとうございます。卒園しても気にかけてくれていることが嬉しいです。がんばります。
- 40 今回は大変な時期に物品を支援していただき非常に助かりました。支援してくれる人がいると再度実感することができました。ありがとうございました。
- 41 施設の人たちやボランティアさんのおかげで必要な物資を支援してくれたので、本当に感謝しています。

- 42 支援が届いてとても嬉しかったです。レトルト食品は苦手ですが、何かが届く、気にしてくれている人がいることが嬉しかったです。
- 43 お米がとても助かった。ありがとうございました。
- 44 たくさん支援ありがとうございました。
- 45 頑張って乗り切りましょう。
- 46 物品の仕送り、助かっています。ありがとうございます。
- 47 コロナで病院にいけなくて、バイトも減らされてお金がないのでバイトをかえなければならなくなった。施設にいたときコロナになっていたら、こんなに不安になってなかったのかなって思う。
- 48 ありがとうございます。すぐ助かりました。仕事頑張ります。
- 49 今回の支援品ありがとうございました。ありがたく使わせていただきます。
- 50 いつもありがとうございます。また顔出しに行きます。
- 51 withコロナの時代になるだろうと言われていて、仕事や学校に行くうえで大変なことが多いですが、頑張りたいと思います。
- 52 今回はこのような支援をしていただきありがとうございました。コロナに負けないようにがんばります。大変な状況が続きますが、少しでも早く復帰できるように願っています。
- 53 いつも心配してくれてありがとう。
- 54 特にはないです。
- 55 家族でお肉を食べました。本当にありがとうございました。
- 56 必要な物品を確保してくれるのがありがたいです。
- 57 施設を退所した人にも、コロナの影響を考えてくださり、本当にありがとうございました。皆様の支えを大事にして、これからも社会で活躍できるように、感謝の気持ちで取り組んでいきたいと思います。
- 58 たくさんの支援物資ありがとうございました。とても助かっています。
- 59 この度はご支援いただきありがとうございました。またお願いします。
- 60 ご寄付ありがとうございました。退所者にまでご支援ありがたいと思います。
- 61 5000円分ありがとうございました。
- 62 食品、マスク、クオカードありがとうございました。大切に使います。時々顔を出しに行きます。そのときはよろしくお願いいたします。
- 63 大変な時期ですが、これからも頑張っていきたいと思います。ご支援、本当にありがとうございました。
- 64 今回はありがとうございました。大切に使用させていただきます。
- 65 こんな風に送ってくださり、ありがとうございました。コロナにまけず頑張ります。
- 66 この度は、マスクとクオカードをご提供いただき感謝しております。大切に使用させていただきます。コロナが落ち着いたら帰省したいと思います。これからもよろしく申し上げます。
- 67 臨時の児童クラブはとても助かりました。
- 68 施設を出ていない人でも困っている人は沢山いると思います。ですが、やはり施設を出ている人はもっと大変な思いをしている人も多いと思います。今回のこのようなご支援は本当にありがたいと感謝しています。ありがとうございます。
- 69 これから頑張ります。
- 70 物品の支援、クオカード本当にありがとうございます。
- 71 今回のようなご支援をしていただきありがとうございます。卒園してからもうすぐ10年がたつので、園の卒園生や先生たちともあまり連絡をとらなくなってしまいましたが、今回手紙をもらって改めて今まで支えられてきたんだと思えました。今年の冬か来年か、感染が落ち着いたら帰ろうと思います。ありがとうございました。
- 72 沢山のマスクと商品券ありがとうございました。私の部屋は太陽の光があまり入らなくて洗濯物があまり乾かないので、乾燥機を買うのに使います。本当にありがとうございました。
- 73 ご支援いただき本当にありがとうございました。
- 74 沢山の物資と商品券を下さりありがとうございます。大切に使用させていただきます。
- 75 コロナに負けないように頑張ります。
- 76 コロナの対策を応援しています。自分も気を付けながら生活したいと思います。
- 77 ありがとうございます。大切に使用させていただきます。
- 78 物品等の支援ありがとうございます。
- 79 特にはありません。
- 80 児童養護施設で育った人たちに、こういった支援をしてくださってありがとうございます。
- 81 施設をでて十年近くたちますが、このようなかたちで卒園生まで支援していただきありがとうございます。とても嬉しいです。大切に使用させていただきます。
- 82 最近コロナで、よくも悪くも一人親に対してたくさんの方が目を向けてくれるようになりました。今までは肩身が狭い思いをしていたことが、こういった支援で生活に希望をもって自信をもって子どもと向き合えます。
- 83 いつもありがとうございます。

- 84 商品券ありがとうございます。とても嬉しいです。
- 85 本当にありがとうございます。大切に使います。
- 86 このような機会を頂きありがとうございます。
- 87 有難うございます。大切に使用させていただきます。
- 88 この度はありがとうございました。皆さまの活動を応援するとともに、私もできる限りのことをしていきたいと思っております。
- 89 困っていても自ら助けを求められないものです。困ることのない環境づくり、制度づくりが重要であり、助けの手を差し伸べるやさしい環境づくりも必要かと思っております。
- 90 このような支援があると本当に助かります。ありがとうございます。
- 91 施設を退所したにもかかわらずお声をかけていただきありがとうございます。私共にもできる支援がございましたらお知らせいただければ幸いです。
- 92 施設を退所した後も、このような支援をしていただき、本当にありがとうございます。まだまだ終焉していないコロナの時代ですが、自分にできることを行って、頑張りたいと思っております。皆さまもどうぞ自愛くださいませ。
- 93 ありがとうございます。
- 94 このような機会をありがとうございました！！
- 95 ありがとうございます。
- 96 特にないです。
- 97 この度はご支援ありがとうございます。健康に気を付けて勉強就労に励みたいと思っております。
- 98 遅くなってごめんなさい。本当にすみませんでした。
- 99 コロナで仕事はあつたけど、ありがとうございました。マスクがなくて大変でした。
- 100 支援して頂き感謝しています。生活の中で役立てていきたいと思っております。
- 101 商品券大切に使用させていただきます。有難うございます。
- 102 仕事が見つかるか、お金の不安があります。
- 103 ご支援して頂きありがとうございます。
- 104 この度は手厚いご支援をして頂きありがとうございます。
- 105 社会福祉法人をつくってくれてありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。園で教わったことを忘れずに仕事頑張っていきます。本当にありがとうございました。
- 106 しっかりと社会人らしい行動をとります。
- 107 支援していただきありがとうございます。
- 108 コロナで誰もが大変ですが、離れながらも皆さんと手を取り合っ、助け合っ、コロナの終息も願っ、また平凡な平穏な日々を取り戻せるように一緒に今日も頑張っいきましょう。
- 109 支援を受けながらこれからも頑張ろうと思っております。
- 110 いつも気にかけてくださりありがとうございます。おかげで楽しく生活できています。
- 111 今コロナの影響でお金（貯金・給料）が減りつつあり困っています。
- 112 コロナにかかわらず、施設を退園してからも担当保母さんと連絡を取り合えること、困ったときや、気持ちが落ちたときに話せる相手がいることにいつも感謝しています。家族と同様に大事な人だと今までも、これからも思っています。
- 113 退園してからもこのような支援をしてくださり、ありがとうございます。
- 114 様々なご支援を頂き感謝します。応援して下さる大人がいると知るだけで励まされます。
- 115 大切に使用させていただきます。
- 116 お米、ホットケーキミックス、マスク、アルコール除菌、キレイキレイのハンドソープ、アルコールスプレー、ありがとうございます。
- 117 物資ありがとうございます。大切に使用させていただきます。
- 118 ご支援ありがとうございます。これからも健康に気を付けて頑張ります。
- 119 多くの物品の寄付を頂き、有難うございます。頂いたものは生活の中で役立たせて頂きます。
- 120 大変ですが生きてます。
- 121 今回の支援をいただき助かりました。ありがとうございました。
- 122 コロナの影響が続くなかでこのように気を使っただけなこととても感謝しています。自分よりも親との関係性や社会的に置かれている立場がつかないなかで、声をあげることのできない方もいると思うので、寄り添っただけならと思います。
- 123 資金の支援だけではなく物の支援だけでもあつたらうれしい。
- 124 生きていれば艱難辛苦乗り越えなければならない、頑張るべ！
- 125 このたびは支援をしていただきとても嬉しいです。ありがとうございます。コロナに負けず頑張ります！！
- 126 物資の支援どうもありがとうございました。
- 127 お金ください。
- 128 支援いただきありがとうございます。
- 129 本当にありがとうございました。
- 130 マスクありがとうございます。

- 131 金。
- 132 クオカードは必要に応じて食品でも日用品でも購入できて良かったです。
- 133 就活に役立つ情報がほしいです。プラットフォームがあれば是非。
- 134 マスク、クオカードありがとうございました。大切に使用させていただきます
- 135 もっと寝たい！！
- 136 この度はご支援ありがとうございました。今回のご支援により、このコロナの騒動のなか、しっかりと生活できそうです。これからも頑張るのでよろしくお願いします。
- 137 毎度ご支援ありがとうございます。元気にやっています。
- 138 これからもこういった支援をお願いします。一人で何もできないときに、あの物品があれば、さくっと温めて食べられるので助かります。
- 139 ご支援ありがとうございました。コロナの影響で収入も減っていたので助かりました。
- 140 今回、このようなご支援をして頂きありがとうございました。
- 141 支援ありがとうございます
- 142 ありがとうございます。大切に使用させていただきます。
- 143 お金がほしい。
- 144 特にありません
- 145 今回のコロナの影響で本当に苦しかったので、この支援は助かりました。年2回ほどあると大変助かります。
- 146 今回の支援は大変たすかりますが、年にできれば2-3回支援いただけるとありがたいです。
- 147 人のために行動ができるのはすごいと思います。物品の支援ありがとうございました。
- 148 生活用品をありがとうございます。
- 149 ありがとうございます。
- 150 頑張ろうニッポン。
- 151 食料いただき助かりました。
- 152 ありがとうございます。
- 153 この度はコロナの影響があるにもかかわらず支援していただき、ありがとうございます。
- 154 生活に必要なものなどをいただき、ありがとうございます。みんな大変な思いをしていると思いますが、がんばっていきましょう。
- 155 ありがとうございます。
- 156 この度はご連絡ください物資の支援ありがとうございました。とても助かりました。皆さまも体に気を付けてください。1日も早く笑って幸せに過ごせる日常を送れますように。
- 157 今回、物品の支援本当にありがとうございました。コロナが流行し、生活のことや仕事の面でとても不安だったので、こういう支援が心の支えになります。
- 158 今回このような商品券5000円分ありがとうございました。私は今から一人暮らしをするので、その生活用品を購入したいと思います。本当にありがとうございました。
- 159 商品券ありがとうございました。生活資金として使用させていただきます。本当にありがとうございました。
- 160 今回食品など頂けてとても助かりました。ありがとうございます。
- 161 物品の支援とても嬉しいです。ありがとうございます。
- 162 ご支援ありがとうございます。
- 163 このたびはいろいろな支援をして頂き、ありがとうございます。頂いたものは、生活に役立てたいと思います。
- 164 支援して頂きありがとうございました。本当に助かります。
- 165 支援ありがとうございます。
- 166 物資ありがとうございました。すぐ助かりました。コロナに気を付けて仕事がんばっていきます。
- 167 できればお金がほしいです。
- 168 今回物資を支援していただき、本当にありがとうございました。沢山の方からの支援に感謝して、仕事も一人暮らしも頑張っていきます。
- 169 今回はありがとうございました。大切に使用させていただきます。
- 170 沢山の日用品、食品を支援していただき、ありがとうございます。こんなに沢山いただけると思っていなかったので驚きました。買い物にいく時間もお金もなく、そのなかでの支援だったので、とても助かりました。
- 171 本当に助かりました！ありがとうございます。
- 172 特になし
- 173 ご支援、ありがとうございました！
- 174 生活に使用させていただきます。ありがとうございます。
- 175 近年さまざまな理由で命を絶つ人が増えています。そのように大変な思いをされている方々が生きやすくなる社会になれば良いのと思いつつ過ごしています。そして、被害体験にあり、トラウマを抱える人、困っている人ほど「助けて」とSOSが出せません。SOSが出しやすい社会になりますように。

- 176 ギフト券ありがとうございます。減給と外出しがたい状況なので、ネットショッピングのギフト券はとっても助かります。大切にに使わせていただきます。
- 177 特にありません
- 178 多種多様な支援で助かっています。ありがとうございます。
- 179 今回ありがとうございます。大事に使わせていただきます。本当にありがとうございます。
- 180 体調に気を付けてお仕事頑張ってください。
- 181 退所してからも気にかけてくださり、ありがとうございます。数々の支援とても感謝しています。落ち着いたら顔だしにいきます。それまでお互いに健康には気を付けて乗り越えましょう。
- 182 今回このような支援をしていただきありがとうございます。あたたかい気持ちになりました。仕事もより頑張ろうと思えました。感謝しています。
- 183 さまざまな方々からの物品や支援の援助をいただき、大変助かっています。感謝申し上げます。
- 184 支援ありがとうございます。子どもの服を買わせていただきます。
- 185 保育園に子どもを預けて働きにいっているけど、子どもの体調が悪くなったとき「お家で自粛してください」と言われるとき困ります。良い支援を期待します。この度は本当にありがとうございました。助かりました。
- 186 将来のことを考えると不安になり淋しくなります。
- 187 お忙しいご時世のなか、支援の情報など、ありがとうございます。
- 188 働いていますが、社員で休みが少ないです。
- 189 日用品をありがとうございます。一人暮らしをするために物とかは自分で買っていますが、でも、一人で買うのもちよつとだけ困っています。
- 190 生活用品ありがとうございます。
- 191 頑張ります！！
- 192 東京は大丈夫ですか？まだまだコロナはおさまる気配はないですが、お体気をつけてください。
- 193 ありがとうございます
- 194 このようなアンケートは大変助かりました。大変な日々が続くとは思いますが、少しでも誰かの救いになればと思います。
- 195 ありがとうございます。
- 196 パラハラで仕事を辞めてしまい、今はアルバイトで生計を立てていますが、正直人生に迷いがあります。
- 197 マスク・アルコール類が必要。
- 198 とても助かりました。
- 199 この先コロナがいつまで続くのか子育てをしながら仕事を続けられるのか色々不安になることはありますが、こうやって連絡を頂いて支援して頂いて助かりました！そして嬉しかったです。
- 200 子どもがよろこぶ物を買ってあげたいと思います。
- 201 生き返ったような気持ちになりました。
- 202 東京ボランティア・市民活動センターの皆様、ゴールドマン・サックス社の皆様へ 今回このような寄贈を頂きましてほんとうに嬉しく思います。誰かが応援してくれていると感じれることは、次のステージで頑張る源になります。寄贈は大切に必要なもののために使わせていただきました。
- 203 心も物資の支援も助かりました。
- 204 大事に使わせてもらいます。
- 205 お金が欲しいです。
- 206 お金が欲しい。
- 207 頑張ります。
- 208 もうすぐ子どもが増える所だったので、とっても嬉しかったです。
- 209 大切にに使わせていただきます。また遊びに行こうと思います！！
- 210 何がしたいのか分かりません。疲れました。全てにおいて。以上です。
- 211 皆様今このような状況ですが、負けずにまた充実した日々に戻れるように頑張らましよう！！笑顔で！！
- 212 家族がいなくて自分が家族を作り、また失い、そしてコロナの渦中施設を退所している自分の支えにまたなったださり心から感謝しています。
- 213 この度は商品券を頂き誠に嬉しく思います。大切にに使わせていただきます。
- 214 特になし
- 215 このマスクで仕事を頑張ろうと思います！
- 216 大切にに使わせていただきます。あじさいとかえるのイラストがかわいいです。ゴールドマン・サックス社を応援しています。
- 217 特になし
- 218 コロナ情報をください、お金をください（商品券等）
- 219 おむつとミルクが欲しい 離乳食も。
- 220 本当に困る人もいる中でこのような支援があることで救われている人もいます。
- 221 お金があっても外に出れないと意味がないので物品があるとありがたいと思う。

- 222 施設から社会に出た人の多くは親の支援が受けられないと思います。このような不景気になると私自身含め金銭的に不安になります。
- 223 私はまだ学園を退所した人の中ではとても恵まれていると思います。でもきっと生活に支障があるくらい大変な人もいると思うので、そのような人たちにこの支援が届くことを願います。
- 224 今回はありがとうございました。助かりました。
- 225 今回はありがとうございました。
- 226 生活用品とても助かりました。改めて園の先生と連絡をとれてうれしかったです。
- 227 ありがとうございました。
- 228 私が卒園した2,3年後程に、施設から卒園生に物資の支援が始まり、その前に卒園した卒園生は物資を支援されていましてだったので、ずるいなあと思っていた中、コロナをきっかけに物資を頂けることになりとても嬉しく思います。
- 229 夏祭りとかがあればいいです。
- 230 キッズの子に僕らより幸せに育ててほしい。(いじめっ子対策 Tくん(例)笑) TさんとSちゃんに話したい。
- 231 それぞれの家庭や場所や業種によって被害総額や支援を受けたい所は違うと思います。しかし誰もがマスクたった2枚はいりません！
- 232 助かりました。
- 233 マスク助かりました。
- 234 マスクは老人ホームに届けました。
- 235 卒園後は本当に一人になった気持ちになるので、こういったご支援がすごく心の支えになっています。
- 236 コロナがなくなり、日常の生活に戻りたいです。
- 237 大変な日々が続いていますが、コロナに負けないように頑張っていきたいと思います。
- 238 今のところは自分の職場ではリストラ等は聞かないが、来年以降どうなるかが心配です。
- 239 (復学を考えてるので特に) 資金的な支援、食料品や消耗品等の支援がとても助かります。
- 240 施設を出た後の支援をしてくれるところはあまりないので、こういう支援があるのはとても嬉しいです。
- 241 園内でコロナが広がらなくてよかったです！！
- 242 今までお世話になりました。在宅により電車賃が不要になったため、収入が増えた。
- 243 なし
- 244 新型コロナの影響で様々な業務に支障があり大変多忙かと思われれます。ですが今回のような支援は精神的にも私たちの励みになります。これからもこのような素敵な活動を頑張りたいと願うと共に、いつかは自分も支援できる立場になれるように頑張ります！
- 245 たいへんなときやけどがんばりましょう
- 246 この新型コロナウィルスの状況下で不安な日々を過ごしていましたが、貴社のあたたかい心配りとても嬉しかったです。今回頂いた物品は大切に使用させていただきます。
- 247 すごく助かりました。
- 248 今回物品の支援をしていただき本当に助かりました。我儘ですが、国からの支援というものも数か月遅れての対応となり生活は非常に緊迫しています。なので今回の支援品大切に使用させていただきたいと思います。
- 249 今回はとても助かりました。もしまたあればよろしくお願ひします。
- 250 マスクがすごく助かりました。
- 251 ありがとうございました。
- 252 頂いた救援物資は大切に使用させていただきます。
- 253 物品の支援がとても助かりました。
- 254 子どもたちと頂いた予防セットで手指消毒手洗いがいをしっかりと、コロナにかからないよう気を付けていきたいと思ひます。
- 255 皆さんがコロナにならないように協力して乗り越えていきましょう！そのためにも毎日の手洗い、消毒、マスク着用は続けていってください。
- 256 特になし
- 257 施設を退所した人向けの支援があると嬉しいです。(施設を退所したからこそ受けられるもの) 孤独感がすごいです。相談する友人はいるものの、寂しさを埋められるのは一時的です。
- 258 ご支援ありがとうございました。これからも身体に気を付け、頑張りたいと思ひます。
- 259 定期的に物品の支援をしてほしい。
- 260 まだまだ支援が必要な方が沢山いると思ひますが、1人でも多くの人の力になれるようこれからもご支援頑張ってください。
- 261 ない
- 262 がんばります。
- 263 辛い時こそ、前を向いて笑顔で進みます。
- 264 皆さんも気を付けて過ごしてください。
- 265 何かありましたら学園と連絡取り合っているで大丈夫です。

- 266 大切に ব্যবせていただきます。
- 267 以前と違う状況で、普段なら気にならない少しいことに敏感になったり、精神的にこたえていたりするので、相談とか、話ができる環境があれば良いのかなと思います。
- 268 ありがとうございます。
- 269 お金が欲しい。残業がないから何割減ったかわからないけれど少なくてキツイ。
- 270 ない
- 271 今後もコロナの影響が続くと思いますが、職員の皆さんも体調管理に気を付け、子どもたちのために頑張ってください。僕も会社に少しでも貢献できるように頑張ります。
- 272 感謝。コロナに負けず頑張っています。一緒に乗り越えて行きましょう！
- 273 施設にいたことが可哀想とは思わないでほしい。私は施設に入っていたから、今の生活（自立）することができたし、いつでも味方でいてくれたのは、家族ではなく、施設の先生だったから。
- 274 施設を退所後、独身で頼る所もない人は本当に孤独を感じていると思います。そういう人に特に支援の手が差し伸べられるよう願っております。
- 275 頼れる親がない身からすると、今回の支援はとても暖かく、不安な日々を彩る出来事でした。今、悲惨なニュースも多い中、ちゃんと施設に入って生活することができて、私はとても幸せだったな、貴重な時間を過ごせたな、と思います。先生たちにはとても感謝しています。先生や子どもたちが健康に過ごせますように。返信が遅くなり申し訳ありません。
- 276 元気にやっているので心配しないでください。
- 277 施設での生活やお世話になった先生方の顔がうかび、とてもなつかしく嬉しい気持ちになりました。コロナの状況下で、先生方や子どもたちも大変な日常を送っていることと思いますが、お身体にはお気をつけください。
- 278 コロナ及び現在の難局に勝ちましょう。
- 279 施設出身の方の中には本当に困っていても頼れる人や相談できる人がいないような方もいるかもしれないと思います。いろいろな理由があるかもしれませんが、心のよりどころや一緒にどうしたら良いか考えてくれる人がいると心強いので、本人からの発信を待つだけでなく周囲からも声をかけてあげるような支援も必要だと思っています。
- 280 在宅による虐待が増えてしていると聞きます。近隣住民の名前も知らないような時代です。子どもの泣き声が聞こえてきただけで虐待と思う人や、どんなに泣いていても知らんぷりする人もいます。在宅人の多い今だからこそ近隣との少しいの情報交換、交流のきっかけになると思います。親だけが子どもを見るのではなく、その地域近隣で、みんなで子どもをみてあげることが大切だということを知ってもらえるような活動をしてほしいです。生活支援品ありがとうございます。
- 281 今回は様々な多くの食品をおくっていただきありがとうございます。これからも大変な日々は続くと思いますが、無理せず頑張っていきたいと思います。
- 282 私も含めて児童養護施設を退所した後、頼れる親、深い悩みを相談できる人が近くにおらず、経済的にも苦しい思いをしている方たちが沢山います。そのような中、今回のような支援があるのとないのでは大きく違います。なので今回の支援は本当に助かっており感謝しています。
- 283 カレーなどありがとうございます。とても助かります。
- 284 自分が退所した児童養護施設から食べ物やマスクなどの仕送りがあり、自粛生活を乗り越えることができました。みんな苦しい状況の中、私達のことまで気にかけてくれて支援してくれていつも本当にありがとうございます。
- 285 大切に使っていきます。
- 286 他にも申請できる奨学金が欲しいです。
- 287 使えました。
- 288 正直に言うと商品券を使用できる場所が遠くまだ使えていません。できれば現金の方がありがたかったです。
- 289 大変な日が続きますが、「生きる」ために毎日働きます。
- 290 このような支援が一つであると、「支えられているんだな」と思えます。卒園後もこのような支援があると助かります。
- 291 生活用品等送っていただきありがとうございます。
- 292 今回、食品の支援ありがとうございます。幼い子どもがいるので気軽に外に出ることも少し気が引けていたので助かりました。
- 293 このご時世に物資を下さってありがとうございます。とても助かりました。
- 294 おいしいものが届いて幸せです。ありがとうございます。
- 295 今回みたいな物資の支援はすごく嬉しいです、助かります。ありがとうございます。
- 296 よろしく願います。
- 297 コロナの影響が大きい飲食なので大変そうだけどがんばります。（月収の減少について）入社したばかりでわからない
- 298 月収について：インセンティブがなくなった。
- 299 欄外メモ：6月から仕事が少しはじまり、コロナ前の30%ぐらいの月収になった。その前は仕事がなかった。
- 300 この度は、このような温かい贈り物をして頂き、本当にありがとうございました。

- 301 退所生にも、色々と気を配って頂きありがとうございます。施設にいた頃にたくさん迷惑をかけたので、退所してからはあまり関わらない方がいいのかな？と思っていましたが、先生方が時々連絡をくれて娘の様子を見に来てくれます。忙しい中いつも感謝しています。恩返しとして、娘を立派に育てて見せます。ありがとうございます。
- 302 ありがとうございます。
- 303 マスクとクオカード、ありがとうございます。
- 304 施設の児童や卒園した人達と何か交流ができるイベントや場があるといいかなと思った。(レクリエーション的な)
- 305 性別欄の回答が男性・女性・その他と3つありLGBTの方に配慮されており素晴らしいアンケートだと素直に感心いたしました。ただその後の属性の間がおかしいと思いました。職業でよろしいのではないのでしょうか？このたびは、このような支援ありがとうございます。昨今では虐待や自ら命を絶ってしまう子ども達が多くいるなか、私達を育てていただきありがとうございます。今後も未来ある子ども達に夢や希望を与えてください。入所時は大変お世話になりました。
- 306 現金が欲しいです。よろしく願います。
- 307 お米すごく助かりました。ありがとうございました！
- 308 この度の支援ありがとうございます。
- 309 ありがとうございます。
- 310 ありがとうございます。
- 311 ありがとうございます。助かりました。
- 312 マスク、アルコール消毒とても嬉しいです。ありがとうございます。大切にに使わせてもらいます。
- 313 支援してくださるのであれば何でも嬉しいです。
- 314 本当に助かりました。
- 315 (働く前の月収について) 働く前なのでわかりません (月収の減少に関して) わかりません。
- 316 助かります。
- 317 親がいなかったり、家ででの生活が出来ない人がある世の中で、心にやみがある子どもや、仕事がない人たちにもっと支援をしてほしい。
- 318 大切にに使わせていただきます。
- 319 今回の新型コロナウイルスのワクチンの早期の開発。決してたやすい事ではありませんが、心より願っています。
- 320 私なにもしてないけど家によく不審者きます。なぜでしょう。困ります。
- 321 ありがとうございます。
- 322 少しでも支援があるだけでもとても助かります。ありがとうございます。
- 323 施設職員の皆様も体を大切にこれからもコロナに負けず頑張りましょう。
- 324 生活用品等ありがとうございます！！
- 325 支援が届きました。ありがとうございます。
- 326 現在は別の職場なので、収入は戻りました。
- 327 お世話になっております。施設を卒業したのにも関わらず、支援ありがとうございます。このご時世でございます。何卒でご自愛のほどお願い申し上げます。
- 328 食べ盛りなうえ、中3、中2、小2と3人の子供がいます。東京でもまだ感染者が落ち着かない中、こうした形で徐々に先生たちと関わる機会も与えていただきました。励みになりました。
- 329 食料品の寄贈、とても助かります。ありがとうございます！！
- 330 貧困ながら耐え抜いていくのが精一杯です。
- 331 食料品の寄贈、とても助かります。
- 332 ありがとうございます。
- 333 卒業生まで気にかけてくれて、ありがとうございます。
- 334 なし
- 335 この度は生活用品や食品等を送って頂き、本当にありがとうございました。アルバイトも無事に始まりましたが、学費のこともあるので本当助かりました。なんとかコロナがおさまるまで節約しながら頑張ります。
- 336 特にないです。
- 337 資金や物品(マスクなど)いろいろな支援をして頂きありがとうございます。
- 338 アルバイトも無事に始まりましたが、学費のこともあるので本当助かりました。なんとかコロナがおさまるまで節約しながら頑張ります。
- 339 貴重な食料を送っていただき本当にありがとうございます。
- 340 特になし
- 341 ありがとうございます。
- 342 ありがとうございます。
- 343 給料も減ってボーナスも出なかったのこれから産休育休が不安(金銭的)。
- 344 緊急事態宣言になったけど、STAYHOME！！気を緩めずしっかりウイルス対策しましょー！！大丈夫おれたちは強い。

- 345 助かりました。ありがとうございました。
- 346 支援物資を送っていただきありがとうございました。とても助かっています。
- 347 要望が多くなってしまい申し訳ありません。ご検討の程よろしくお願い致します。
- 348 この度は、物品の支援ありがとうございました。
- 349 マスクや石けん、その他たくさんいただきありがとうございました。
- 350 今はコロナで大変な時期ですが、みなさんが団結してこの危機をのりこえればなと思います。お互いがんばりましょう。
- 351 今回はたくさんの方の支援おくり物、本当にありがとうございました。施設の先生方には本当に感謝しています。施設で育ち良かった施設生活は幸せでした。
- 352 ないです。
- 353 この度はこのような支援をして頂きありがとうございました。
- 354 支援ありがとうございました。助かりました。
- 355 ないです。
- 356 ご支援ありがとうございます！大切に使用させていただきます。
- 357 いつも支援していただきありがとうございます。
- 358 パソコンほしい。
- 359 アフターフォローなど支援がもっとされる事を願っています。
- 360 お気にかけて下さり、ありがとうございます。
- 361 マスクありがとうございました。高価なものなので助かりました。
- 362 お手紙ありがとうございました。近々家族で顔を出しに行きます。先生方も大変だとは思いますがお身体大切にしてくださいね。
- 363 食料品、日用品を送って頂きありがとうございます。
- 364 ありがとうございます。助かりました。
- 365 色々コロナの影響で厳しい世の中になってきましたが、お互い日々頑張りましょう。
- 366 マスクや食料品助かりました。ありがとうございました。
- 367 今回はこのような支援をいただきありがとうございました。幸いにも衣食住で困った状況はありませんが、嬉しかったです。退所したOB・OGの中には困っている人もいますので、引き続きご支援いただけると嬉しいです。ありがとうございました！
- 368 物品の支援ありがとうございました。
- 369 この度は卒園した私達に温かな手を差し伸べて下さり、ありがとうございました。コロナで苦しい中でもなんとか頑張っていると思うことができました。本当に、本当にありがとうございました。
- 370 ありがとうございます。
- 371 食品がもらえてうれしいです。
- 372 今回のコロナの影響で支援していただけてすぐ助かりました。ありがとうございます！！
- 373 コロナウイルスによって生活が困難になっている人に一時金として数か月分の生活費等を貸出するようなこと。
- 374 いろいろ物資をありがとうございました。
- 375 ご支援いただきありがとうございます
- 376 衛生用品等をプレゼントしてもらい、ありがとうございます
- 377 ありがとうございます。コロナ禍での必需品の支援ありがとうございます。
- 378 こういふ経済状況なので自分もコロナが影響していますが、周りもみんな厳しい状況だと思うのでまずは自分の力でできることを頑張っていきたいと思います。
- 379 職員さんと信頼関係をそこまで作れていない卒園生は特に、サポートしてあげてほしいです。自分からSOSをおくれずに、強がって、何かとにかえしのつかないことをしてからでは遅いです。
- 380 わりと元気でやっているの、特になし
- 381 今回はご厚意に感謝しています。本当にありがとうございます。
- 382 雇ってくれる会社があったらおしえてください。
- 383 色々なお気遣いありがとうございます。
- 384 いつも助けられています。本当に感謝しても足りません。これからもたくさんの方の未来ある子たちの助けになると思います。よろしく願います。
- 385 いつもありがとうございます。
- 386 大変な時期ですが、皆様もお身体を気を付けてください。
- 387 生活用品、支援ありがとうございました！大切に使用させていただきます。
- 388 ご支援本当にありがとうございました。
- 389 まだまだ落ち着かない生活ですが、前向きにやっていきたいと思います。
- 390 特になし

- 391 この度は大変ありがたい支援をありがとうございました。私はありがたいことにコロナの影響で大きな打撃を受けたわけではありませんが今後また第二波がきたときに何があるかわからないので、大変助かりました。
- 392 現在、新型コロナの影響でマスクがないと大学に入ることができません。たくさんマスクありがとうございます。これからも夢に向かって勉強頑張ります。ご支援ありがとうございます。
- 393 マスクの寄付をして下さり、ありがとうございました。大切にに使わせていただきます！
- 394 マスク、除菌スプレー、シートありがとうございます。子供と一緒に大事に使います。やっと子どもの学校が始まったので、マスクやうがい手洗い、除菌などして、やっていこうと思います。
- 395 この度はせんぶうきを下さりありがとうございました。助かりました。またよろしく願います。
- 396 特になし
- 397 特になし
- 398 特になし
- 399 ゼリーとQuoカードありがとうございます。
- 400 ご支援本当にありがとうございます。救われます。
- 401 (月収に関して) 最近仕事を始めたばかりなのでわからない。
- 402 生活資金ください
- 403 コロナがかわってほしい。
- 404 入所しているときは、人の目を気にしすぎて相手に合わせていた人生でしたが社会人になり後悔しない生き方、精神的にも強くなれた気がします。一日一日大切に過ごし、幸せな人生を送っていきます。たまには顔を見せに行けたらなと…。
- 405 回答・返送までもう少し時間的にゆとりがあると助かります。
- 406 ありません
- 407 ありがとうございます。
- 408 現在の状況を聞いてもらえるだけでもありがたいですが、社会的養護が必要な者にもっと支援があれば良いのにと切に思います。
- 409 特になし
- 410 全国で就労困難者が出ている中で、「生活が厳しい」と声に出しづらいますが、貯蓄もないのでそうも言ってもらえないと思います。何卒宜しく願ひ致します。
- 411 ありがとう。
- 412 弱音を言いたくなるような日々ですが、コロナに負けないよう一生懸命頑張ります。
- 413 これから先が見えん。毎日不安との戦い。
- 414 今回の支援ありがとうございます。コロナで皆が大変だと思いますが、QUOカード本当に助かります。食事などに使用し、少しでも食費の足しになるよう大事に使わせて頂きます。
- 415 新型コロナウイルスが東京中心に多いので落ち着いてほしいです。
- 416 コロナがおさまるまでこういった支援をしてほしいです。
- 417 QUOカードありがとうございました。
- 418 ありがとうございます。
- 419 本気で助ける気ある？！
- 420 お金が欲しい。
- 421 特になし
- 422 アンケートを実施してくださってありがとうございます。お身体には気を付けてくださいね。
- 423 ご支援ありがとうございます。温かいお心づかい大変うれしく思います。
- 424 いつもご支援いただき誠にありがとうございます。今後とも未永くお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。
- 425 私は招来に向けて考えていく中で他人と比べて劣等感を抱いてしまうことが多々ありました。たくさんの方々に支えていただき、なんとか進学することができました。全国には進学をあきらめ就職した子どもも多いと思います。そんな子供たちがすこしでもいなくなるように自分自身も何か力になりたいです。今は学生で夢に向かっての途中ですが、いつかは立派な大人になって何か力になれたらと思っています。とにかく今は夢に向かって頑張ります。
- 426 この様な支援制度を計画し、行動に移して下さった全ての方に、感謝しきれません。本当にありがとうございます。/職場が他県の為、職場付近の知人の家に滞在し、移動を減らしている。/休みがなくなつたので、収入はあるが(普段よりも多い)うつ病悪化。どの観点でみるか次第なのでなんとおえない。
- 427 ありがとうございます。
- 428 特にありません。
- 429 高校生の頃は、職員になまいきだったけど、何だかんだ感謝でいっぱいです。もういないけど、Sさんに会いたいです。おおりに行くとき、Oさんにも会いたーい。
- 430 具体的に内容の説明をしたので代わりに施設職員が代筆しました。
- 431 新型コロナウイルスの終息を願う。少しでも、幸せ~という気分を味わいたい。

- 432 就労移行支援施設がとても嫌です。退所したいのですが、帰る場所も頼れる人も私自身の力も無いので、現状3月から何も変わりません。看護師の資格を持っていても働けません。これは仕方のないことなのですか？やはり生きていくのが辛いです。一人ぼっちになって誰とも連絡をとれず、生きる意味を見失いそうです。
- 433 生活用品をありがとうございます。とても助かりました。新型コロナウイルスにより、休みの日も家で過ごしていますので、支援してもらってとても嬉しく思っています。
- 434 この度はこのようなあたたかいご支援を下さりましてありがとうございました。コロナに負けず今後も頑張っていきたいと思えます。
- 435 マスクとかありがとうございます。
- 436 新型コロナウイルスの感染拡大によって在宅ワークを推奨する企業も多くなってきました。外出する機会が少なくなって非常にストレスが溜まると思いますが、こういう時だからこそ自宅で様々な事に挑戦していきたいですね。
- 437 今回はすてきな物品の支援をして頂きありがとうございました。今後何かあるかわからない世の中ですので、大事に使わせて頂きます。互いに体調に気を付けて、困難者の皆様のご支援頑張ってください。また、ずっと考えていましたが、教育係の仕事に就きたいと思えたので、今後またお伺いさせていただきます。
- 438 皆さんもコロナに気を付けてください。
- 439 コロナに負けず共に頑張りましょう！！
- 440 こういう支援は本当にありがたいです。ありがとうございます。
- 441 支援助かりました。
- 442 特になし。
- 443 支援金（施設独自で行った支援金）や、マスク、アルコールなど、たくさん支援していただきありがとうございます。おかげで安定した生活をおくれています。
- 444 支援ありがとうございます。段ボールの中身も勿論ですが、愛を感じとても嬉しいです。今社会人として働いていますが施設にいたということを誰にも明かしていないので（職場で）困ったときに頼れる人がいませんでした。ですが今回この支援で私は一人じゃないんだと実感しました。
- 445 BLUE GIANTっていう漫画が面白いのでぜひ読んでほしい。
- 446 お金が欲しいです。
- 447 今年国家試験の年だが、勉強するところがなく困っています。市の図書館や学校が自由に使えるようになってほしい。自分の家だとWIFIがあり、勉強に集中できない。
- 448 今回ウエットティッシュやマスクを頂けて、とても嬉しかったです。ちょうどマスクを買わなければいけないと思っていたのでご助かりました。皆さんもコロナだけでなく、何事にも十分に注意して、お仕事頑張ってください！！
- 449 物品支援ありがとうございました。
- 450 物品の支援、ありがとうございます！！コロナで異例尽くしなので大変ですが、頑張ります！！
- 451 ご支援ありがとうございました。
- 452 給付金みたいなお金がほしいです、定期的に。
- 453 物品の支援ありがとうございました。家族で消費するものなのでとても助かりました。
- 454 ありがとうございました。助かりました。
- 455 希望は特にはないです。親の様に思ってるし、特に親と変わらないから、むしろ親より親。今まで愛を頂いたので返していきたいと思っています。先生と子供って関係のなかである意味「ふつうの家庭」より大変なことはあったやろうなって今になって先生たちの偉大さを感じます。子どもの頃は、かんたんな仕事のくせにとか言っただけで先生たちすごいです。ありがとう。また会いに行きます。
- 456 園を退所してからは、今回の物資等の支援がなかったので、物資が手元に届いたときは本当にうれしかったです！！なので少しでも園との関わりが出来るようなイベントがあったりするの嬉しいかなと思います。退所した子供が一年に一回会える場を設けてもらうなど…！！
- 457 日用品などたくさんのお物を送って頂きありがとうございます。大切に使用させていただきます。
- 458 ご支援ありがとうございます。
- 459 ありがとうございました。
- 460 今回たくさんのお物の支援をしていただきありがとうございました。このように色々と考えてくださっていることに感謝しております。私は、その気持ちだけでとてもうれしいです。
- 461 ご支援いただきありがとうございます。
- 462 もっと生きやすい世の中になればいいと思う。
- 463 いつも困ったときは施設の職員さんに相談が出来て助かっています。
- 464 ありがとうございます、心より感謝いたします。
- 465 この度はこのような機会を下さりありがとうございました。
- 466 ご支援ありがとうございました。
- 467 こうした支援で救われる人がいるので、嬉しい話です。人が幸せや感謝を受け取れるようなマインドセット、心の探求をして自分はもちろん、人々に生かせるよう精進していきます。
- 468 施設の方も大変だと思いますが、これからも園の職員の方々、児童のためにもがんばってください。
- 469 なし

- 470 ご支援いただきありがとうございました。
- 471 クオカードありがとうございました。
- 472 クオカードありがとうございました。大事に使います。コロナ感染拡大が止まりませんが、これ以上感染が広がらないこと、感染した方の一人でも多くの命が救われることを願っています。医療従事者の方ファイト！！
- 473 クオカードありがとうございました。今は親の関係で施設にいけませんが、相変わらず元気です。
- 474 友達と遊びに行きたい！！今よりも多く。コロナがなくなって、今よりも快適に遊んだり、もとの施設に行ってみたい、それも友達と。
- 475 前例のない事態で大変かと思えます。わたしたち施設出身者は、ある程度大人なので、そこそこ大丈夫です。ぜひ今いる施設の子どもたちに寄り添って、支えてあげてください。どんな子どもでも、心の支援は必要だと感じています。これからも陰ながら応援しています。
- 476 自分はいま困ってはいませんが、他の方たちは、いろんなことで困ったり、不満を持っている人が沢山います。その方たちには、支援や援助をしてあげてください。特に資金的な支援は、必要な方が沢山いると思います。学生はとくに必要です。
- 477 よろしく願いいたします。
- 478 今後ともよろしく願いいたします。
- 479 生活用品や食料をご支援いただき、ありがとうございました。

ワールドマン・サックス様

拝啓

この度は児童養護施設退所者への緊急支援をしてくださり、ありがとうございました。コロナ禍で仕事や日常生活全てがままならず、体面や精神面にも影響を及ぼし、苦しい日々の中で、非常に大きな励みとなりました。

いただいたお金は、家賃や携帯料金、布民統、国保、それから長引いた今年の梅雨によりカビがまみれに陥ってしまった家具の安い管を穿に保らせていたに過ぎず、家計を圧迫していた支払いの滞りなどにより、長い間ですべてはかたに滞りもできず、それにより自分の病状も知りこもできませんでした。

戦後最悪の経済状況と告げられている中、この先どうなっていくのか全く想像ができませんが、暗闇の中手を差し伸べてくださる皆様のおかげで、皆様への感謝の気持ちをお伝えでき、乗り越えていきたいと思います。本当にありがとうございました。

敬具

GSアクトリー・プロダクトの皆様へ

この度は、緊急支援金を頂き、本当にありがとうございました。施設の先生から連絡をもらい、申請をしていただき、お返しありがとうございました。

個人の自由な生活を送ることに、自分一人での生活をしていかないとはいけないう状況で、仕事も人間関係もやめ、一時期長期休んでいました。ただ、これをどういけばいいかと思いつき、仕事を辞め、働き始めました。

このタイミングで施設の先生に電話を聞いていただき、親身に聞いてもらいました。本当にこの支援金が本当にありがたかったです。

ワールドマン・サックス様

この度は、食品の支援のみでなく、このように形での支援までしていただき、本当にありがとうございました。

こちらの話を聞いた時、私は仕事も休んでしまった。上司の暴言、暴行が休館後悪化し、耐えきれず、お休みの為、精神的にも、まだ余裕があまりありません。今日支援をいただき、妹にはお礼の言葉をいれたいです。余裕をつくれたいです。

私のサポートに書いておいてくださり、本当にありがとうございます。

本当にありがとうございます。お礼の言葉をいれたいです。

東京水二二アアセター

山崎 美貴子様

この度は厚かましくお礼を申し上げます。心の子ももも二人抱えながら
難关と云っても少なく、この中で収入も減り、いつ感染
あるかも感染してもしょうかもしれない、ごも働かないと
生きていくことが出来ないと、日々も増えしなからととも
不安な日々を過ごしてました。もちろん私だけじゃ
ない、ごも十人おれりますが、今回百もな機会も頂けて
嬉しく思います。山崎様も木家様もお住事お様様さま
お身体に気をつけてください。私も誰かの何の役にたてること
したいとも思っています。悲しい苦しいことにはお悩んで
しますが、私から厚かましくお礼を申し上げます。

拝啓

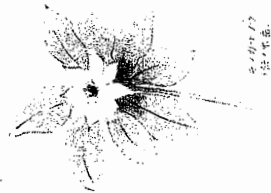
秋晴の候、皆様におかれましては、お忙しい中を爽やかな季節を満喫な
ているのではないだろうか。

さて、この度は、過分なお礼をいただき、誠にありがとうございます。バネ御礼
を申し上げます。コロナウイルスが流行し人と会うことも行動も制限され終わりの
見えな現状と不守がある中、私達のように帰る家のない人々の支援があると知らせて
いただき、支援を受けさせていただけることになりました。生活のゆとりにもなり気持ちのゆとりにも
なります。人の優しさに触れこれからは精進して生きようと思えました。

誠にありがとうございます。

敬具

東京水二二アアセター 山崎 美貴子様



拝啓 両ばかり続く上に、災害や感染症のニュースばかりの毎日は、本當に心も身体もまいりがちですが、ゴールドマンサックスの皆様・東京ボラランティア市民活動センターの皆様にはいかにおお過ぎしてしまふか。この産は、大変温かいご支援を頂戴しありがとうございます。思いがけないお声掛けに、飛びつかせていただきました。

当園では、お恥ずかしいことですが、退園生への動きを間違えたのは5年前からでした。それまでは、職員が個人的にメールなどのやり取りこそしていましたが、発報としては退園生から電話があったり、園に遊びに来た時に話しをすすくるくらいでした。つまり、何もしていませんでした。

さすがにまじいと考え、年賀状を出したのが始まりでした。

年賀状の少し後です。四十を過ぎた退園生から「K男が死んだの知ってる?」と電話がありました。もちろん知りませんでした。「先日特急に乗っていたら、偶然車内でK男の姉ちゃんに会ったさ。K男は無気?」って聞いたら、佐さだしてさ。ついこの間、K男が白血で死んだって話してくれて、びっくりして電話しただよ。」とのことでした。

K男とK子は、小学高学年で家庭引取りになった姉弟です。通常、その年代で家庭に帰ると、自然に連絡が取れなくなるものです。しかし、その姉弟の母親は、園に感謝をしながら姉弟へ常に話をしていたよう。2人とも成人式の晴着を見せに来てくれました。24歳の彼は、暑さからか病気の進行も一気だったよ

うで、染病から3ヶ月で逝ってしまっただのことです。自分達は一体何をやって来たんだろうと、この件で自問自答しました。目の前にいる子ども達のこととで精一杯だからと、結局は自分に言い訳をして来たのに過ぎないのだなと思えました。普通に通になつた訳でも無い退園生の死を、知らなかつたことを恥じました。

彼の死に背中を押される形で、誕生カードを送ることにしました。この世に生まれて来てくれたありがたうと。母省先の無いうちもいることから、お盆に手作りの料理を用意した交流会も開催しました。それらを始め改めて分かりました。何もして来なかつたことが明確に数字にも出て来たのです。誕生カードを送るのにも、交流会の招待状を送るのにも、判明していただいた住所がわからずか、30名にも満たなかつたからです。

第1回目の交流会で、先ほど書いた四十代の退園生からは「さきよね。」と。ひたすら謝るだけでした。

その後毎年、誕生カードを送っています。結構な数の子から「ありがたう。」と連絡が来ます。

お盆の交流会の参加者は、最初の年は退園生12名に家族4名でしたが、去年は退園生23名に家族13名増え、皆勤賞も子もいます。園の懐かしい味と懐かしいメンバーに、昔の映像などもプロジェクターで写し楽しい時間を過ごしています。(今年度は残念なことに中止です)

その脇には、いつも写真が置かれます。成人式の晴れ着を見せに来て、K男です。はつきり覚えていて。今の園舎を建て替えたての年の「成人の日」

てした。その頃は飯の園会にいましましたので、トイレのようを粗末な緑色のスリッパをはかせ「こっちらにきて。ほらここと見て。笑って！」と記念写真を撮った時のことを。又求一ツマンだった彼はひげ面です。それが、それが妙に似合うりりしきさで、ステキな笑顔を浮かべてくれまじった。素敵を彼の笑顔とスツツと、そして、それらと実に不釣り合いなスリッパが異様に目立つて写真でした。

それが、結果的に遺影になつてしまつたのです。彼は今、園長室の棚に上げて静かな笑顔を見せてくれています。お盆の交流会の時には、すまなかつたど、朝から死になつて作つた料理を並べて手を合せています。

後悔してはいたはずでした。もう緑リ返さなない一つもつてした。しかし、今回のプロジェクトで、再び自分達の至らなさを思い知りました。

コロナは、当園にとつても言葉では表現できなないほどの破壊力をもつています。2月下旬から動きを開始し、3月の頭には検閲を開始しました。その後、園や果からの発出文書を読みこみ（現時点で100回は復元に起えまじつ）、様々な資料を探し読みました。職員・子どもにも用に発信する資料を作成し、多くの表を作成し、すでに200ページを超え、仕事の9割ほど感症症対応の責任者の私にとつては、仕事の9割ほどにもなつていました。ストレステで乱暴な言動を頻繁に起こす子ども達には、今日の夕方4時頃までには文書を作成するなど…追い詰られ時間と戦う日もありません。他に顔が回らなくなつていた時に、今回のお話を頂いたのです。

退園生のことは忘れていた訳ではありませぬ…のつもりでした。実際、一部の心配を子には、どんな様子かメールでは確認してしまいました。しかし、あの時と同じでした。コロナを言い訳にしていたのです。

頭を殴られたような衝撃に、コロナ対応は一時的に脇に置き動きました。宅配便はなるべく使わない、願を見ながら譲り、20名の退園生に連絡を取り、半數以上の顔を見ることができました。

なぜ、これをしなかつたのか。考えて来なかつたのか。当然ながら、施設には選立ししても退園生のための予算（退園後1〜2年間は予算が出ます）は無いのですが、それも言いたのでしよう。こんな顔を見ることが嬉しいのなら安心できると、何とか工夫はできなかつたのか。これからはどんなに大変な時にも、頭を使おうと。

派遣で生活をしていた退園生に「8月半ばまで仕事は無い。それまでは、何の仕事をしていても構わない。その間、6割の補償はする。」と言わせた子（退園生同士のカツプル）もいました。次の給子が手に入るのは、9月（後に早まりました）になり、正味3ヶ月間、家賃と光熱水費・スマホ代程度の収入しかありません。プロジエクトで用意していたいた食料品に加え、もしかしらと園にもらつた非常食も持って行きました。プロジエクトの品物を少しそうにのぞき込む2人に「非常食もあるけど、嬉しい？α米とか、あんまり美味しくないと思っけど…」と話し、何が、「何でも欲しい。嬉しい。」と一通りの物を望みました。余程嬉しかつたのだと思いません。彼らからだけ、お礼の手紙が届きました。自分達は半

アフター支援報告書

令和2年7月10日

家庭支援専門相談員

令和2年7月9日 11:30. 宮崎市内で就労している卒園生の勤務が休みの日に、在園時に担当だった職員と家庭支援専門相談員が訪問する。卒園生のマンションの玄関で待ち合わせ、卒園生の希望したハンバーグ屋さんと一緒に移動し、屋敷をとりながら近況を語り合う。

在園時の思い出話や妹（在園児・中1）のことや、職員や他児の話を主に行う。一人暮らしを始め2年目。「困ったことはない?」の質問に「ありません」と言い、頼もしさを感じながらも、心配をかけてはいけないと遠慮しているようにも感じる。「県外に就職することも可能であったのになぜ県内に就職したの?」と聞くと「妹（在園時にはそれほど深い絆は感じさせなかった）がいるから県内って思っていた」と初めて心の内を知ることが出来た。

「園のご飯で何が一番食べたい? 何かしい?」の質問には園の厨房職員が作った料理名ではなく、一緒に夕食を共にしていた職員が作った「キムチスープが食べたい」と意外な答えが返ってくる。家庭的な雰囲気の中で職員が手作りする場面を見ていたこと、好きな職員が作ってくれたスープというところが大きいように感じた。スープの作り方は当時教えていたのだが、自分で作って食べるというところまでは出来ていないようであった。

食後、今の生活で不足している物を聞き、一緒に買い物を行った。普段自転車を利用してゐるため、持ち運びに大変なトレットベーパーや重い物を選んでゐる。また衣料品店しまむらで下着やTシャツなども購入した。「助かります」と言い喜んでゐた。

短い時間ではあったが、仕事に就き自分の力で生活をしている事や、妹を気遣う言動、職員への感謝の気持ち等聞くことが出来た。

折しもニユースでは児童養護施設出身の24歳の母親が子どもを置いたまま8日間放置した事件を報道していた。いつまでも何らかの形でつながりを続け、何かあったらすぐに相談できるような関係性を維持することの大切さを痛感した次第である。

今回十分すぎる支援を頂き、有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございます。このような機会を与えていただき、子どもも職員も感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

拝啓 時下ますます、清栄のこととお慶び
申し上げます。新型コロナウイルスの影響から
新しい生活様式を暮らすの中心に取り入れ、生活
をしようとする中、連日感染者が三桁を
超えている状況に子どもたちの生活を守る私
たちの不安は拭えない状況です。
さてこの度、ゴールドマンサクス支援事業
児童養護施設、退所生へのサポートが
ラスト退所生への緊急支援の対応として
頂き誠にありがとうございます。
コロナの影響が退所に子どもたちに大きく

のしかり、癒はくなく、さまり、気持ちから
前以生活が十分に送れない子供は様々あり
アタリアタの対応もして、経済的な
支援が難しく、この助成金はほんの子どもに
とって支えとなると思っております。
今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

敬具